

気象情報に関する利活用状況調査

報告書

平成 30 年 3 月 16 日

気 象 庁

気象情報に関する利活用状況調査

報告書

目次

要旨	1
----	---

第1 調査概要

1 調査目的	2
2 調査方法	2
3 集計・分析の記述について	3
4 調査結果の概要	4
5 まとめ	10

第2 調査結果

1 天気予報	12
2 台風情報	27
3 大雨警報等	44
4 緊急地震速報	61
5 気象情報の入手手段	84
6 安全知識の普及啓発	99
7 気象情報の比較	105

第3 巻末資料

1 調査票	111
2 調査対象割付	119

要 旨

本調査は、国民の皆様（2,000人）を対象に、天気予報、台風情報、大雨警報等及び緊急地震速報の利活用状況、並びに、安全知識の普及啓発への受け止め方を把握し、的確な気象情報の提供に資することを目的として、アンケート調査を実施したものである。

本調査の要旨は以下のとおり。

・ 認知度

有効回収数（2,000人）に対して、台風情報、大雨警報等（大雨注意報、大雨警報、土砂災害警戒情報）及び緊急地震速報の認知度はそれぞれ92%、93%及び94%であった。緊急地震速報は、平成23年度調査の87%と比較して7%上昇した。緊急地震速報の運用開始から10年が経過し、情報の発表の積み重ねや普及啓発活動により、認知度が向上したと考えられる。なお、本調査において、天気予報は認知度を調査していない。

・ 利用度、役立ち度

有効回収数（2,000人）に対して、天気予報、台風情報、大雨警報等及び緊急地震速報を「知っていて、見聞きし、行動した人」は、それぞれ93%、88%、81%及び67%であった。また、「知っていて、見聞きし、行動した結果『役立った』または『やや役立った』と回答した人」は、それぞれ92%、85%、78%及び55%であった。数値の差異は、情報の発表頻度及び対象地域の広さが影響していると考えられる。また、緊急地震速報は、情報発表からの猶予時間が他の情報と比べて極めて短いことも要因と考えられる。

・ 期待

天気予報、台風情報、大雨警報等及び緊急地震速報のいずれも、予測精度の向上に対する期待が高かった。今後とも、国民の皆様の期待に応えられるよう、予測精度向上に努める。

・ 利用意向

有効回収数（2,000人）に対して、天気予報、台風情報、大雨警報等及び緊急地震速報を「参考にして行動したいと思う」及び「どちらかといえば参考にして行動したいと思う」との回答率の合計は、それぞれ95%、95%、94%及び94%であった。一方、「見聞きしたが、いつも何もしなかった（できなかった）」と回答した人（2%～11%）は、今後、情報を「参考にして行動したいと思う」及び「どちらかといえば参考にして行動したいと思う」という今後の利用意向が全体と比較して低かった。利用意向の低い理由の更なる調査や、これらの方々への適切なアプローチの検討が必要である。

・ 入手手段

有効回収数（2,000人）に対して、天気予報や大雨警報などの気象情報の入手手段は「テレビ」が87%、「ウェブサイト」が47%、「スマートフォンアプリ」43%で上位を占めた。単純な比較は難しいが、「スマートフォンアプリ」の43%は、平成26年度調査の類似した設問における「携帯電話（スマートフォン、PHS、PDAを含む）」36%を上回っていた。今後とも、的確な情報提供の改善に資する基礎資料として入手手段を継続的に調査する。

・ 安全知識の普及啓発

有効回収数（2,000人）に対して、気象庁が気象や地震などの自然現象に対する安全知識の広報・普及に関する取り組みを行っていることを「知っている」との回答は43%であった。引き続き、地域全体の気象防災力の向上に向けて、関係者と一体となった気象情報の普及・啓発活動に取り組む。

第1 調査概要

1 調査目的

気象庁では、平成13年度から国民の皆様や地方公共団体等の気象情報の利用者を対象としたアンケート調査を実施し、業務の改善に努めている。

平成29年度は、国民の皆様を対象に、天気予報、台風情報、大雨警報等（大雨注意報、大雨警報、土砂災害警戒情報）及び緊急地震速報の利活用状況、並びに、安全知識の普及啓発への受け止め方を把握し、的確な気象情報の提供に資することを目的として、アンケート調査を実施した。

2 調査方法

1) 調査対象

全国に居住する20才~79才の男女

2) 調査方法

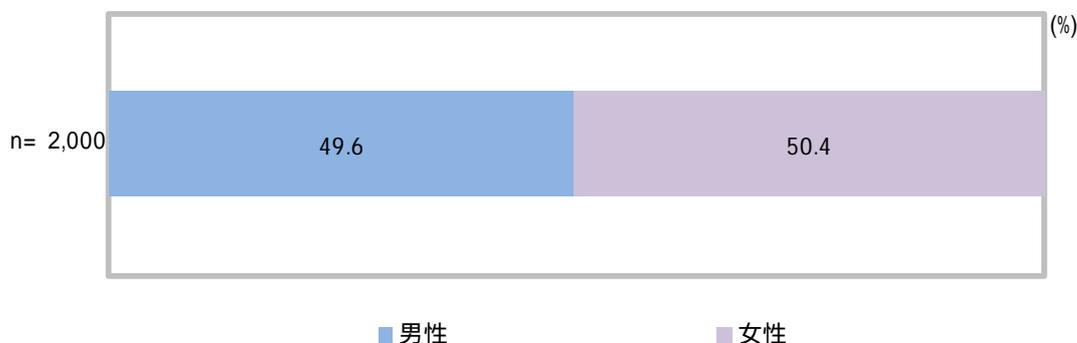
インターネット上のWEB画面に用意した質問に回答する方式(WEB調査)

3) 有効回収数

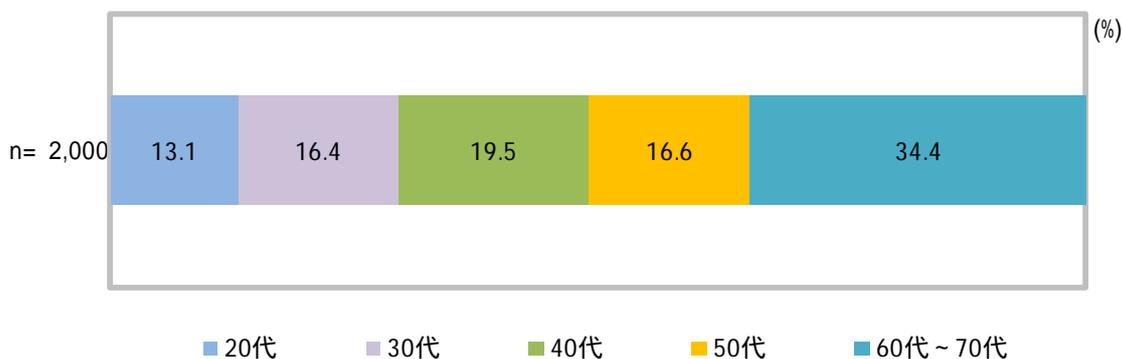
有効回収数：2,000人（案内送付数：44,223人）

性別、年齢、居住地の分布は、平成27年国勢調査 人口等基本集計の人口分布に基づき、割付。回収数は次の通りである。

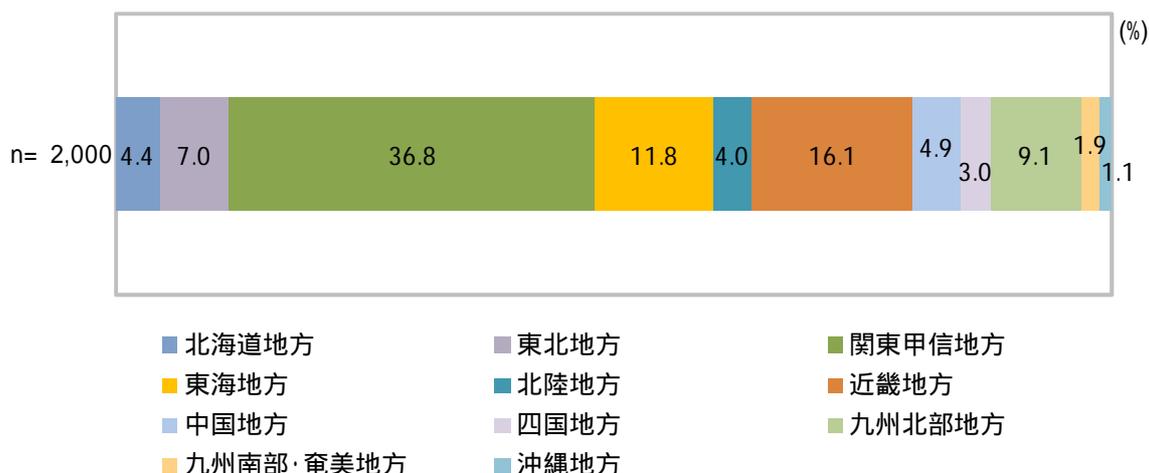
性別



年代別



居住地別



地域名に該当する都道府県は下表のとおり。

地域名	都道府県
北海道地方	北海道
東北地方	青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県
関東甲信地方	東京都、栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県、千葉県、神奈川県、長野県、山梨県
東海地方	静岡県、岐阜県、三重県、愛知県
北陸地方	新潟県、富山県、石川県、福井県
近畿地方	京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県
中国地方	鳥取県、島根県、岡山県、広島県
四国地方	香川県、愛媛県、徳島県、高知県
九州北部地方（山口県を含む）	山口県、福岡県、大分県、佐賀県、熊本県、長崎県
九州南部・奄美地方	宮崎県、鹿児島県
沖縄地方	沖縄県

4) 実施期間

平成 30 年 1 月 11 日（木）～平成 30 年 1 月 15 日（月）

3. 集計・分析の記述について

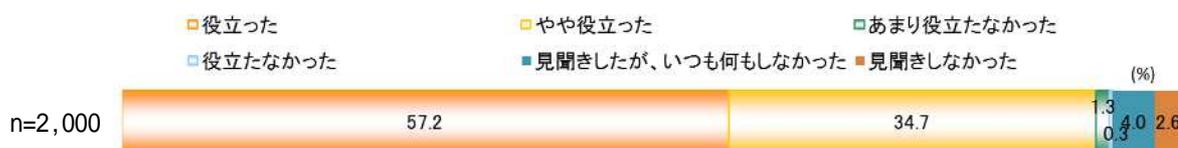
- 図表中の n は回答者の数（母数）であり、回答比率（%）算出の基数を表している。
- 回答比率（%）は、小数点第 2 位を四捨五入して、小数点第 1 位までを表示している。このため、回答比率の合計が 100%にならないことがある。
- 2 つ以上の複数回答ができる設問では、回答比率の合計は原則として 100%を超える。
- 調査数（n 値）が 30 未満のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。

4 調査結果の概要

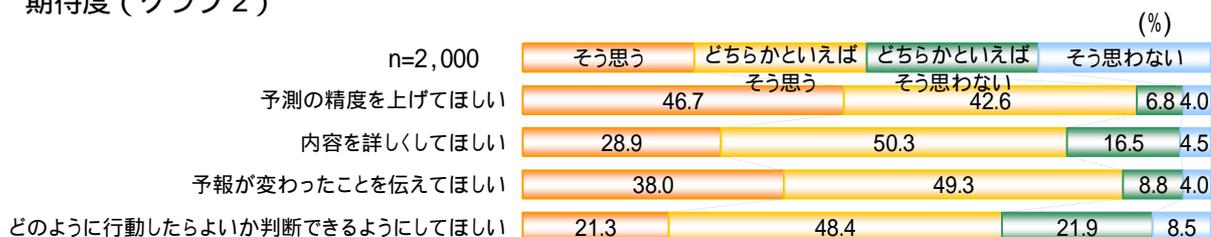
• 天気予報

- 有効回収数 (n=2,000) に対して、平成 29 年の 1 年間に天気予報を見聞した人は 97%、見聞時に行動したと回答した人の割合 (以下「利用度」という。) は 93%であった。(グラフ 1)
- 有効回収数 (n=2,000) に対して、天気予報を知っていて、見聞きし、行動した結果「役立った」または「やや役立った」と回答した人 (以下「役立ち度」という。) は 92%であった。(グラフ 1)
- 天気予報の見聞時に行動したと回答した人 (n=1,868) に対して、見聞時の行動と行動した結果の役立ち感 (情報を見聞きしてとった行動の結果が「役立った」、「やや役立った」、「あまり役立たなかった」及び「役立たなかった」のいずれと考えるか) のクロス集計をみると、「役立った」の割合は「レジャーや旅行の計画の変更又は継続を決めた」が 74%で最も高かった。一方、「テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な情報を確認した」は「役立った」の割合が 64%で最も低かった。(18 ページ参照)
- 有効回収数 (n=2,000) に対して、「予測の精度を上げてほしい」及び「予報が変わったことを伝えてほしい」との期待度 (「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」との回答率の合計) が高く、それぞれ 89%と 87% (グラフ 2) であった。
- 有効回収数 (n=2,000) に対して、今後、天気予報を「参考にして行動したいと思う」及び「どちらかといえば参考にして行動したいと思う」との回答率の合計 (以下「利用意向度」という。) は 95%であった。(グラフ 3)

見聞の有無、利用度、役立ち度 (グラフ 1)



期待度 (グラフ 2)



利用意向度 (グラフ 3)



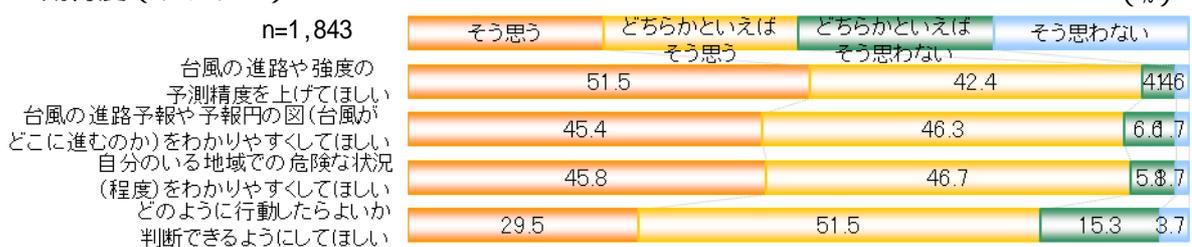
・ 台風情報

- ・ 有効回収数 (n=2,000) に対して、台風情報を「知っている」と回答した割合 (以下「認知度」という。) は 92%、平成 29 年の 1 年間に台風情報を見聞きした割合は 90%、利用度は 88%、役立ち度は 85%であった。(グラフ 4)
- ・ 台風情報の見聞時に行動したと回答した人 (n=1,752) に対して、見聞時の行動と行動した人の役立ち感のクロス集計をみると、「役立った」の割合は「避難又は避難の準備を行った」が最も高く 85%であった。一方、「テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な情報を確認した」は「役立った」の割合が 63%で最も低かった。(34 ページ参照)
- ・ 台風情報を知っていると回答した人 (n=1,843) に対して、「台風の進路や強度の予測精度を上げてほしい」、「自分のいる地域での危険な状況 (程度) をわかりやすくしてほしい」及び「台風の進路予報や予報円の図 (台風がどこに進むのか) をわかりやすくしてほしい」の期待度が高く、それぞれ 94%、93%及び 92%であった。(グラフ 5)
- ・ 台風情報の見聞時に行動したと回答した人 (n=1,752) に対して、行動した人の役立ち感と期待度のクロス集計をみると、「役立った」及び「やや役立った」と回答した人のほうが、「あまり役立たなかった」と回答した人より各項目とも期待度が高かった。(39 ページ参照)
- ・ 有効回収数 (n=2,000) に対して、利用意向度は 95%であった。(グラフ 6)
- ・ 認知度と利用意向度のクロス集計をみると、「知っている」ほうが「知らない」より利用意向度が 38%高かった。(42 ページ参照)
- ・ 役立ち度と利用意向度のクロス集計をみると、「役立った」、「やや役立った」及び「あまり役立たなかった」の利用意向度はそれぞれ、100%、99%及び 88%であった。一方、「いつも何もしなかった」、「見聞きしなかった」及び「知らない」の利用意向度は、それぞれ 79%、85%及び 61%と比較的低かった。(43 ページ参照)

認知度、見聞の有無、利用度、役立ち度 (グラフ 4)



期待度 (グラフ 5)

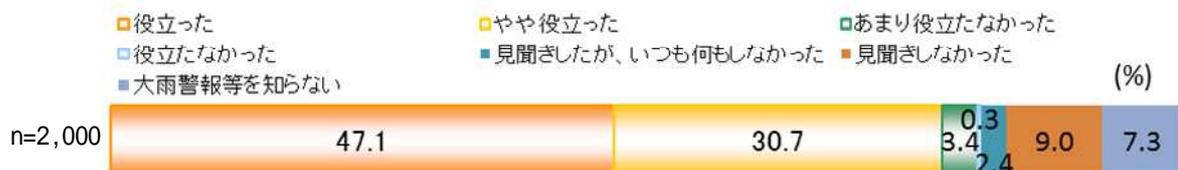


利用意向度 (グラフ 6)

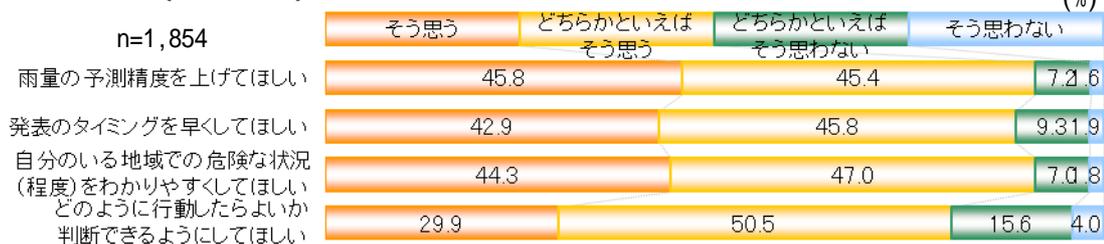


- 大雨警報等（大雨注意報、大雨警報、土砂災害警戒情報）
 - 有効回収数（n=2,000）に対して、大雨警報等の認知度は93%、平成29年の1年間に自分のいる地域を対象とした大雨警報等を見聞きした割合は84%、利用度は81%、役立ち度は78%であった。（グラフ7）
 - 大雨警報等の見聞時に行動したと回答した人（n=1,627）に対して、見聞時の行動と行動した人の役立ち感のクロス集計をみると、「役立った」の割合は「避難又は避難の準備を行った」が88%で最も高かった。一方、「テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な情報を確認した」は「役立った」の割合が60%で最も低かった。（51ページ参照）
 - 大雨警報等を知っていると回答した人（n=1,854）に対して、「自分のいる地域での危険な状況（程度）をわかりやすくしてほしい」、「雨量の予測精度を上げてほしい」及び「発表のタイミングを早くしてほしい」との期待度が高く、それぞれ91%、91%及び89%であった。（グラフ8）
 - 大雨警報等の見聞時に行動したと回答した人（n=1,627）に対して、行動した人の役立ち感と期待度のクロス集計をみると、各項目とも、「役立った」及び「やや役立った」と回答した人のほうが、「あまり役立たなかった」と回答した人より期待度が高かった。（56ページ参照）
 - 有効回収数（n=2,000）に対して、利用意向度は94%であった。（グラフ9）
 - 認知度と利用意向度のクロス集計をみると、「知っている」ほうが「知らない」より利用意向度が46%高かった。（59ページ参照）
 - 役立ち度と利用意向度のクロス集計をみると、「役立った」、「やや役立った」及び「あまり役立たなかった」の利用意向度はそれぞれ、100%、99%及び90%であった。一方、「いつも何もしなかった」、「見聞きしなかった」及び「知らない」の利用意向度は、それぞれ88%、90%及び51%と比較的低かった。（60ページ参照）

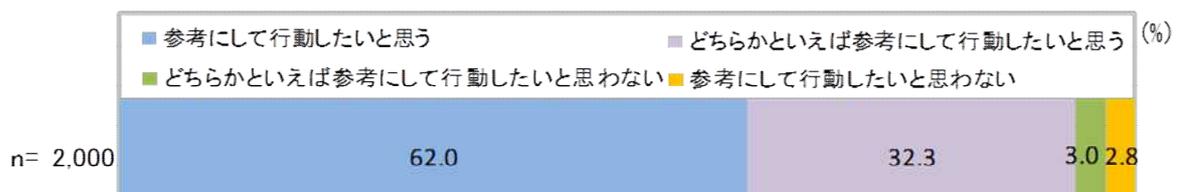
認知度、見聞の有無、利用度、役立ち度（グラフ7）



期待すること（グラフ8）



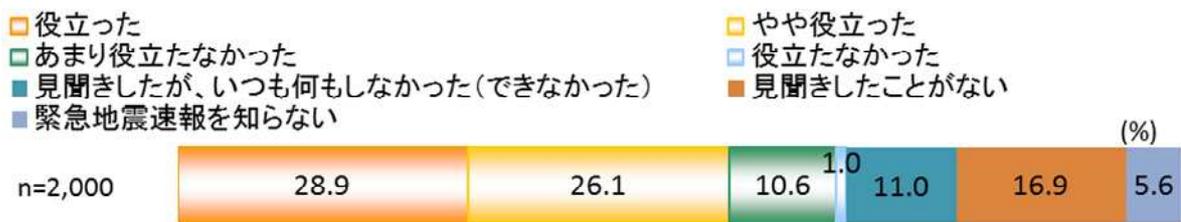
利用意向度（グラフ9）



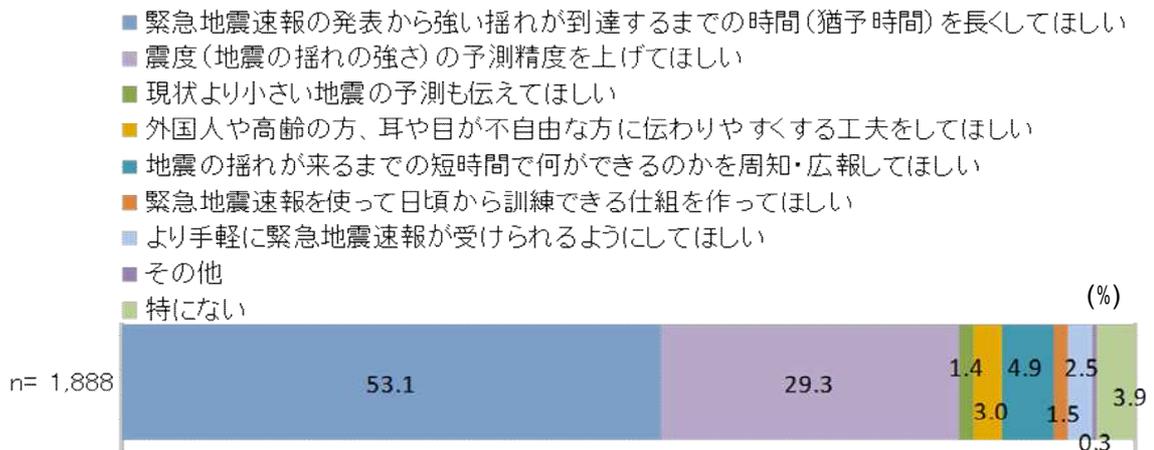
・ 緊急地震速報

- ・ 有効回収数 (n=2,000) に対して、緊急地震速報の認知度は 94% で (グラフ 10) 平成 23 年度調査と比較して、7% 上がった。(61 ページ・62 ページ参照)
- ・ 有効回収数 (n=2,000) に対して、自分のいる地域を対象とした緊急地震速報を見聞きしたことがある割合は 78% (グラフ 10) であり、入手手段は「携帯電話・スマートフォンの緊急速報メール」が 74%、「テレビ」が 71% (66 ページ参照) であった。
- ・ 有効回収数 (n=2,000) に対して、利用率は 67% であった。(グラフ 10)
- ・ 緊急地震速報を見聞時に行動した人 (n=1,331) の「役立った」及び「やや役立った」の合計は 83% であったことと比較して、関東甲信地方は 76% と低かった (69 ページ参照)。
- ・ 緊急地震速報を見聞きした結果、「あまり役立たなかった」または「役立たなかった」と回答した人 (n=232) の理由は、「強い揺れが来るという発表だったのに、実際には弱い揺れしか来なかった (あるいは、全く揺れなかった) から」が最も高かった (65%) (74 ページ参照)
- ・ 有効回収数 (n=2,000) に対して、役立ち度は 55% であった (グラフ 10)。
- ・ 緊急地震速報を知っている人 (n=1,888) の最も期待することは、「緊急地震速報の発表から強い揺れが到達するまでの時間 (猶予時間) を長くしてほしい」が 53%、「地震 (地震の揺れの強さ) の予測精度を上げてほしい」が 29% (グラフ 11) であった。
- ・ 有効回収数 (n=2,000) に対して、利用意向度は 94% (グラフ 12) であった。

認知度、見聞の有無、利用率、役立ち度 (グラフ 10)



最も期待すること (グラフ 11)



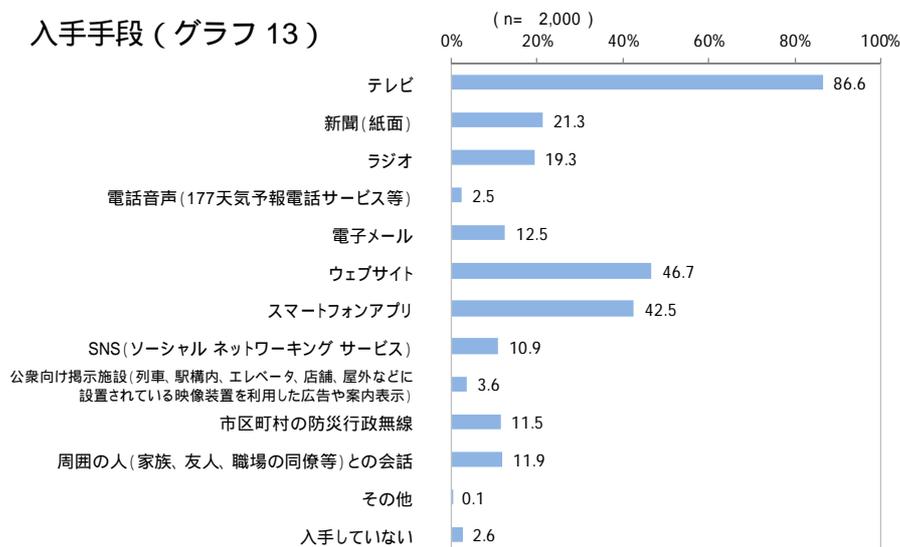
利用意向度 (グラフ 12)



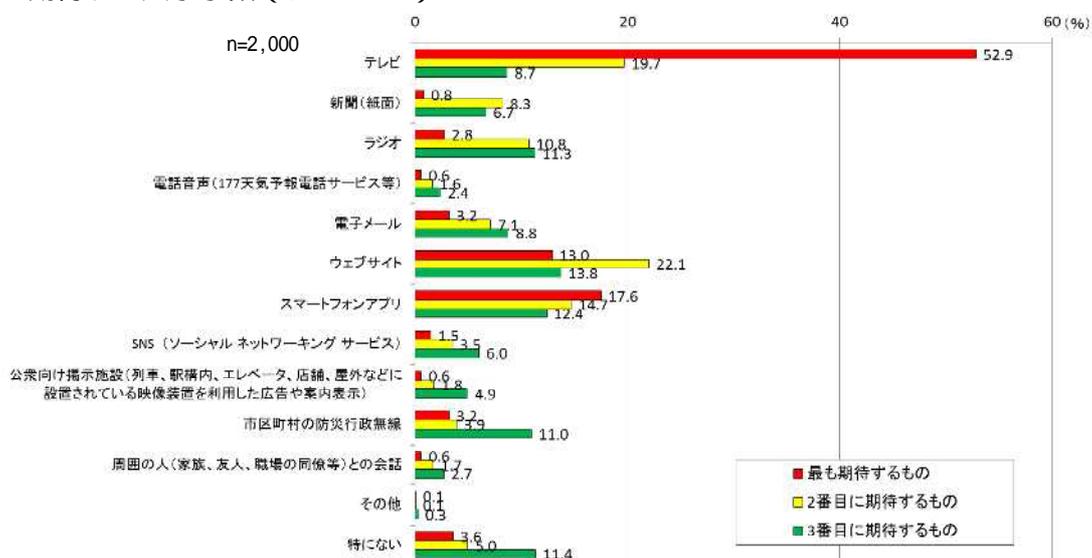
• 気象情報の入手手段

- 有効回収数 (n=2,000) に対して、天気予報や大雨警報などの気象情報の入手手段は「テレビ」との回答が最も高く (87%)、次にウェブサイト (47%) やスマートフォンアプリ (43%) が続いた (グラフ 13)。
- 有効回収数 (n=2,000) に対して、今後、情報のさらなる充実を最も期待する入手手段も「テレビ」が 53% で最も高く、次にスマートフォンアプリ (18%)、ウェブサイト (13%) が続いた (グラフ 14)。
- 平成 26 年度調査の「今日・明日・明後日の天気予報を見聞きする手段」と単純な比較は難しいが、今回の「テレビ」87% は、26 年度調査の「テレビ (衛星放送・ケーブルテレビ等を除く)」79% 及び「衛星放送・ケーブルテレビ等の気象専門チャンネル」6% の合計と同等であった。また、今回の「スマートフォンアプリ」43% は、26 年度調査の「携帯電話 (スマートフォン、PHS、PDA を含む)」36% を上回っていた。(86 ページ参照)
- 現在の入手手段と期待する入手手段 (優先順位を外した複数回答) のクロス集計をみると、ほとんどの入手手段について、現在の入手手段への期待が比較的高かった。また、現在の入手手段が「SNS」及び「公衆向け掲示施設」の人は、「スマートフォンアプリ」への期待がいずれも 56% と比較的高かった。一方、現在の入手手段が「SNS」とする人は、「テレビ」への期待が 69% と比較的低かった。(98 ページ参照)

入手手段 (グラフ 13)



期待する入手手段 (グラフ 14)



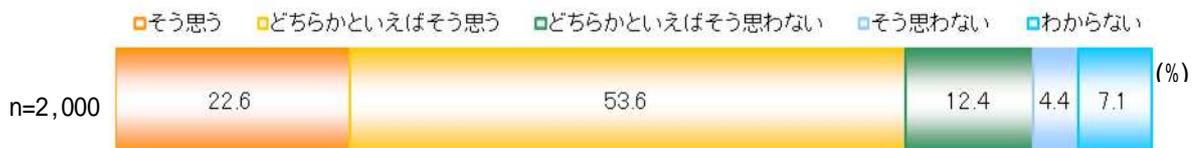
- 安全知識の普及啓発

- 有効回収数 (n=2,000) に対して、気象庁が気象や地震などの自然現象に対する安全知識の広報・普及に関する取り組みを行っていることを「知っている」との回答(以下、「取組認知度」という。)は43%であった(グラフ15)。
- 有効回収数 (n=2,000) に対して、5年前と比べて、気象や地震などの自然現象に対する防災行動を自らの判断で行うことができる世の中になってきたと「思う」及び「どちらかといえばそう思う」との回答率の合計(以下、「防災意識の醸成度」という。)は76%であった(グラフ16)。
- 各情報の利用意向度と、取組認知度及び防災意識の醸成度のクロス集計をみると、各情報の利用意向度が高いほど、取組認知度及び防災意識の醸成度も高い(100ページ、103ページ参照)。
- 取組認知度と防災意識の醸成度のクロス集計をみると、取組を知っているほうが、防災意識の醸成度が23%高い(104ページ参照)。

取組認知度 (グラフ 15)



防災意識の醸成度 (グラフ 16)



5 まとめ

- 認知度
 - 台風情報、大雨警報等及び緊急地震速報の認知度はそれぞれ 92%、93%及び 94%であった。
 - 緊急地震速報は、平成 23 年度調査の 87%と比較して 7%上昇し、台風情報及び大雨警報等と同程度の認知度であった。緊急地震速報の運用開始から 10 年が経過し、情報の発表の積み重ねや普及啓発活動により、認知度が向上したと考えられる。
- 役立ち度
 - 天気予報、台風情報、大雨警報等及び緊急地震速報の役立ち度は、それぞれ 92%、85%、78%及び 55%であった。
 - 各情報ともに、全体において、「情報を知らない」、「見聞きしなかった」及び「見聞きしたが、いつも何もしなかった(できなかった)」とする人が少なからずいる。これらを除いた「役立った」及び「やや役立った」の合計は、天気予報、台風情報、大雨警報等及び緊急地震速報それぞれ、98%、97%、96%及び 83%であり、役立ち度と比べて情報毎の差異が小さくなる。
 - 「見聞きしなかった」は、情報の特徴として、天気予報は日々全国で発表されるが、台風情報は天気予報に比べ期間や場所が限られ、更に大雨警報等及び緊急地震速報は期間や対象地域が限られることが、影響していると考えられる。
 - 緊急地震速報は、情報発表からの猶予時間が他の情報と比べて極めて短いことが、「見聞きしたが、いつも何もしなかった(できなかった)」の割合が 11%と比較的高くなった要因と考えられる。
 - 他の情報と比較して、緊急地震速報は行動した人の「役立った」の割合が低く、「あまり役立たなかった」の割合が高かった。
 - なお、緊急地震速報の行動した人の役立ち感が関東甲信地方では全国平均よりも低かったが、平成 24 年度調査ではこのような傾向はなかった。本調査の実施期間の平成 30 年 1 月 11～15 日で、平成 30 年 1 月 5 日の関東地方や福島県における緊急地震速報(警報)の震度の過大予測があった直後であり、このことが影響している可能性がある。

有効回収数 (n=2,000) に対する認知度、見聞の有無、見聞時の行動、役立ち度

	天気予報	台風情報	大雨警報等	緊急地震速報
役立った	57.2%	53.8%	47.1%	28.9%
やや役立った	34.7%	31.2%	30.7%	26.1%
あまり役立たなかった	1.3%	2.4%	3.4%	10.6%
役立たなかった	0.3%	0.3%	0.3%	1.0%
見聞きしたが、いつも何もしなかった(できなかった)	4.0%	2.2%	2.4%	11.0%
見聞きしなかった	2.6%	2.4%	9.0%	16.9%
情報を知らない	-	7.9%	7.3%	5.6%

本調査において、天気予報は認知度を調査していない。

- 期待
 - 天気予報、台風情報、大雨警報等及び緊急地震速報のいずれも、予測精度の向上に対する期待が高かった。今後とも、国民の皆様の期待に応えられるよう、予測精度向上に努める。
 - 天気予報では「予報が変わったことを伝えてほしい」、台風情報では「自分のいる地域での危険な状況(程度)をわかりやすくしてほしい」及び「台風の進路予報や予報円の図(台風が

どこに進むのか)をわかりやすくしてほしい」、大雨警報等では「自分のいる地域での危険な状況(程度)をわかりやすくしてほしい」及び「発表のタイミングを早くしてほしい」、緊急地震速報では「緊急地震速報の発表から強い揺れが到達するまでの時間(猶予時間)を長くしてほしい」も期待が高かった。

- 利用意向

- 天気予報、台風情報、大雨警報等及び緊急地震速報の利用意向度はそれぞれ 95%、95%、94% 及び 94%であった。各情報とも、役立ち度よりも高く、役立ち度は必ずしも十分ではないものの利用の意向が高いことが伺える。
- 有効回収数(n=2,000)に対して、台風情報、大雨警報等及び緊急地震速報を「知らない」との回答が6%~8%で、気象情報への関心の低い方々がみられた。また、「見聞きしたが、いつも何もなかった(できなかった)」との回答が2%~11%で、気象情報を活用していない(できていない)方々がみられた。更に、「役立たなかった」及び「あまり役立たなかった」との回答の合計が2~12%で、気象情報が役立っていない方々がみられた。
- これらの方々は、利用意向度が低い傾向であった。
- このような関心や利用意向度等が低い理由は、今回、詳しく分析できなかった。より多くの方々が気象情報を利用する意向を持っていただくことが重要であり、利用意向度が低い理由の調査や、これらの方々への適切なアプローチの検討が必要である。

- 入手手段

- 有効回収数(n=2,000)に対して、天気予報や大雨警報などの気象情報の入手手段は「テレビ」が87%、「ウェブサイト」が47%、「スマートフォンアプリ」43%で上位を占めた。平成26年度調査の「今日・明日・明後日の天気予報を見聞きする手段」と単純な比較は難しいが、今回の「テレビ」87%は、26年度調査の「テレビ(気象専門チャンネルを除く)」79%及び「気象専門チャンネル」6%の合計と同等であった。また、「スマートフォンアプリ」43%は、平成26年度調査における「携帯電話(スマートフォン、PHS、PDAを含む)」36%を上回っていた。
- 今後とも、入手手段の移り変わりが予想されることから、的確な情報提供の改善に資する基礎資料として入手手段を継続的に調査する。

- 安全知識の普及啓発

- 有効回収数(n=2,000)に対して、気象庁が気象や地震などの自然現象に対する安全知識の広報・普及に関する取り組みを行っていることを「知っている」との回答は43%であった。
- 有効回収数(n=2,000)に対して、5年前と比べて、気象や地震などの自然現象に対する防災行動を自らの判断で行うことができる世の中になってきたと「思う」及び「どちらかといえばそう思う」との回答率の合計は76%であった。
- 引き続き、地域全体の気象防災力の向上に向けて、関係者と一体となった気象情報の普及・啓発活動に取り組む。

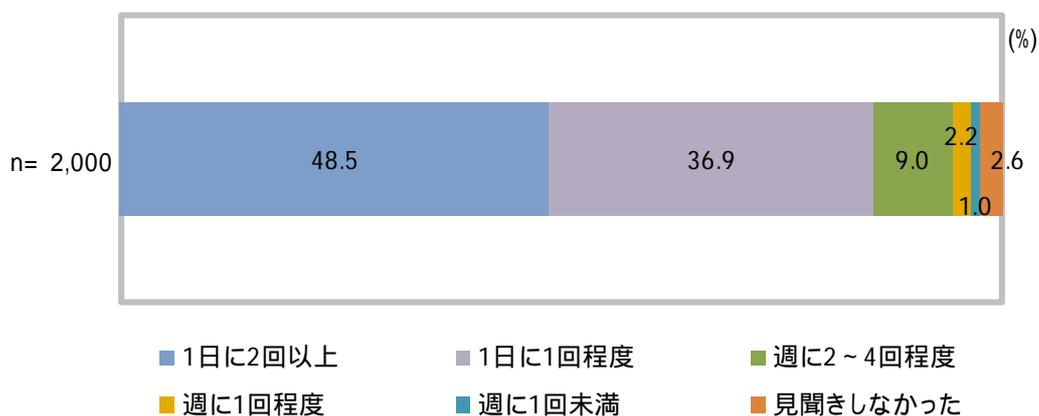
第2 調査結果

1 天気予報

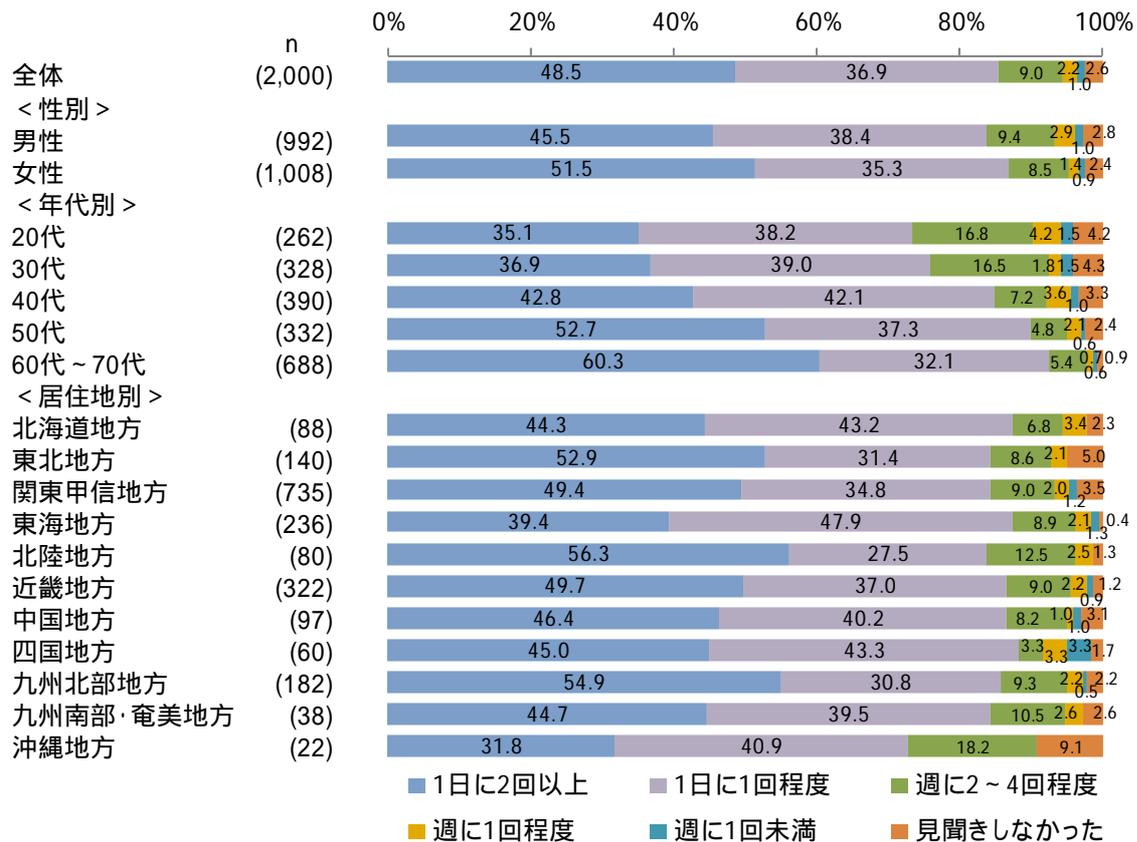
(1) 見聞の頻度

Q1 あなたは、昨年1年間に天気予報をどの程度見聞きしましたか。(は1つ)

ここでは、テレビやラジオ、新聞、インターネットなどで伝えられる晴れや雨、気温、降水確率などの予報を「天気予報」と言います。



昨年1年間の天気予報の見聞の頻度について、「1日に2回以上」が5割弱、「1日に1回程度」が3割台半ばとなり、合わせた1日に1回程度以上、天気予報を入手している方は8割台半ばであった。



男女別にみると、女性では「1日に2回以上」が5割強と、男性に比べ6%高かった。

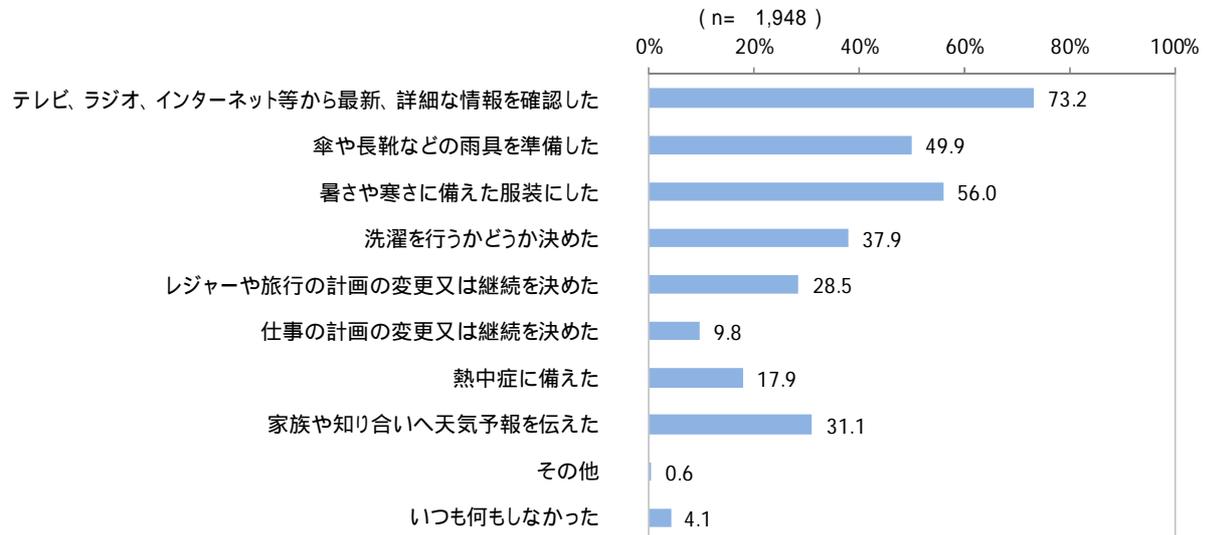
年代別にみると、高齢層ほど、1日に1回程度以上は天気予報を入手しており、60代~70代では「1日に2回以上」が6割強と、他年代に比べ高かった。

居住地別にみると、北陸地方、九州北部地方では「1日に2回以上」が、全体に比べ高かった。

(2) 見聞時の行動

Q2 あなたは、昨年1年間に天気予報を見聞きした後、どのような行動をとりましたか。(はいくつでも)

n=1,948 ベース：天気予報を見聞きしたと回答した人



天気予報の見聞時の行動について、「テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な情報を確認した」が7割台半ば、「暑さや寒さに備えた服装にした」が5割台半ば、「傘や長靴などの雨具を準備した」が5割弱であった。一方、「いつも何もしなかった」が4%であった。

* は全体 + 10ポイント以上、 は + 5ポイント以上、 は - 10ポイント以下、 は - 5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	新、詳細な情報を確認した	テレビ、ラジオ、インターネット等から最新	傘や長靴などの雨具を準備した	暑さや寒さに備えた服装にした	洗濯を行うかどうか決めた	決めた	レジャーや旅行の計画の変更又は継続を計	仕事の計画の変更又は継続を計	熱中症に備えた	家族や知り合いへ天気予報を伝えた	その他	いつも何もしなかった
全体	1948	73.2	49.9	56.0	37.9	28.5	9.8	17.9	31.1	0.6	4.1		
性別													
男性	964	74.4	46.0	49.1	24.0	30.0	13.0	14.7	26.8	0.4	5.0		
女性	984	72.1	53.8	62.8	51.5	27.0	6.6	20.9	35.3	0.7	3.3		
年代													
20代	251	64.5	51.4	55.0	41.4	30.3	8.8	10.4	25.9	0.8	4.8		
30代	314	73.2	50.6	57.3	38.9	29.9	11.1	16.6	38.5	0.3	3.8		
40代	377	78.2	53.3	56.8	40.6	30.0	11.4	18.6	35.5	0.0	1.9		
50代	324	73.8	50.6	55.6	34.6	19.4	9.0	16.4	32.7	0.9	4.3		
60代～70代	682	73.3	46.8	55.6	36.2	30.6	8.9	21.6	26.2	0.7	5.1		
居住地													
北海道地方	86	77.9	46.5	44.2	23.3	27.9	8.1	14.0	31.4	1.2	4.7		
東北地方	133	73.7	37.6	52.6	30.8	29.3	12.0	15.0	31.6	1.5	5.3		
関東甲信地方	709	73.9	54.2	61.2	41.3	29.5	8.5	22.7	33.1	0.4	3.8		
東海地方	235	71.1	42.6	52.8	40.9	30.2	8.9	15.3	25.5	0.0	6.0		
北陸地方	79	73.4	44.3	54.4	20.3	26.6	13.9	16.5	30.4	0.0	6.3		
近畿地方	318	69.8	57.2	56.6	36.8	26.7	7.9	15.7	33.6	0.9	2.8		
中国地方	94	74.5	42.6	54.3	37.2	26.6	8.5	13.8	25.5	1.1	3.2		
四国地方	59	67.8	42.4	61.0	40.7	22.0	15.3	15.3	23.7	0.0	1.7		
九州北部地方	178	77.5	50.0	52.2	40.4	28.1	12.4	12.9	29.8	0.6	2.8		
九州南部・奄美地方	37	73.0	56.8	40.5	51.4	29.7	21.6	18.9	32.4	0.0	5.4		
沖縄地方	20	75.0	30.0	35.0	25.0	35.0	15.0	20.0	35.0	0.0	15.0		

男女別にみると、女性で「暑さや寒さに備えた服装にした」が6割強、「洗濯を行うかどうか決めた」が5割強となり、男性に比べそれぞれ14%、28%高かった。

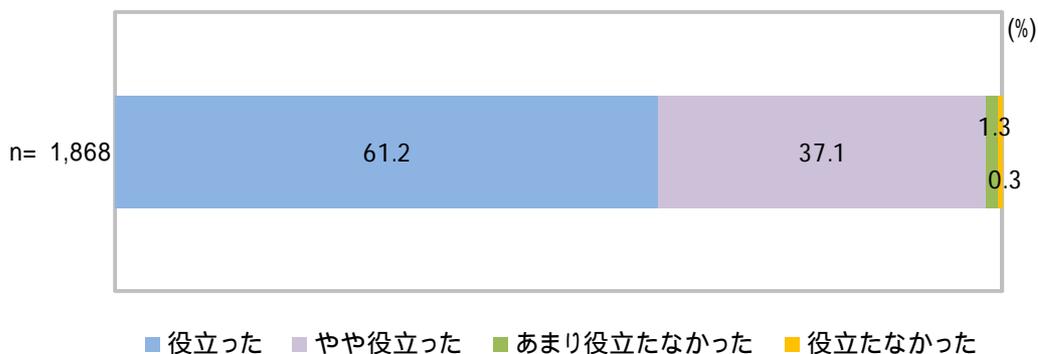
年代別にみると、20代では「テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な情報を確認した」が6割台半ばと、他年代に比べ低かった。

居住地別にみると、北海道地方と九州南部・奄美地方では「暑さや寒さに備えた服装にした」が4割台と、全体に比べ低かった。

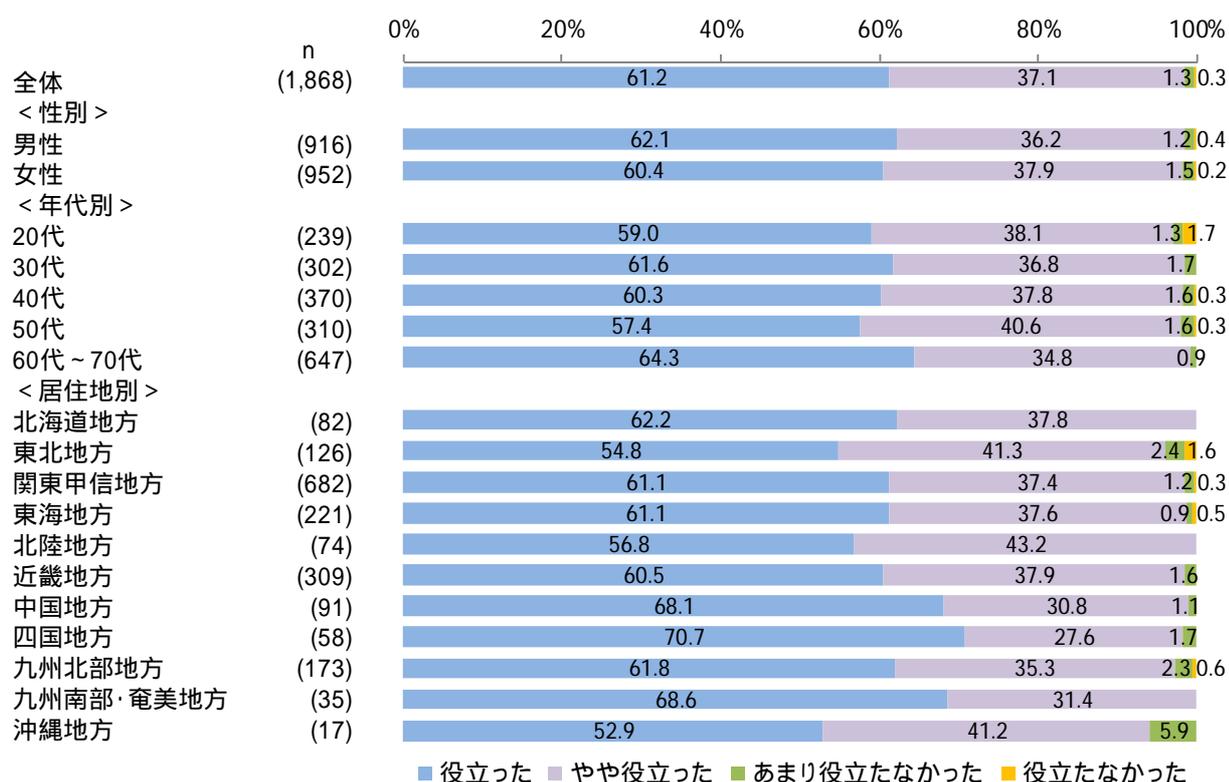
(3 - 1) 行動した人の役立ち感

Q3 あなたが昨年1年間に天気予報を見聞きしてとった行動の結果、天気予報はどの程度役立ったと思いますか。(は1つ)

n=1,868 ベース：天気予報の見聞時に行動したと回答した人



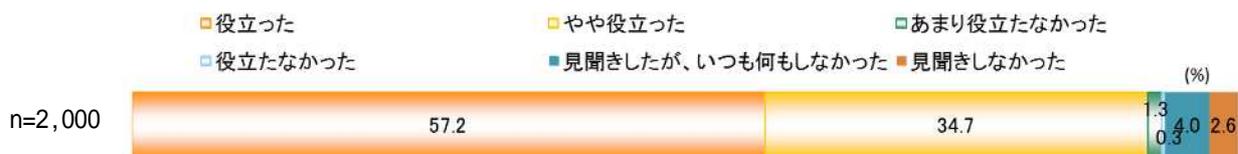
天気予報を見聞きして行動した人の役立ち感について、「役立った」が6割強、「やや役立った」が3割台半ばとなり、合わせた天気予報が役立ったと感じている割合は、98%であった。



年代別にみると、60代~70代では「役立った」が6割台半ばと、全体に比べ高かった。

居住地別にみると、中国地方、四国地方、九州南部・奄美地方では「役立った」が7割前後と、全体に比べ高かった。

(3 - 2) 見聞の有無、利用度、役立ち度

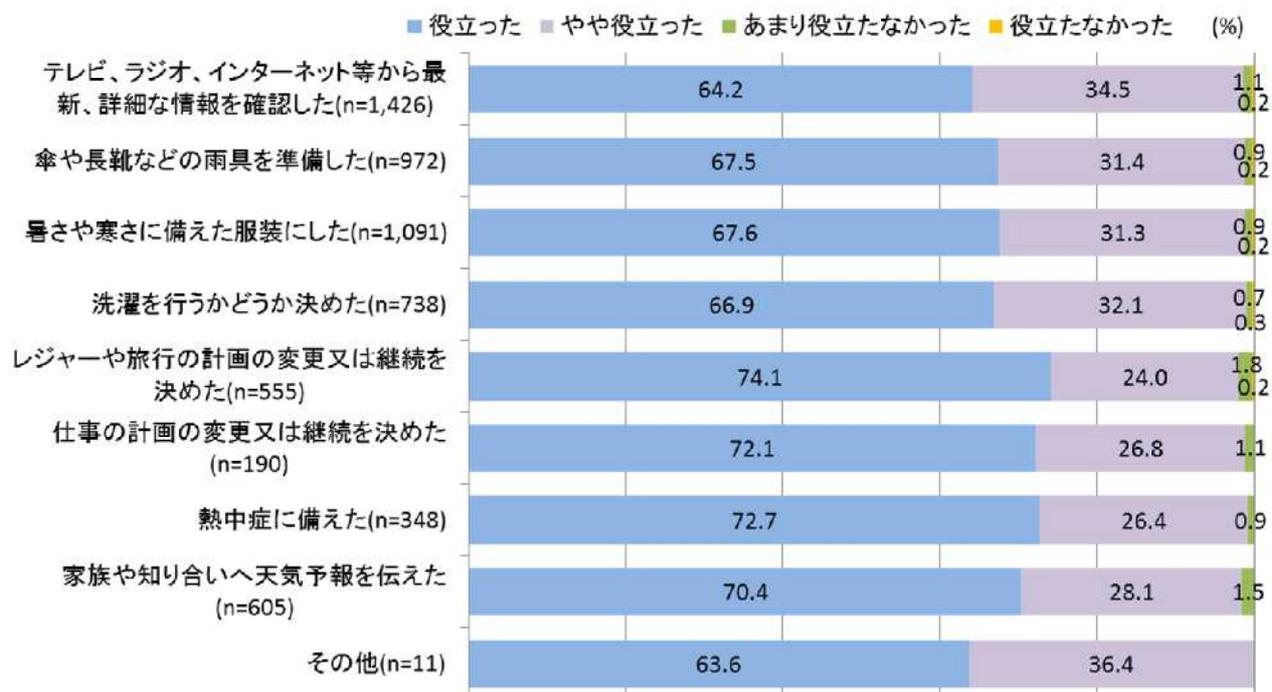


	n=2,000	(%)	見聞有(%)	利用度(%)	役立ち度(%)
役立った		57.2	97.4	93.4	91.9
やや役立った		34.7			
あまり役立たなかった		1.3			
役立たなかった		0.3			
見聞きしたが、いつも何もしなかった		4.0			
見聞きしなかった		2.6			
合計		100.0			

有効回収数 (n=2,000) に対して、見聞の頻度、見聞時の行動及び役立ち度をまとめると、見聞の頻度にかかわらず「見聞きした」割合(「1日に2回以上」,「1日に1回程度」,「週に2~4回程度」,「週に1回程度」及び「週に1回未満」の合計)は9割台半ば、利用度(見聞きして何らかの行動をとった人の割合)は9割台半ば、「役立った」及び「やや役立った」との回答率の合計(役立ち度)は9割強であった。

(3 - 3) 見聞時の行動×行動した人の役立ち感

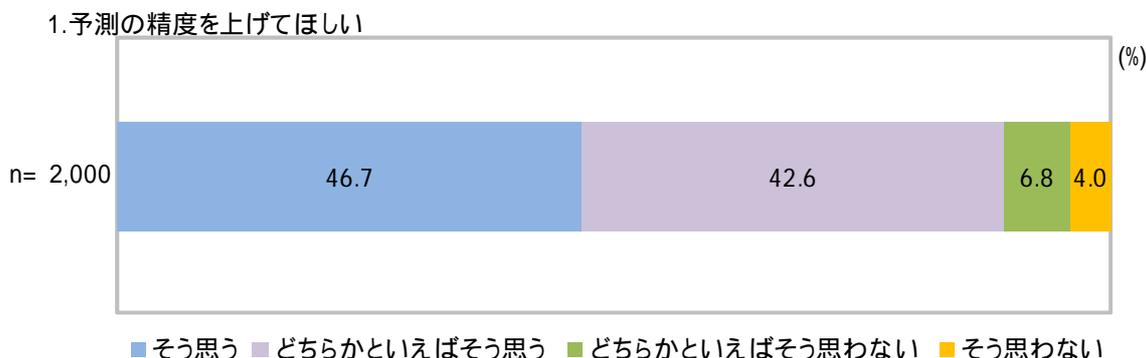
n=1,868 ベース：天気予報の見聞時に行動したと回答した人



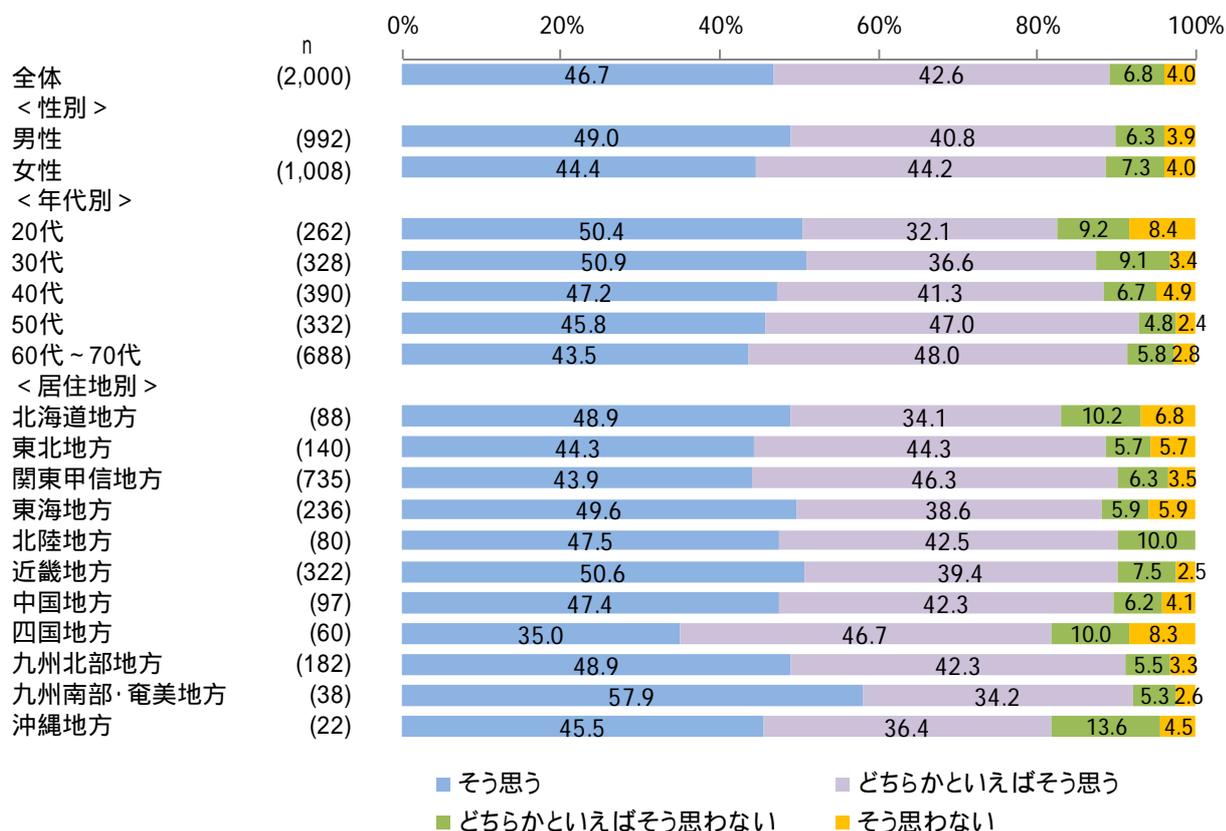
見聞時の行動と行動した人の役立ち感のクロス集計をみると、「役に立った」の割合は「レジャーや旅行の計画の変更又は継続を決めた」が7割台半ばで最も高かった。一方、「テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な情報を確認した」は「役に立った」の割合が6割台半ばで最も低かった。

(4 - 1) 天気予報への期待【予測精度の向上】

Q4 あなたは、天気予報について、どのように思いますか。(1 つ)



天気予報の精度向上への期待について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」とも 4 割台半ばとなり、合わせた精度向上への期待がある割合は、9 割弱であった。



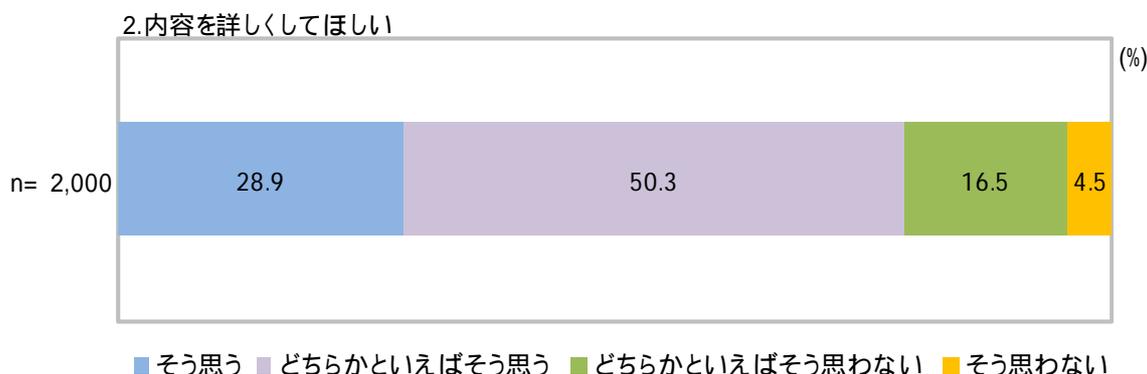
男女別にみると、男性では「そう思う」が 5 割弱と、女性に比べ 5%高かった。

年代別にみると、高齢層になるほど「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた精度向上への期待のある割合は概ね高くなり、50代、60代～70代では 9 割強と、全体に比べ高かった。

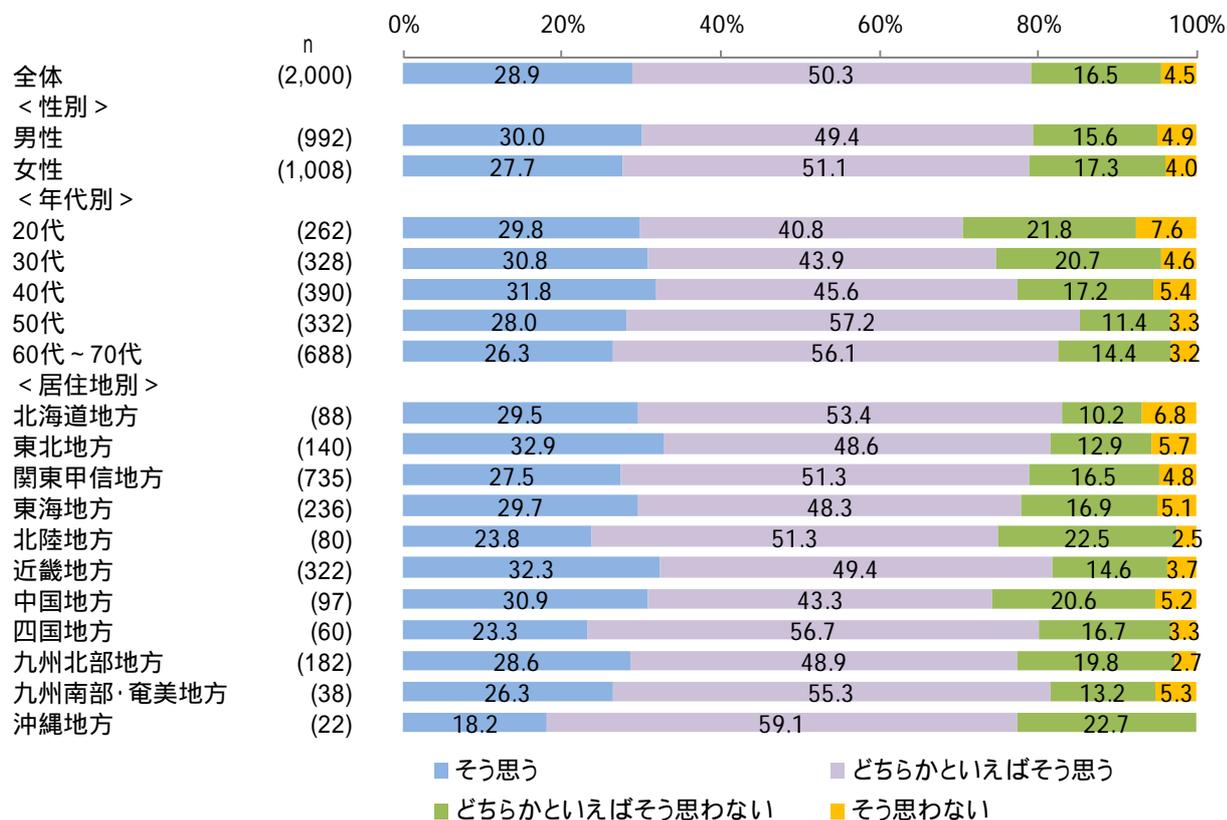
居住地別にみると、九州南部・奄美地方では「役立った」が 6 割弱と、全体と比べ 11%高かった。一方、北海道地方と四国地方では「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた精度向上への期待の割合方は、全体に比べ低かった。

(4 - 2) 天気予報への期待【詳細な内容】

Q4 あなたは、天気予報について、どのように思いますか。(1つ)



天気予報の詳細な内容への期待について、「そう思う」が3割弱、「どちらかといえばそう思う」は5割強となり、合わせた内容の詳細化への期待は、8割弱であった。

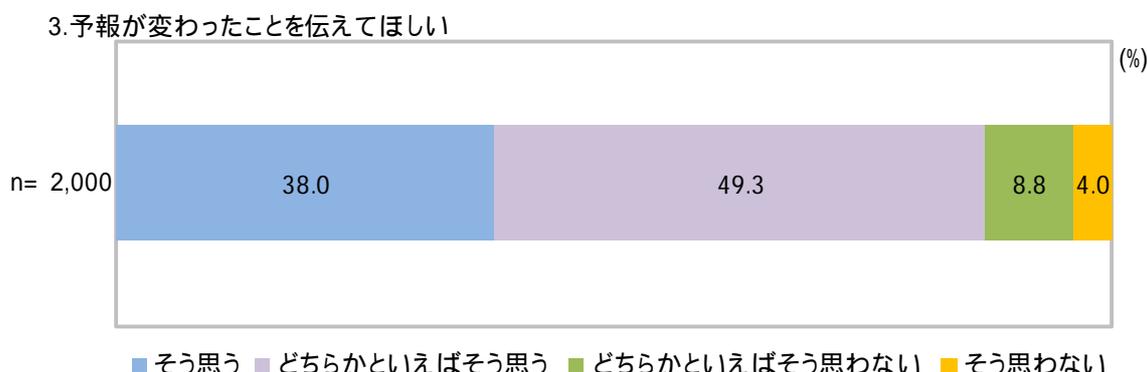


年代別にみると、高齢層ほど「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた内容詳細化への期待のある割合が高い傾向にあった。

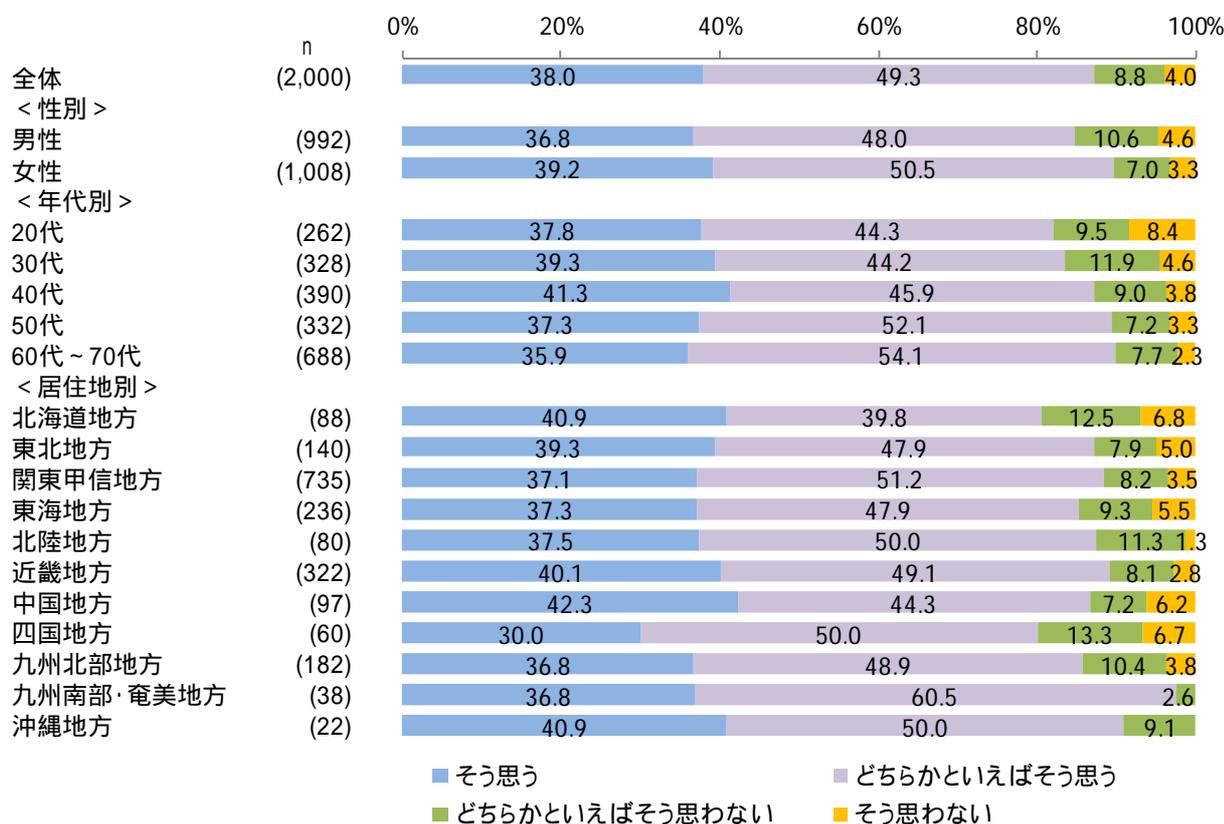
居住地別にみると、北陸地方、中国地方では「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた内容詳細化への期待のある方は7割台半ばと、全体に比べ低かった。

(4 - 3) 天気予報への期待【変更周知】

Q4 あなたは、天気予報について、どのように思いますか。(1 は 1 つ)



天気予報の変更周知への期待について、「そう思う」が4割弱、「どちらかといえばそう思う」は5割弱となり、合わせた変更周知への期待がある割合は、8割台半ばであった。



男女別にみると、女性では「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた変更周知への期待のある割合が9割弱と、男性に比べ5%高かった。

年代別にみると、高齢層ほど「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた変更周知への期待のある割合が高かった。

居住地別にみると、九州南部・奄美地方では「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた変更周知への期待のある割合が9割台半ばとなり、他居住地に比べ高かった。

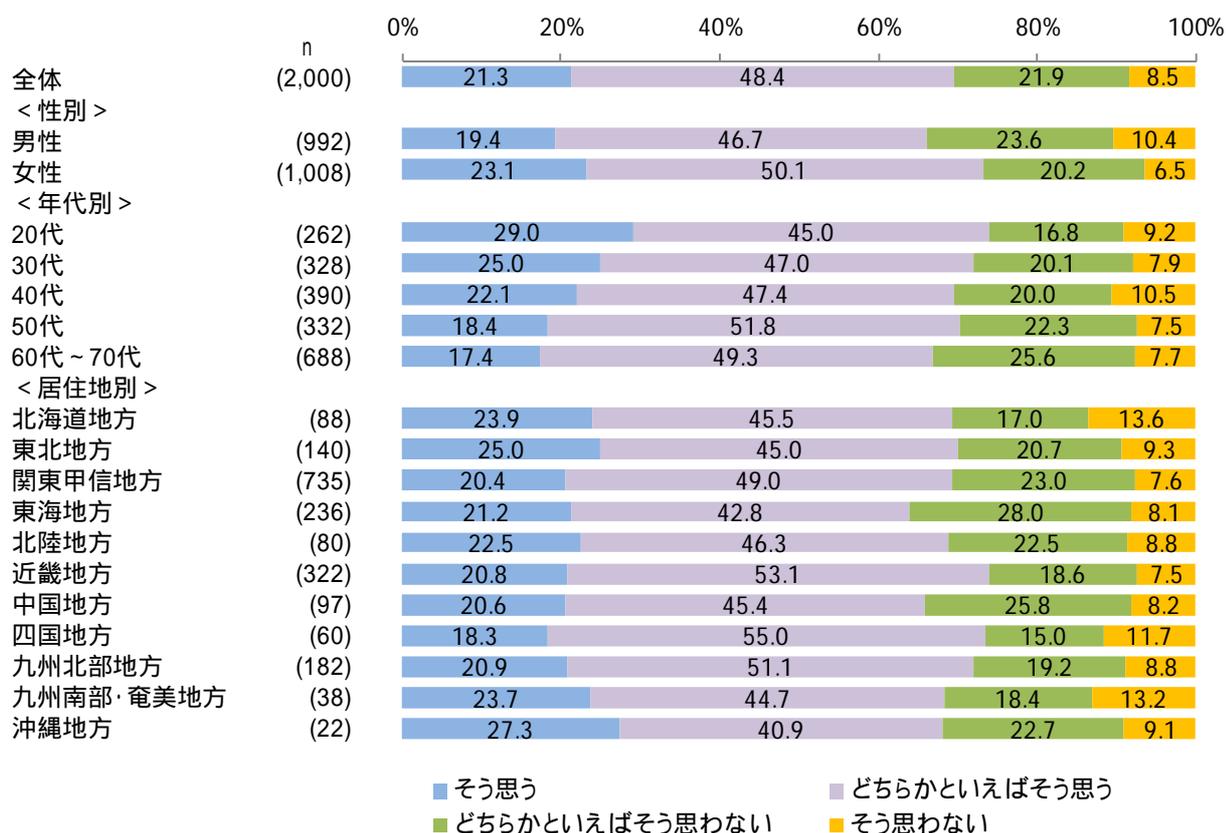
(4 - 4) 天気予報への期待【とるべき行動の判断】

Q4 あなたは、天気予報について、どのように思いますか。(1 は 1 つ)

4.どのように行動したらよいか判断できるようにしてほしい



天気予報でとるべき行動の判断への期待について、「そう思う」が2割強、「どちらかといえばそう思う」が5割弱となり、合わせたとるべき行動の判断への期待の割合は、7割弱であった。



男女別にみると、女性では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせたとるべき行動が判断できる情報への期待の割合は7割台半ばと、男性に比べ7%高かった。

年代別にみると、若年層ほど「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせたとるべき行動が判断できる情報への期待のある割合が高い傾向であった。

居住地別にみると、東海地方、中国地方では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせたとるべき行動が判断できる情報への期待の割合が6割台半ばと、全体に比べ低かった。

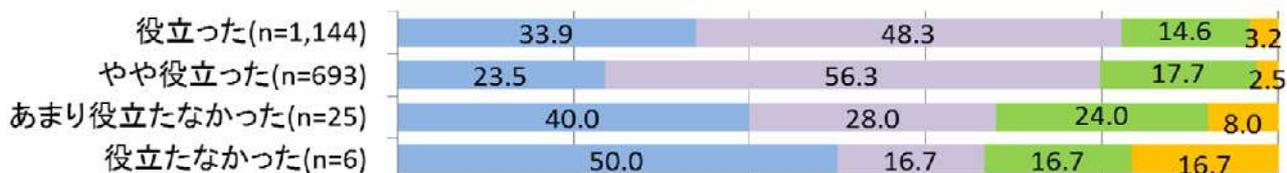
(4 - 5) 行動した人の役立ち感 × 天気予報への期待

n=1,868 ベース：天気予報の見聞時に行動したと回答した人

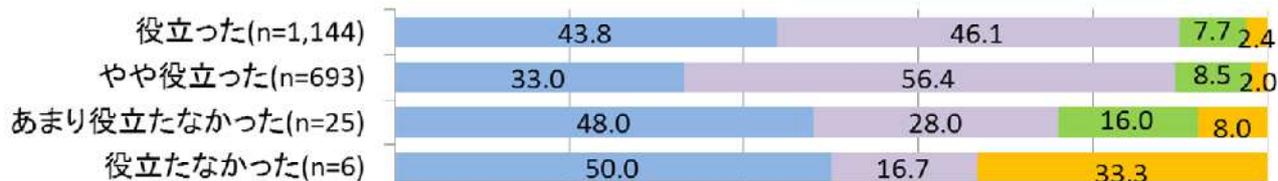
・予測精度の向上



・詳細な内容



・変更周知



・とるべき行動の判断



行動した人の役立ち感と天気予報への期待のクロス集計をみると、「役立った」と「やや役立った」の期待度は、各項目とも同程度であった。

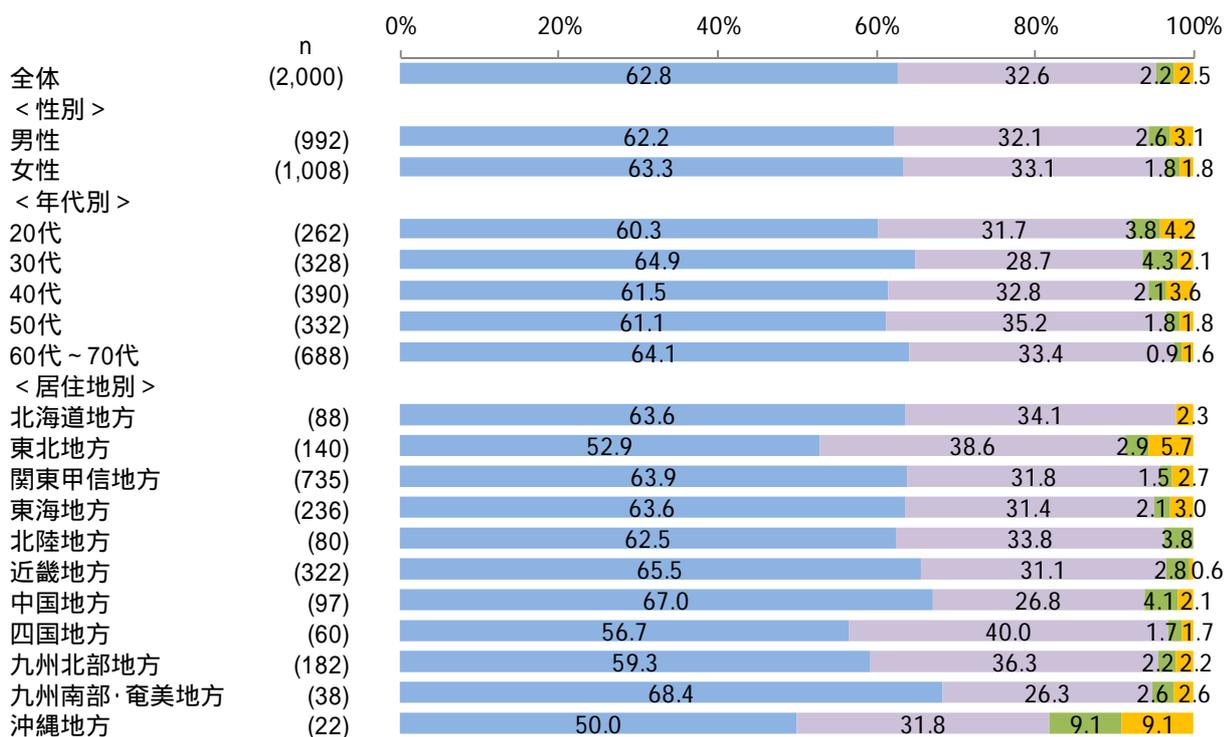
(5 - 1) 利用意向度

Q5 あなたは、今後、天気予報を参考にして行動したいと思いますか。(は1つ)



- 参考にして行動したいと思う
- どちらかといえば参考にして行動したいと思う
- どちらかといえば参考にして行動したくない
- 参考にして行動したくない

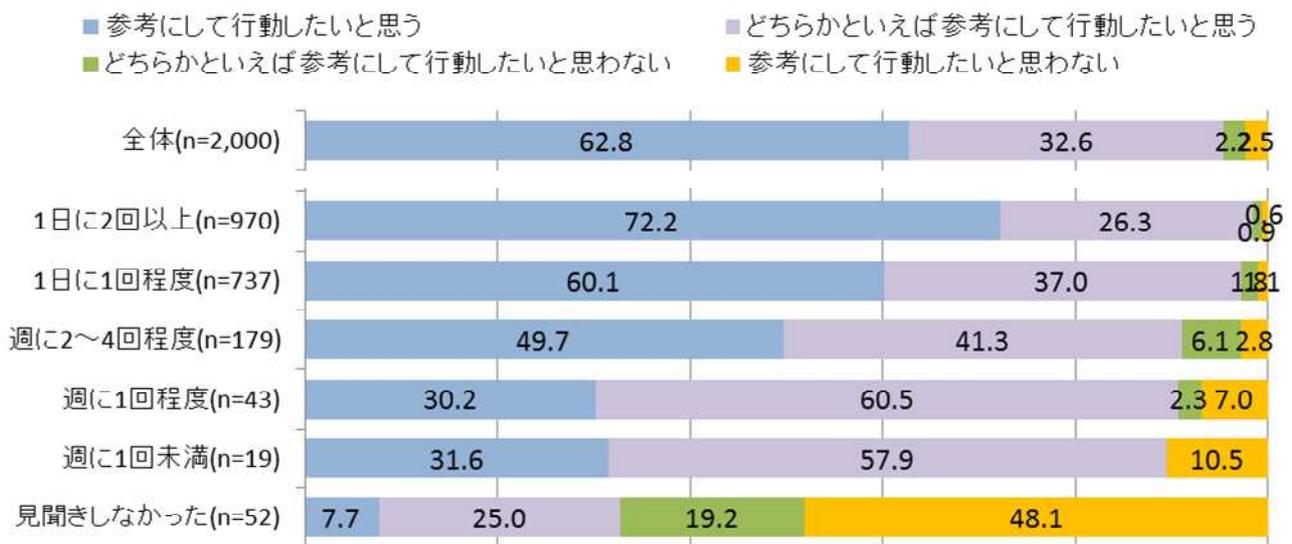
今後の天気予報の利用意向度について、「参考にして行動したいと思う」が6割台半ば、「どちらかといえば参考にして行動したいと思う」が3割台半ばとなり、合わせた今後の利用意向のある割合は9割台半ばであった。



- 参考にして行動したいと思う
- どちらかといえば参考にして行動したいと思う
- どちらかといえば参考にして行動したくない
- 参考にして行動したくない

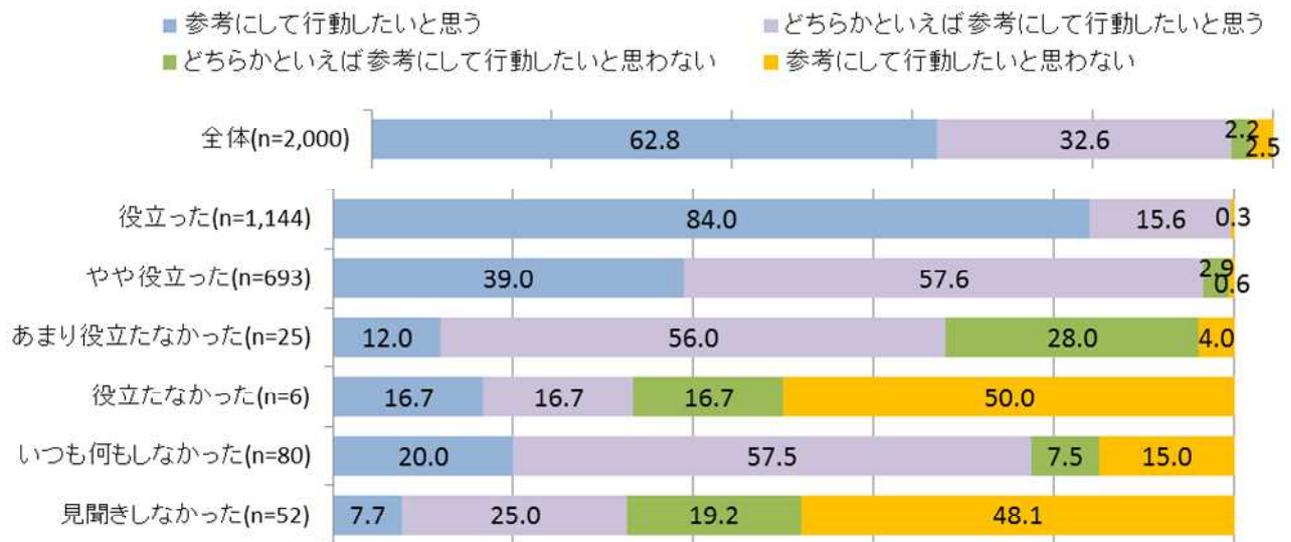
居住地別にみると、中国地方、九州南部・奄美地方では「参考にして行動したいと思う」が、全体に比べ高かった。

(5 - 2) 見聞の頻度 × 利用意向度



見聞の頻度と利用意向度のクロス集計をみると、見聞の頻度が高いほど利用意向度も高かった。

(5 - 3) 役立ち度 × 利用意向度



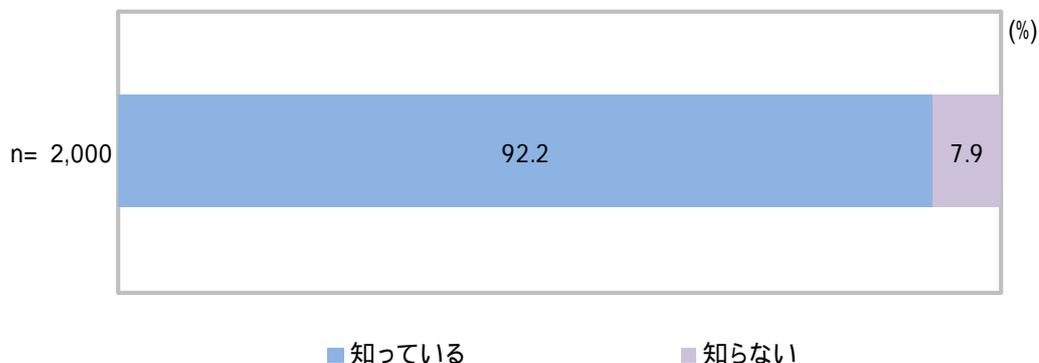
役立ち度と利用意向度のクロス集計をみると、「役立った」及び「やや役立った」の利用意向度は、それぞれ 100%及び 9 割台半ばであった。一方、「いつも何もしなかった」及び「見聞きしなかった」の利用意向度は、それぞれ 8 割弱及び 3 割半ばであった。

2 台風情報

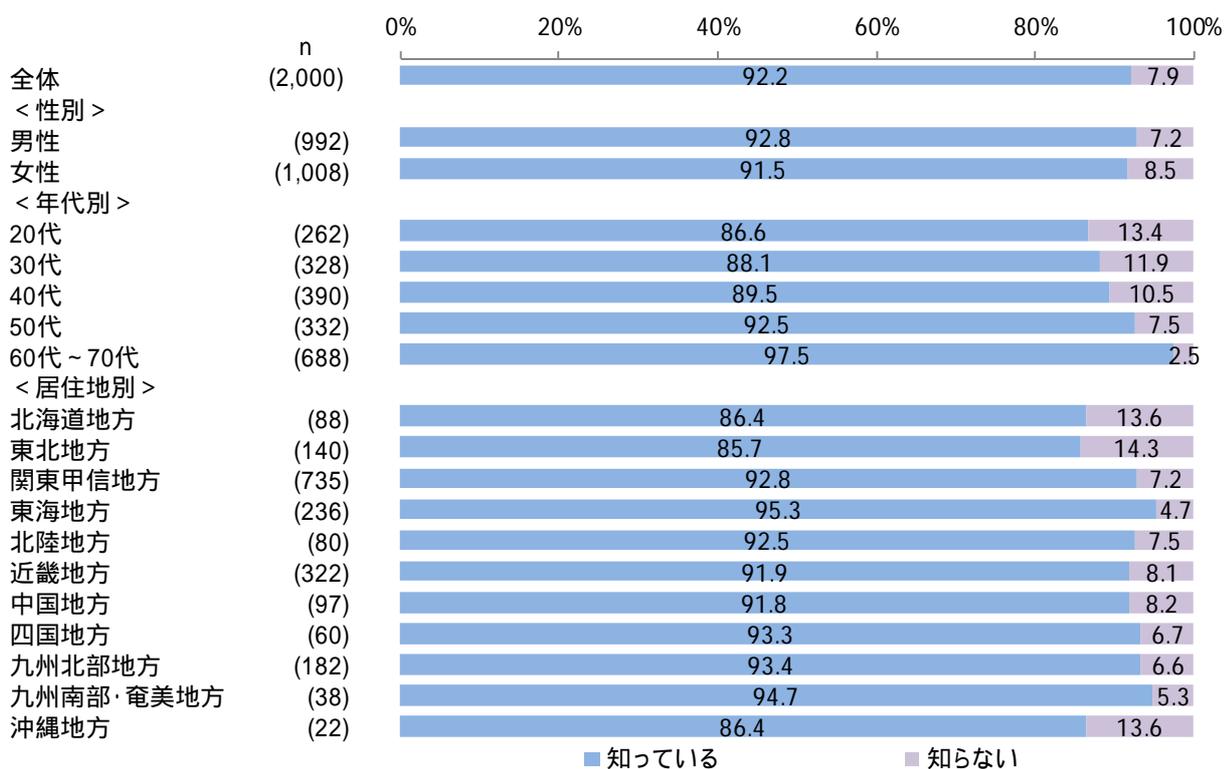
(6) 認知度

Q6 あなたは、台風情報を知っていますか。(は1つ)

ここでは、テレビやラジオ、新聞、インターネットなどで伝えられる台風の進路や強度に関する情報を「台風情報」と言います。



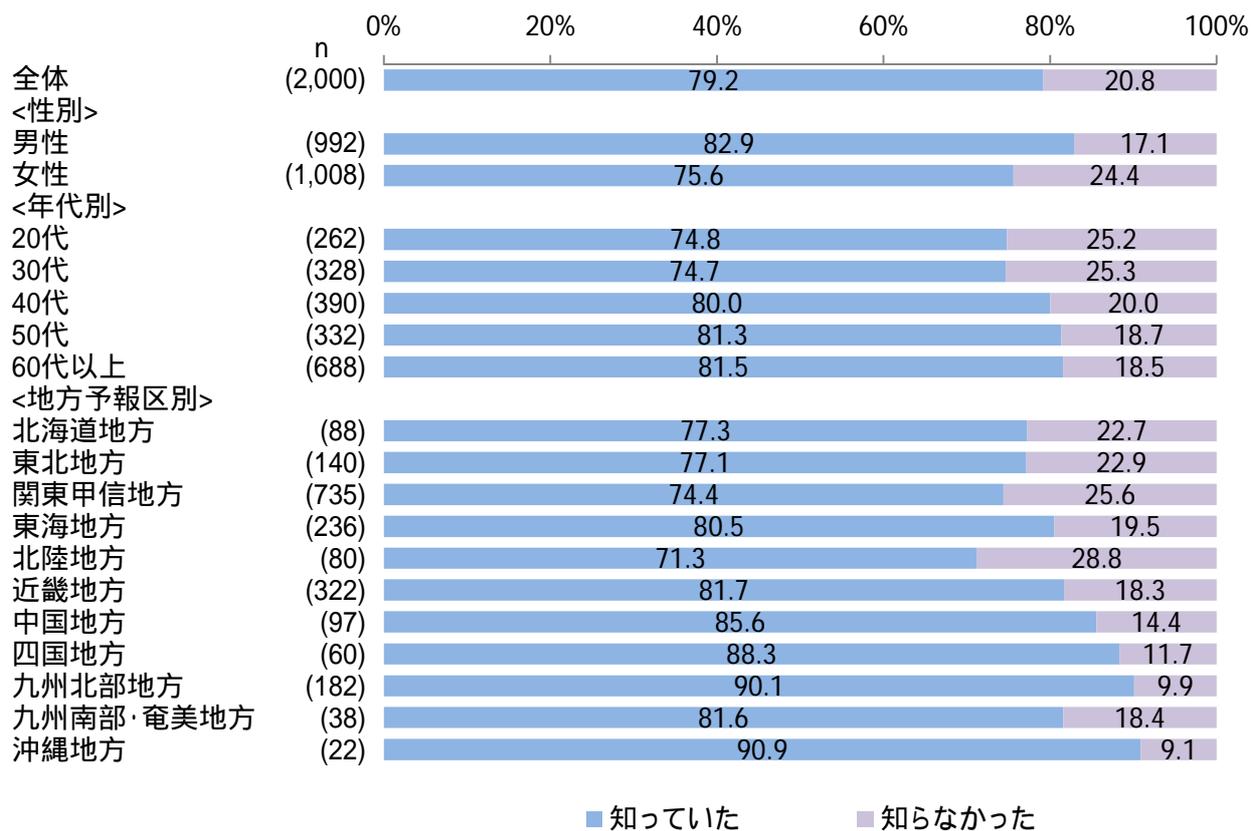
台風情報を「知っている」割合（認知度）は、9割強であった。



年代別にみると、高齢層ほど、「知っている」の割合が高かった。

居住地別にみると、北海道地方と東北地方では8割台半ばと、全体に比べ低かった。

平成 28 年度利活用状況調査



参照：平成 28 年度調査「防災気象情報の利活用状況等に関する調査結果」8 ページ

http://www.jma.go.jp/jma/kishou/hyouka/manzokudo/28manzokudo/28manzokudo_data.pdf

平成 28 年度調査の気象庁のホームページでの表示例を示して「台風情報を知っているか」と質問した結果と単純な比較は難しいが、参考に同調査結果を示す。年代別にみると、高齢層ほど、「知っている」の割合が高い傾向は、今回の調査と一致した。

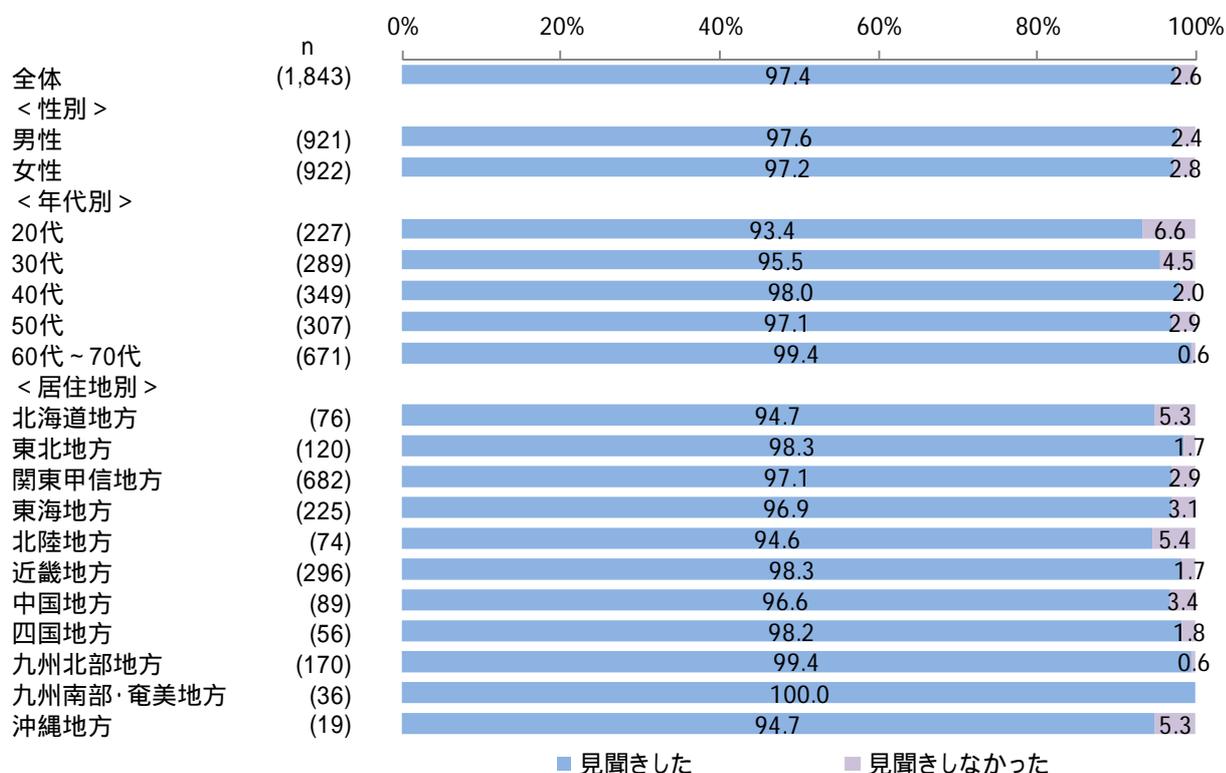
(7) 見聞の有無

Q7 あなたは、昨年1年間に台風情報を見聞きしましたか。(は1つ)

n=1,843 ベース：台風情報を知っていると回答した人



昨年1年間の台風情報の見聞の有無について、「見聞きした」が9割台半ばであった。



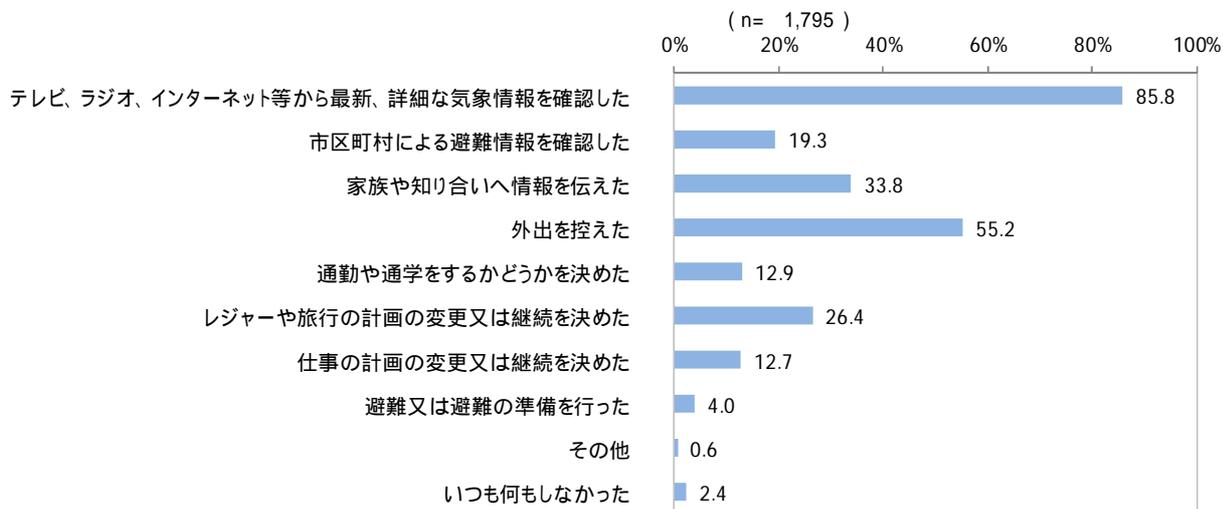
年代別にみると、概ね高齢層になるほど、「見聞きした」の割合が高かった。

居住地別にみると、北海道地方、北陸地方では「見聞きした」の割合が、全体に比べ低かった。

(8) 見聞時の行動

Q8 あなたは、昨年 1 年間に台風情報を見聞きした後、どのような行動をとりましたか。(はいいくつでも)

n=1,795 ベース：台風情報を見聞きしたと回答した人



台風情報の見聞時の行動について、「テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な気象情報を確認した」が 8 割台半ば、「外出を控えた」が 5 割台半ば、「家族や知り合いへ情報を伝えた」が 3 割台半ばであった。一方、「いつも何もしなかった」は 2%であった。「その他」として、「家の周りを片付けた」に類する回答が 6 件あった。

* は全体 +10ポイント以上、 は +5ポイント以上、 は -10ポイント以下、 は -5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	た詳細な気象情報を確認した	テレビ、ラジオ、インターネット等から最新の、	難市区町村による避難	市区町村を認めた	家族や知り合いへ	外出を控えた	か通勤や通学を決めた	通勤や通学を決めた	統計画の変更又は旅行の	レジャーや旅行の	又は仕事の計画の変更	仕事の計画の変更	備を難行又は避難の準備	その他	かいつも何もしな
全体	1795	85.8	19.3	33.8	55.2	12.9	26.4	12.7	4.0	0.6	2.4					
性別																
男性	899	86.8	18.7	30.7	47.5	13.0	28.5	17.6	3.8	0.4	2.1					
女性	896	84.9	20.0	36.9	62.9	12.8	24.3	7.8	4.1	0.7	2.7					
年代																
20代	212	83.5	22.2	35.4	47.6	18.4	25.9	14.2	2.8	0.0	2.8					
30代	276	84.4	23.2	39.5	53.3	12.0	23.6	12.3	4.3	0.0	3.6					
40代	342	89.8	20.8	41.5	51.8	20.2	24.9	16.7	4.4	0.0	0.9					
50代	298	87.6	15.8	29.9	48.0	12.4	17.4	12.4	3.0	1.0	4.0					
60代～70代	667	84.4	17.7	28.8	63.4	8.1	32.5	10.5	4.3	1.0	1.8					
居住地																
北海道地方	72	87.5	13.9	26.4	55.6	11.1	26.4	13.9	4.2	0.0	1.4					
東北地方	118	83.1	22.0	30.5	50.8	6.8	22.0	9.3	1.7	0.8	2.5					
関東甲信地方	662	83.7	15.4	34.1	55.4	14.5	29.2	12.5	2.1	0.5	3.5					
東海地方	218	88.1	22.5	31.2	54.1	13.3	25.2	11.5	3.7	0.0	2.3					
北陸地方	70	88.6	20.0	27.1	51.4	4.3	22.9	15.7	4.3	1.4	2.9					
近畿地方	291	85.9	25.8	37.5	55.7	12.4	27.5	12.7	6.9	1.0	1.7					
中国地方	86	87.2	15.1	36.0	53.5	10.5	26.7	8.1	3.5	0.0	0.0					
四国地方	55	81.8	25.5	30.9	54.5	9.1	20.0	12.7	5.5	0.0	5.5					
九州北部地方	169	89.9	18.3	38.5	55.0	14.8	21.3	14.8	5.3	1.2	0.6					
九州南部・奄美地方	36	91.7	27.8	33.3	77.8	22.2	30.6	27.8	13.9	0.0	0.0					
沖縄地方	18	94.4	16.7	27.8	61.1	27.8	22.2	11.1	5.6	0.0	0.0					

男女別にみると、女性では「外出を控えた」が6割台半ばと、男性に比べ15%高かった。

年代別にみると、60代～70代では「外出を控えた」が6割台半ばと、全体に比べ高かった。また、30代、40代では「家族や知り合いへ情報を伝えた」が4割前後と、全体に比べ高かった。

居住地別にみると、九州南部・奄美地方では、「外出を控えた」が8割弱、「仕事の計画の変更又は継続を決めた」が3割弱と、全体に比べ高かった。

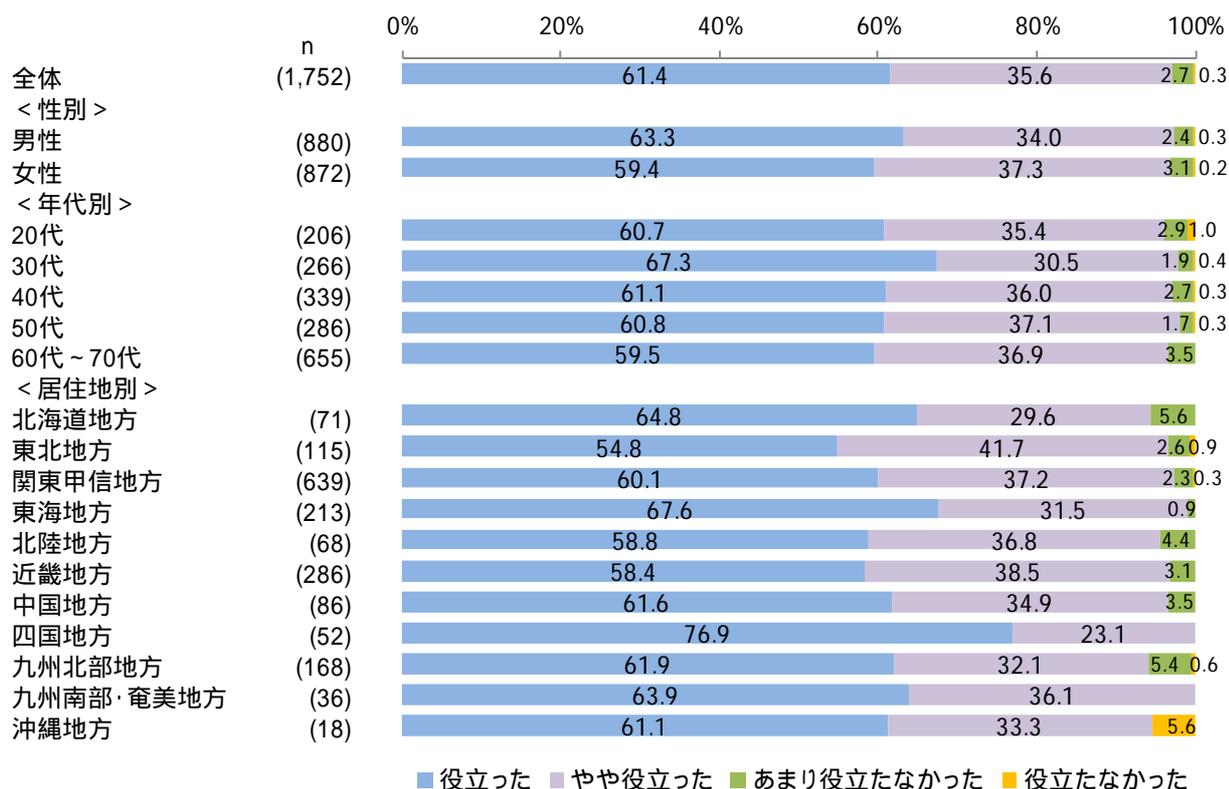
(9 - 1) 行動した人の役立ち感

Q9 あなたが昨年 1 年間に台風情報を見聞きしてとった行動の結果、台風情報はどの程度役立ったと思いますか。(1 は 1 つ)

n=1,752 ベース：台風情報の見聞時に行動したと回答した人



台風情報を見聞きして行動した人の役立ち感について、「役立った」が6割強、「やや役立った」が3割台半ばとなり、合わせた台風情報が役立ったと感じている方は9割台半ばであった。



年代別にみると、30代では「役立った」が6割台半ばと、全体に比べ高かった。

居住地別にみると、四国地方では「役立った」が7割台半ばと、全体に比べ高かった。

(9 - 2) 認知度、見聞の有無、利用度、役立ち度

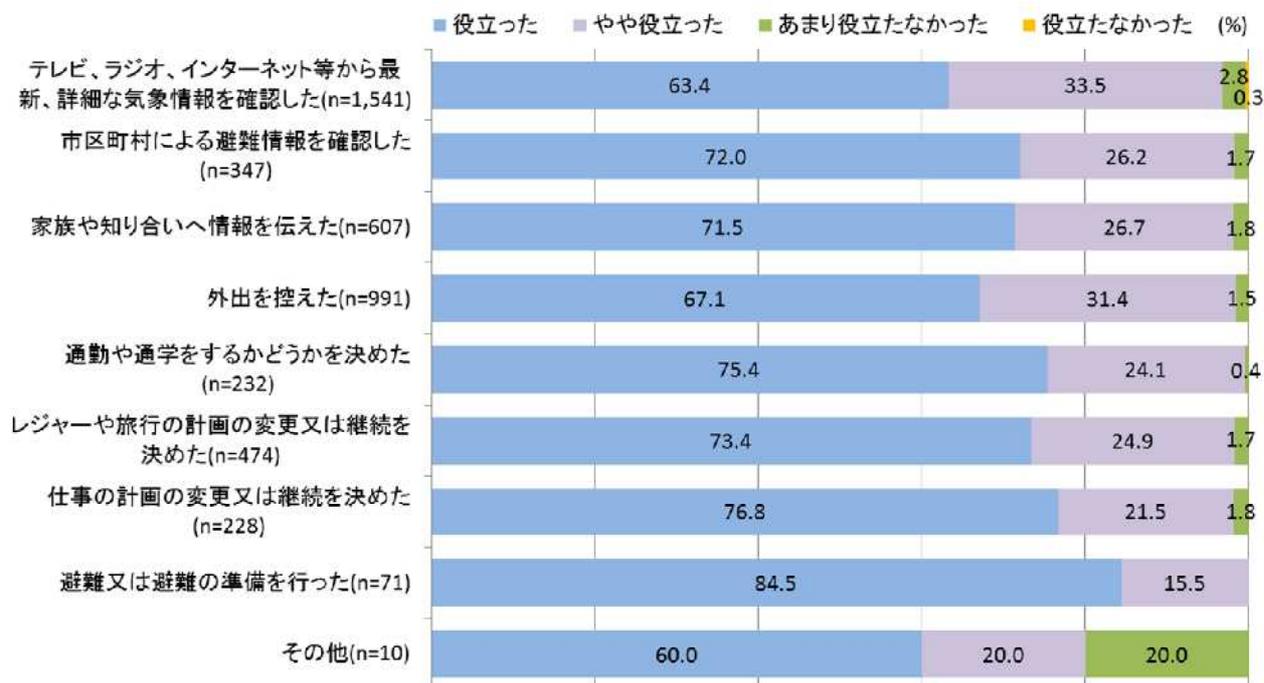


	n=2,000	(%)	認知度(%)	見聞有(%)	利用度(%)	役立ち度(%)
役立った		53.8	92.2	89.8	87.6	85.0
やや役立った		31.2				
あまり役立たなかった		2.4				
役立たなかった		0.3				
見聞きしたが、いつも何もしなかった		2.2				
見聞きしなかった		2.4				
台風情報を知らない		7.9				
合計		100.0				

有効回収数 (n=2,000) に対して、認知度、見聞の有無、見聞時の行動及び役立ち度をまとめると、認知度は9割強、見聞有は9割弱、利用度は9割弱及び役立ち度は8割台半ばであった。

(9 - 3) 見聞時の行動×行動した人の役立ち感

n=1,752 ベース：台風情報の見聞時に行動したと回答した人



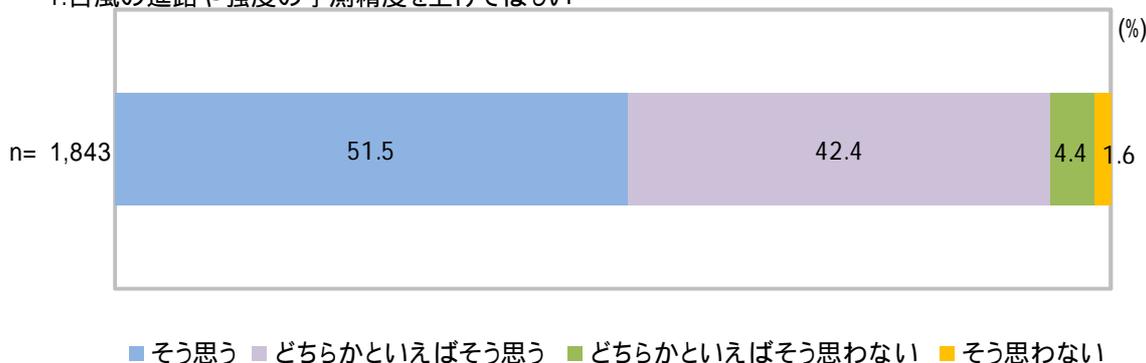
見聞時の行動と行動した人の役立ち感のクロス集計をみると、「役立った」の割合は「避難又は避難の準備を行った」が最も高く8割台半ばであった。一方、「テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な情報を確認した」は「役立った」の割合が6割台半ばで最も低かった。

(10 - 1) 台風情報への期待【予測精度の向上】

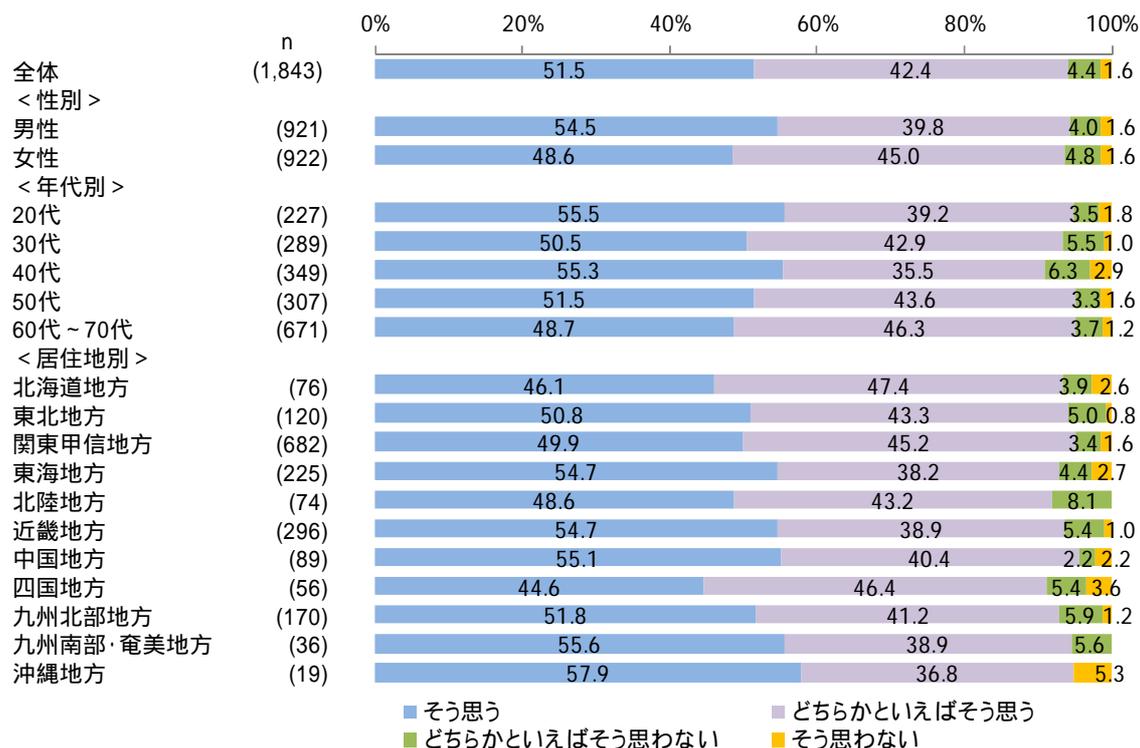
Q10 あなたは、台風情報について、どのように思いますか。(1 は 1 つ)

n=1,843 ベース：台風情報を知っていると回答した人

1. 台風の進路や強度の予測精度を上げてほしい



台風情報の予測精度向上への期待について、「そう思う」が5割強、「どちらかといえばそう思う」が4割強となり、合わせた予報精度向上の期待がある方は9割台半ばであった。

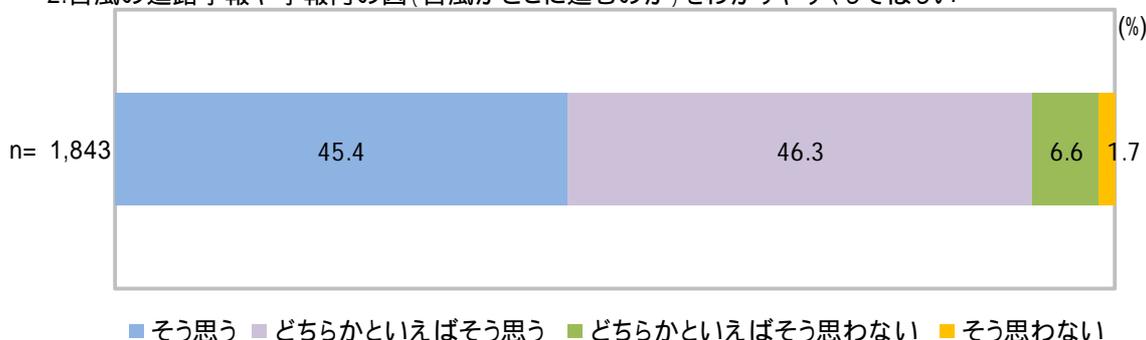


(10 - 2) 台風情報への期待【台風経路図の明瞭さ】

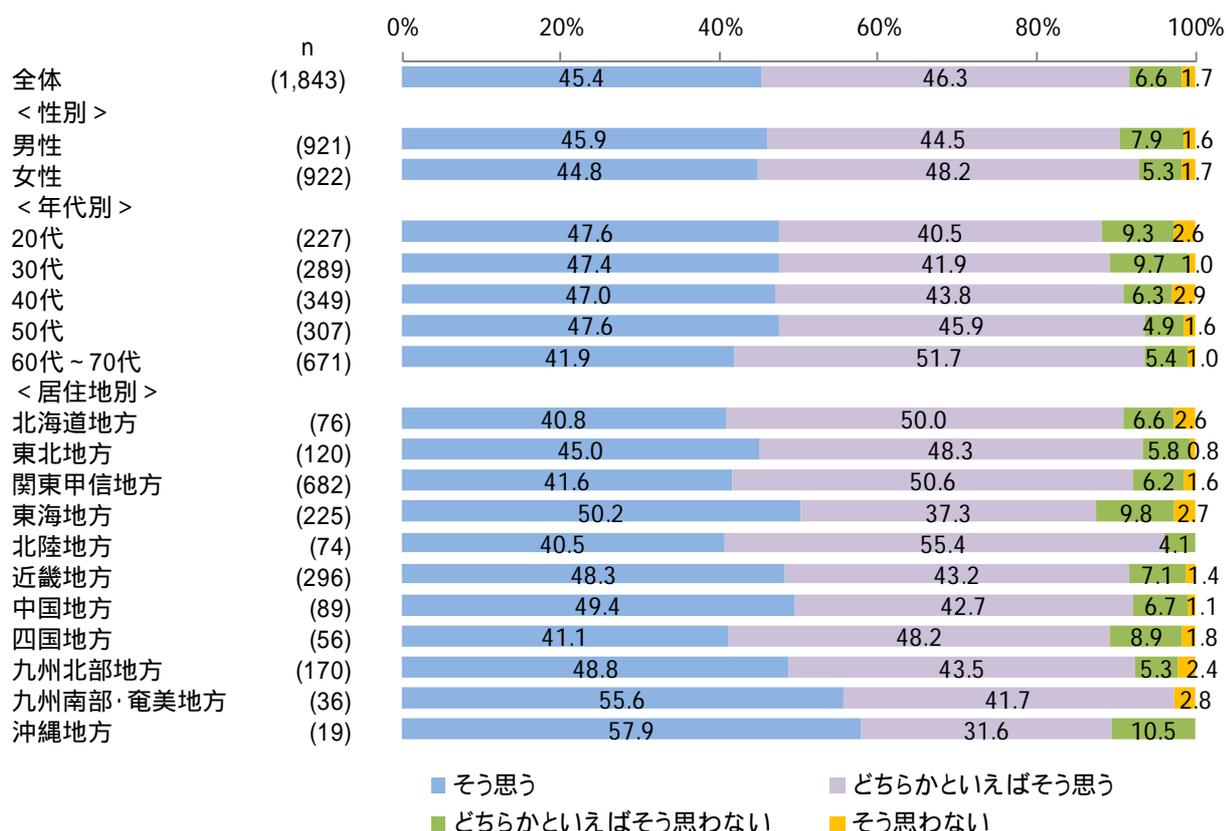
Q10 あなたは、台風情報について、どのように思いますか。(は1つ)

n=1,843 ベース：台風情報を知っていると回答した人

2.台風の進路予報や予報円の図(台風がどこに進むのか)をわかりやすくしてほしい



台風情報の経路図の明瞭さへの期待について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」がいずれも4割台半ばとなり、合わせた台風経路図の明瞭さへの期待のある方は9割強となっている。



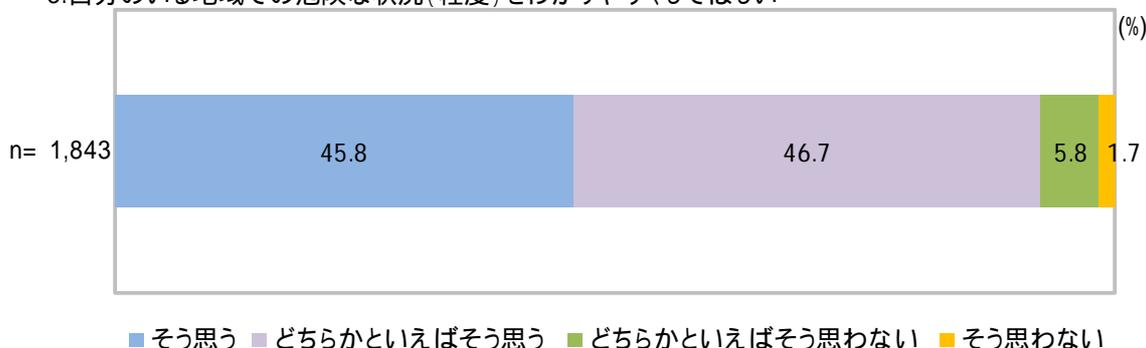
年代別にみると、いずれの年代においても「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた台風経路図の明瞭さへの期待のある割合は9割前後となり、高齢層になるほど、その割合は高くなる。居住地別にみると、九州南部・奄美地方では、全体に比べ高くなっている。

(10 - 3) 台風情報への期待【危険な状況の明瞭さ】

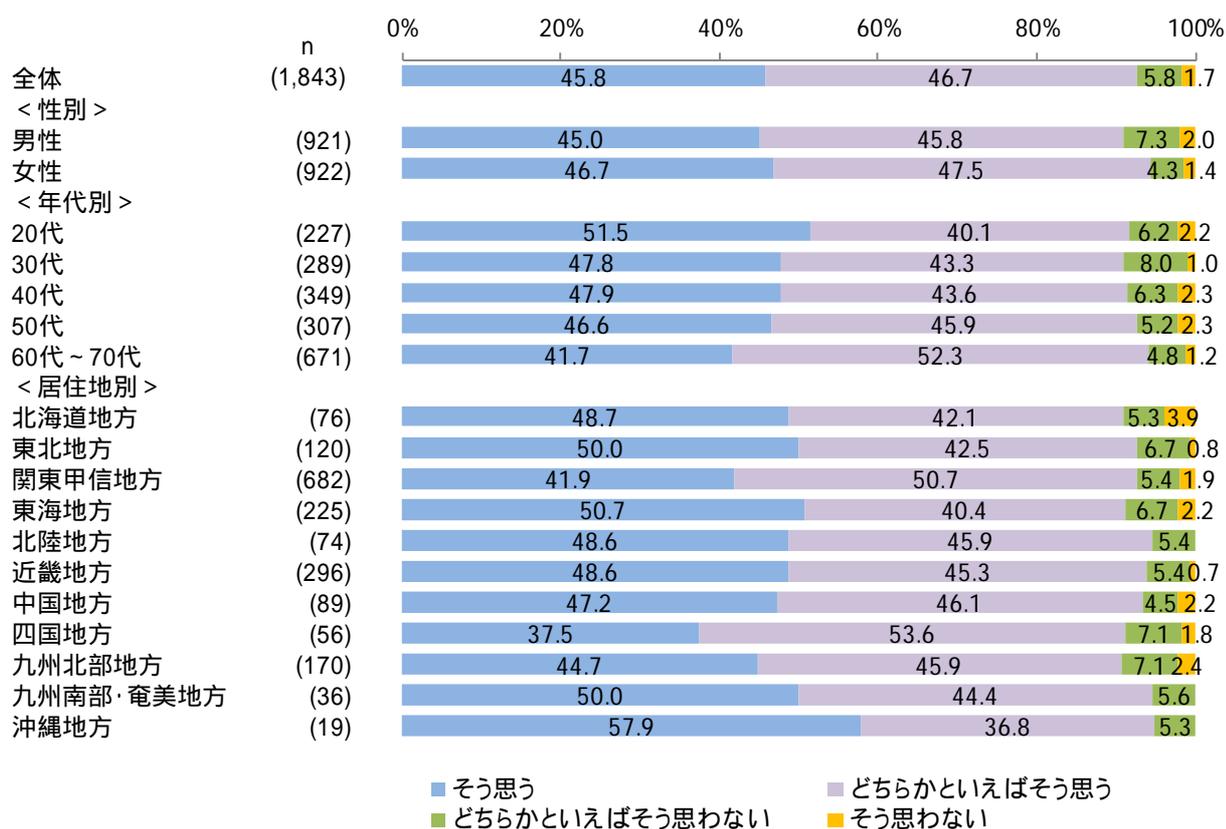
Q10 あなたは、台風情報について、どのように思いますか。(1 は1つ)

n=1,843 ベース：台風情報を知っていると回答した人

3.自分のいる地域での危険な状況(程度)をわかりやすくしてほしい



台風情報の危険な状況の明瞭さへの期待について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」がいずれも4割台半ばとなり、合わせた危険な状況の明瞭さを期待する方は9割強となっている。

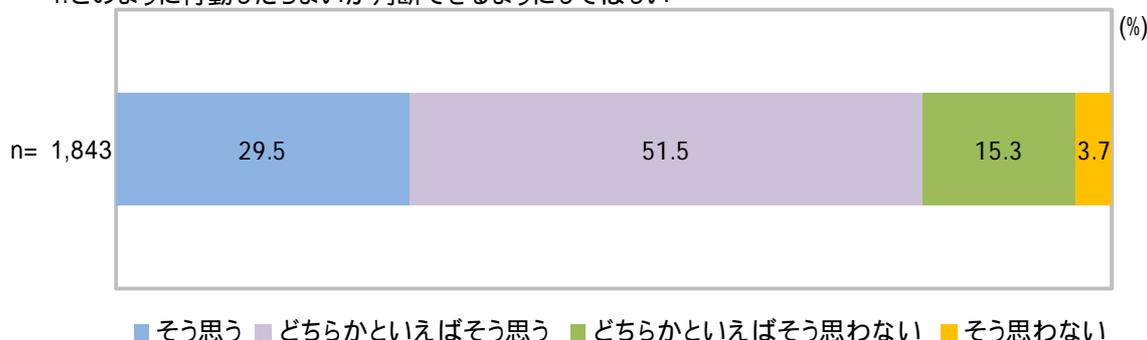


(10 - 4) 台風情報への期待【とるべき行動の判断】

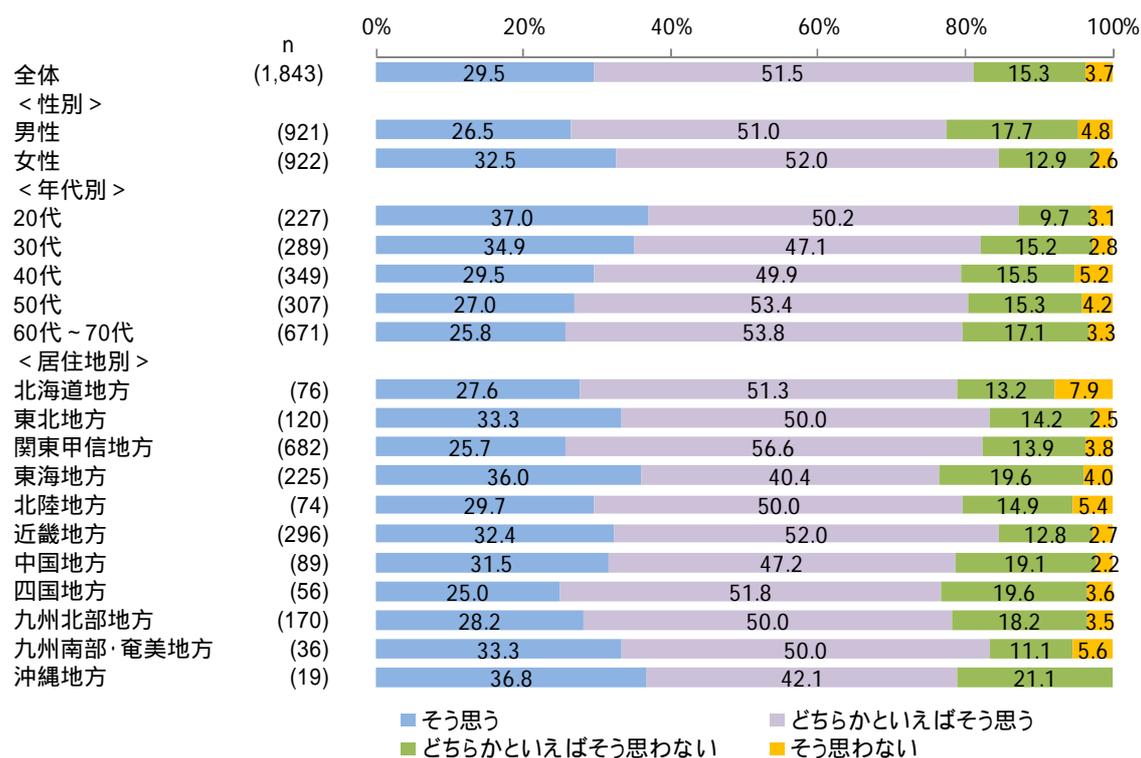
Q10 あなたは、台風情報について、どのように思いますか。(は1つ)

n=1,843 ベース：台風情報を知っていると回答した人

4.どのように行動したらよいか判断できるようにしてほしい



台風情報のとるべき行動が判断できる情報への期待について、「そう思う」が3割弱、「どちらかといえばそう思う」が5割強となり、合わせたとるべき行動が判断できる情報への期待のある方は8割強となっている。



男女別にみると、女性では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせたとるべき行動の判断ができる情報への期待のある方が8割台半ばと、男性に比べ7%高くなっている。

年代別にみると、20代では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせたとるべき行動の判断ができる情報への期待のある方が8割台半ばと、全体に比べ高くなっている。

居住地別にみると、東北地方、関東甲信地方、近畿地方、九州南部・奄美地方では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせたとるべき行動の判断ができる情報への期待のある方が、全体に比べ高くなっている。

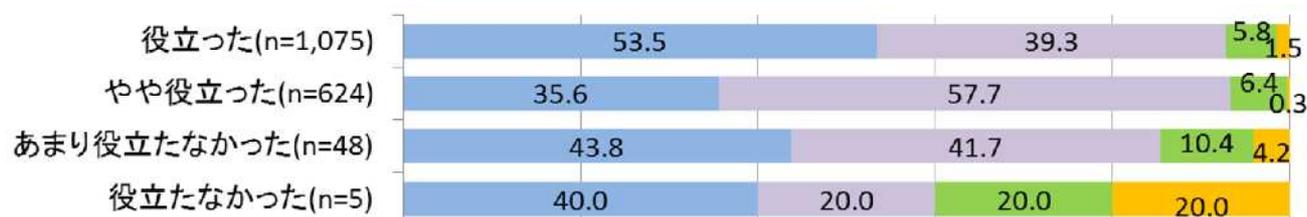
(10 - 5) 行動した人の役立ち感×台風情報への期待

n=1,752 ベース：台風情報の見聞時に行動したと回答した人

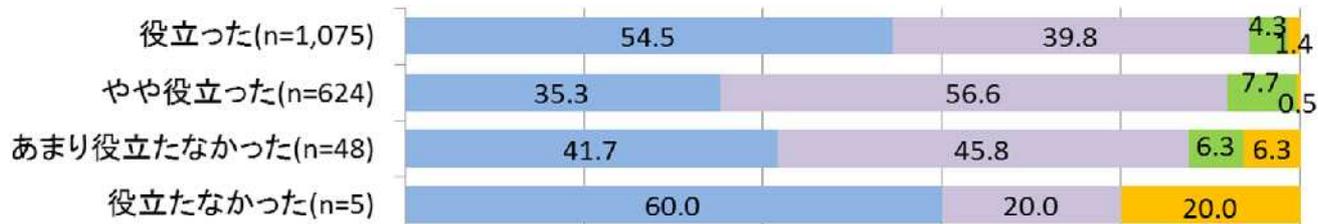
・予測精度の向上



・台風経路図の明瞭さ



・危険な状況の明瞭さ



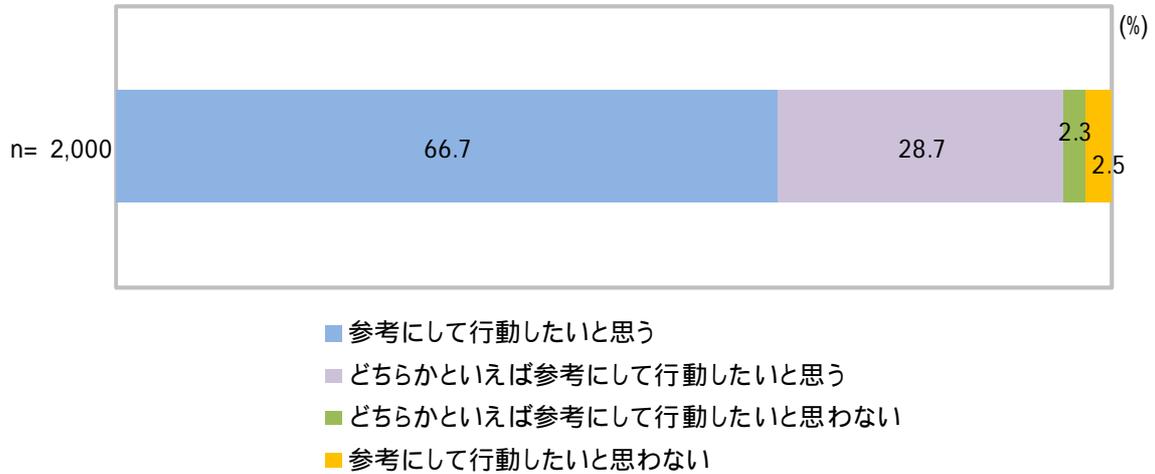
・とるべき行動の判断



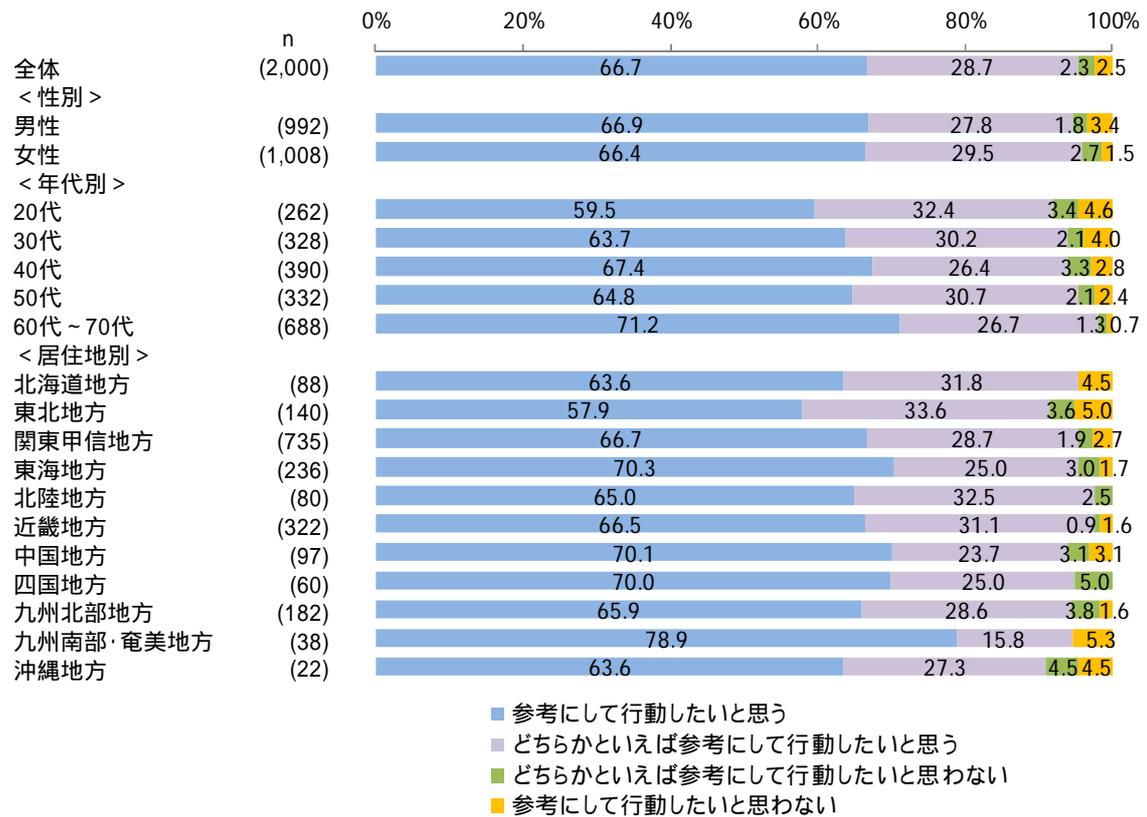
行動した人の役立ち感と台風情報への期待のクロス集計をみると、「役に立った」及び「やや役に立った」と回答した人のほうが、「あまり役に立たなかった」と回答した人より各項目とも期待度が高かった。

(1 1 - 1) 利用意向度

Q11 あなたは、今後、台風情報を参考にして行動したいと思いますか。(は1つ)



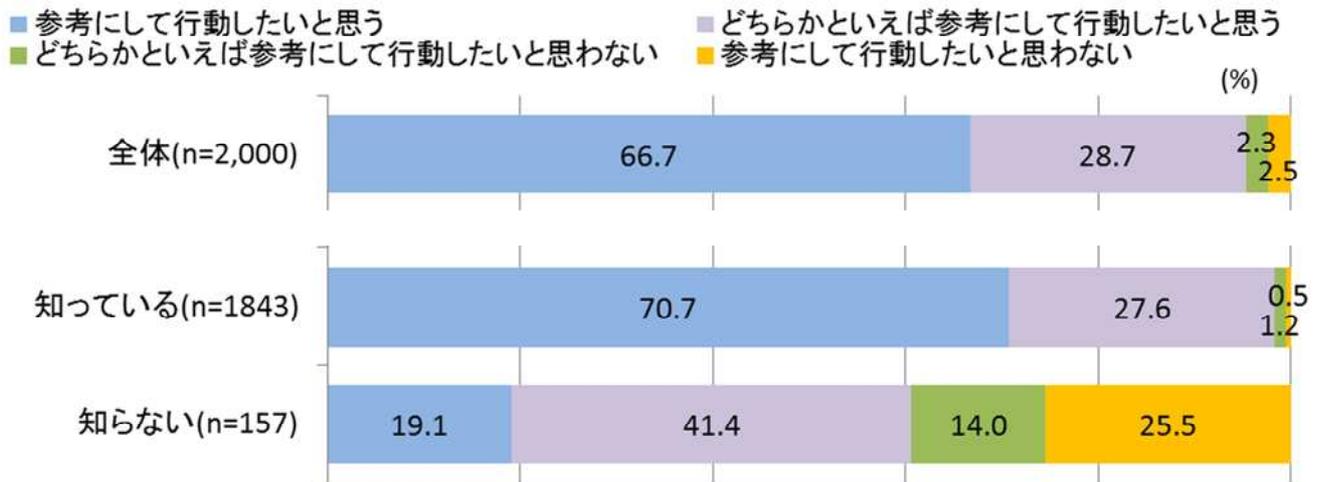
台風情報の利用意向度について、「参考にして行動したいと思う」が6割台半ば、「どちらかといえば参考にして行動したいと思う」が3割弱となり、合わせた台風情報の利用意向のある割合は9割台半ばであった。



年代別にみると、高齢層になるほど「参考にして行動したいと思う」、「どちらかといえば参考にして行動したいと思う」を合わせた台風情報の利用意向の割合が高い傾向であった。

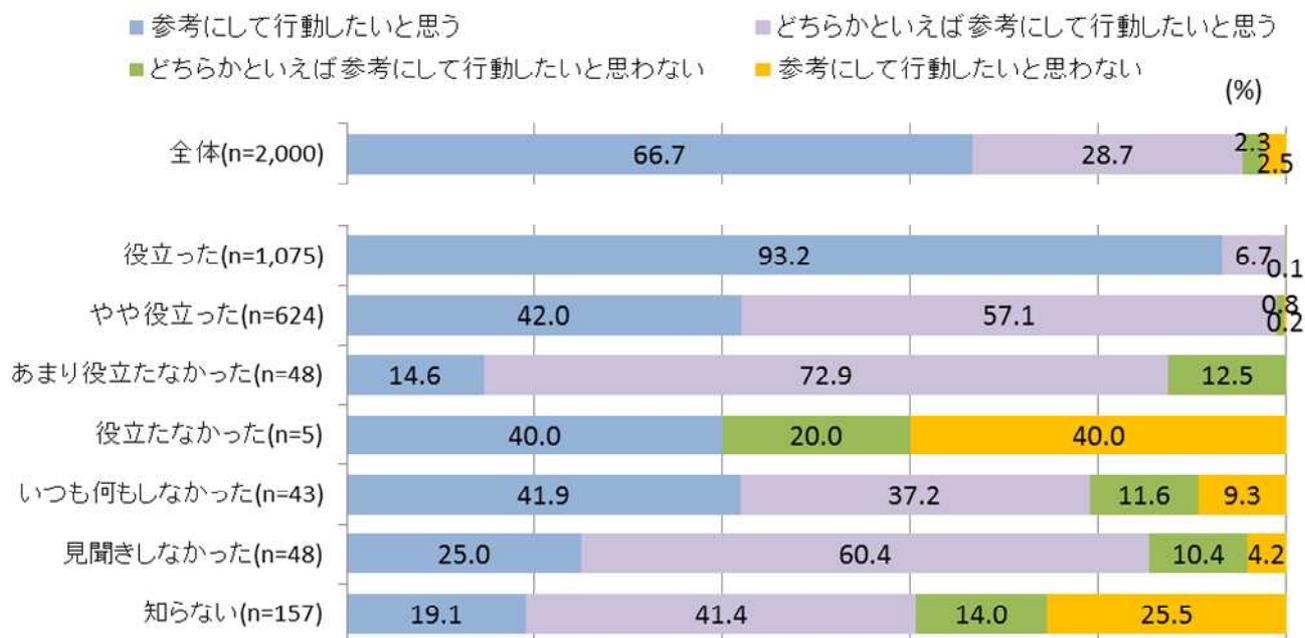
居住地別にみると、北陸地方、近畿地方では「参考にして行動したいと思う」、「どちらかといえば参考にして行動したいと思う」を合わせた台風情報の利用意向のある割合が、全体に比べ高かった。

(1 1 - 2) 認知度 × 利用意向度



認知度と利用意向度のクロス集計をみると、「知っている」のほうが「知らない」より利用意向度が 38% 高かった。

(1 1 - 3) 役立ち度 × 利用意向度



役立ち度と利用意向度のクロス集計をみると、「役立った」、「やや役立った」及び「あまり役立たなかった」の利用意向度はそれぞれ、100%、99%及び9割弱であった。一方、「いつも何もしなかった」、「見聞きしなかった」及び「知らない」の利用意向度は、それぞれ8割弱、8割台半ば及び6割強であった。

3 大雨警報等

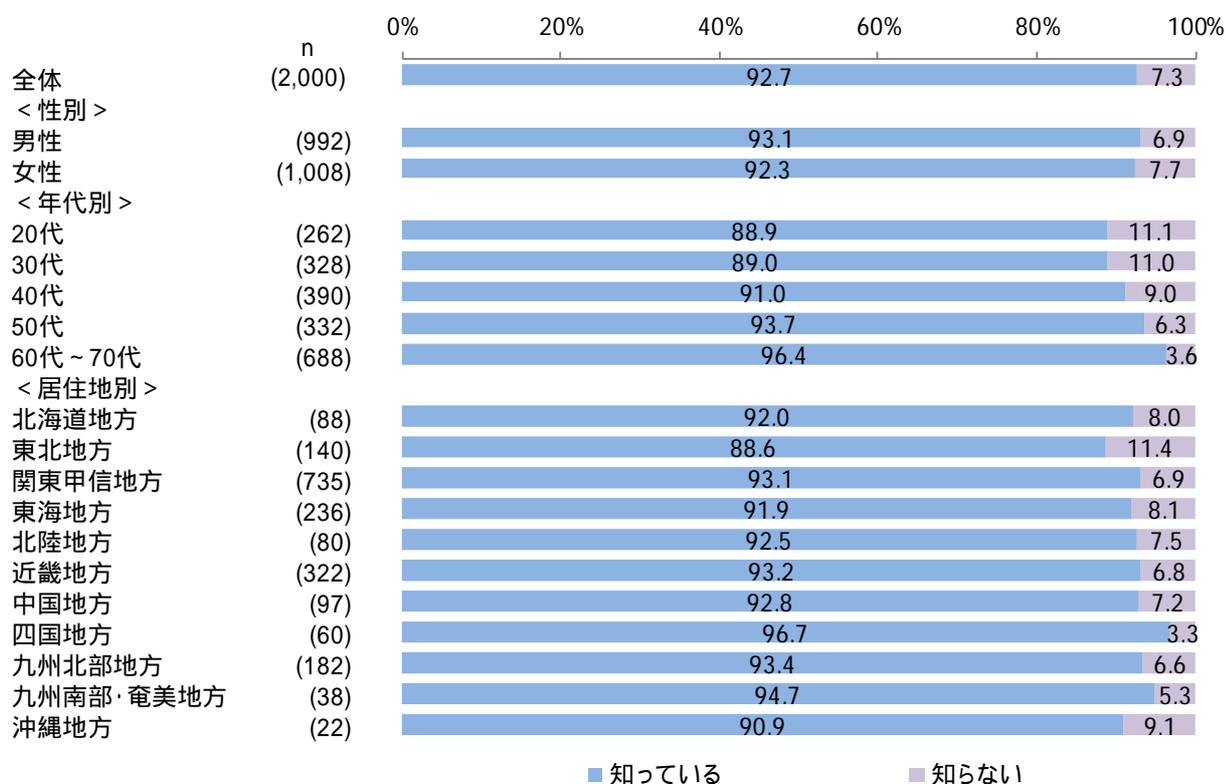
(12) 認知度

Q12 あなたは、大雨警報等を知っていますか。(は1つ)

ここでは、テレビやラジオ、新聞、インターネットなどで伝えられる大雨注意報、大雨警報、土砂災害警戒情報を「大雨警報等」と言います。



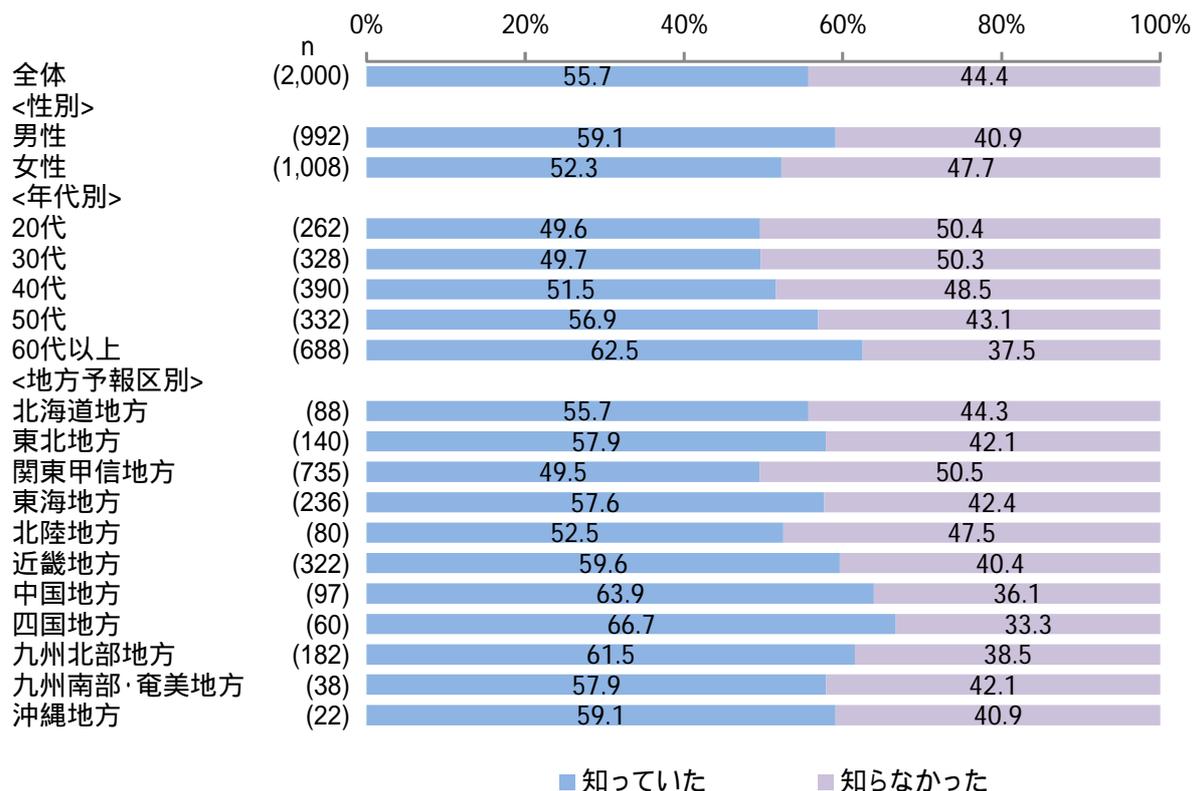
大雨警報等の認知度について、「知っている」が9割強となっている。



年代別にみると、高齢層になるほど「知っている」の割合が高かった。

居住地別にみると、四国地方では「知っている」の割合が全体に比べ高かった。

平成 28 年度利活用状況調査



参照：平成 28 年度調査「防災気象情報の利活用状況等に関する調査結果」14 ページ

http://www.jma.go.jp/jma/kishou/hyouka/manzokudo/28manzokudo/28manzokudo_data.pdf

平成 28 年度調査の気象庁のホームページでの表示例を示して「段階的に発表される「大雨注意報」、「大雨警報」及び「土砂災害警戒情報」を知っているか」と質問した結果と単純な比較は難しいが、参考に同調査結果を示す。年代別にみると、高齢層ほど、「知っている」の割合が高い傾向は、今回の調査と一致した。

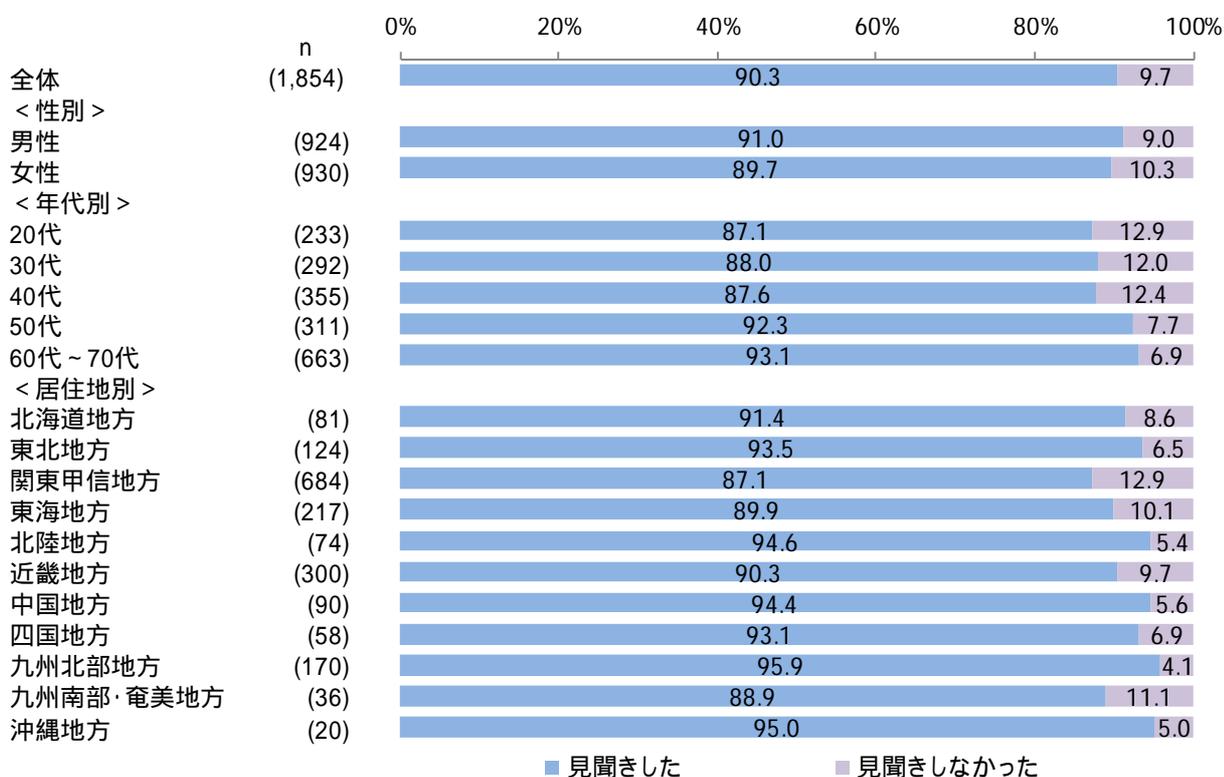
(13) 見聞の有無

Q13 あなたは、昨年1年間に自分のいる地域を対象とした大雨警報等を見聞きしましたか。(は1つ)

n=1,854 ベース：大雨警報等を知っていると回答した人



大雨警報等の見聞の有無について、「見聞きした」が9割強であった。

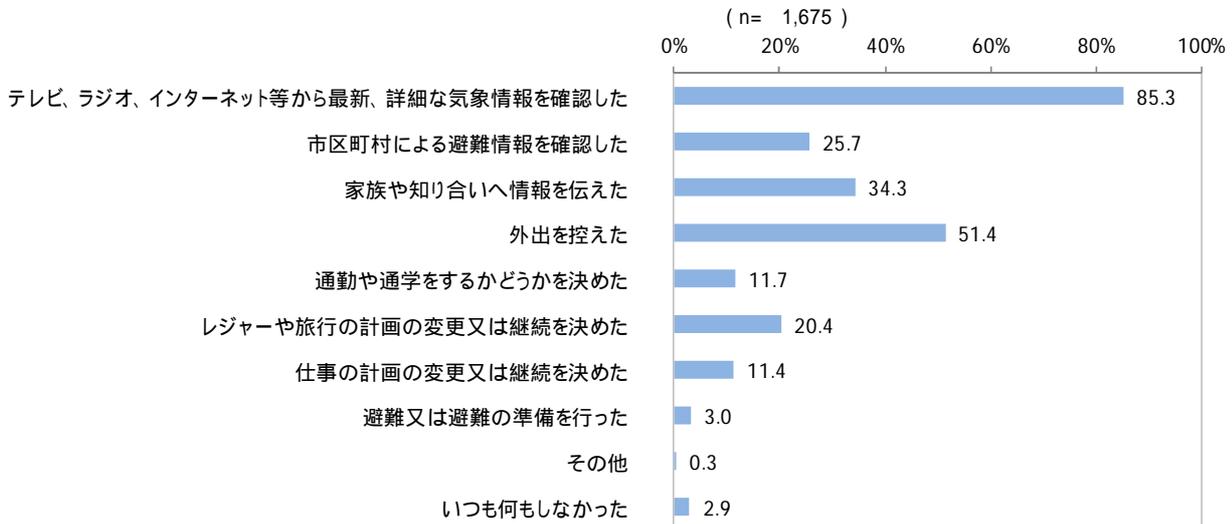


年代別にみると、50代、60代～70代では「見聞きした」の割合が9割以上と、全体に比べ高かった。

(14) 見聞時の行動

Q14 あなたは、昨年1年間に自分のいる地域を対象とした大雨警報等を見聞きした後、どのような行動をとりましたか。(はいいくつでも)

n=1,675 ベース：大雨警報等を見聞きしたと回答した人



大雨警報等の見聞時の行動について、「テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な気象情報を確認した」が8割台半ば、「外出を控えた」が5割強、「家族や知り合いへ情報を伝えた」が3割台半ばであった。一方、「いつも何もしなかった」は3%であった。

* は全体 + 10ポイント以上、 は + 5ポイント以上、 は - 10ポイント以下、 は - 5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	確認した 新、詳細な 気象情報 を	テレビ、 ラジオ、 インターネット 等から最 新	市区町村 による避 難情報 を確認し た	家族や知 り合いへ 情報を 伝えた	外出を 控えた	通勤や 通学を 決めた	通 勤 の 決 め た	レジャー や旅行 の決 め た	仕事の 計画の 変更 又は 継続 の決 め た	避難 又は 避 難 の 準 備 行 っ た	その他	か い つ も 何 も し な か ら な い
全体	1675	85.3	25.7	34.3	51.4	11.7	20.4	11.4	3.0	0.3	2.9		
性別													
男性	841	84.8	25.1	30.1	43.3	11.5	23.1	15.6	3.1	0.5	3.4		
女性	834	85.7	26.4	38.6	59.6	11.9	17.6	7.2	3.0	0.1	2.3		
年代													
20代	203	76.8	27.1	33.0	47.8	13.8	15.3	9.4	1.5	0.5	4.9		
30代	257	82.9	24.9	36.6	46.3	10.9	16.3	9.7	2.3	0.4	4.3		
40代	311	87.5	26.4	41.5	50.2	18.3	22.8	15.4	4.2	0.0	1.3		
50代	287	90.2	23.3	34.5	47.4	11.8	14.6	12.2	3.5	0.3	2.4		
60代～70代	617	85.6	26.4	30.1	57.2	7.9	25.1	10.4	3.1	0.3	2.6		
居住地													
北海道地方	74	90.5	21.6	25.7	51.4	10.8	23.0	13.5	2.7	0.0	1.4		
東北地方	116	81.9	29.3	34.5	50.0	6.9	18.1	10.3	3.4	0.0	1.7		
関東甲信地方	596	84.4	23.5	35.9	55.4	13.3	21.8	11.2	1.8	0.3	3.0		
東海地方	195	89.7	28.2	31.8	47.7	11.8	17.4	8.2	4.6	0.0	2.1		
北陸地方	70	84.3	27.1	27.1	37.1	5.7	24.3	14.3	2.9	1.4	5.7		
近畿地方	271	83.0	31.7	41.0	49.4	11.1	19.2	10.3	4.1	0.4	3.3		
中国地方	85	85.9	15.3	31.8	47.1	10.6	23.5	9.4	2.4	0.0	3.5		
四国地方	54	79.6	35.2	25.9	51.9	9.3	9.3	11.1	1.9	1.9	3.7		
九州北部地方	163	87.7	20.2	33.1	51.5	13.5	20.2	14.7	3.7	0.0	3.1		
九州南部・奄美地方	32	84.4	34.4	31.3	68.8	18.8	21.9	25.0	6.3	0.0	0.0		
沖縄地方	19	94.7	26.3	26.3	42.1	10.5	26.3	10.5	5.3	0.0	0.0		

男女別にみると、女性では「外出を控えた」が6割弱と、男性と比べ16%高かった。

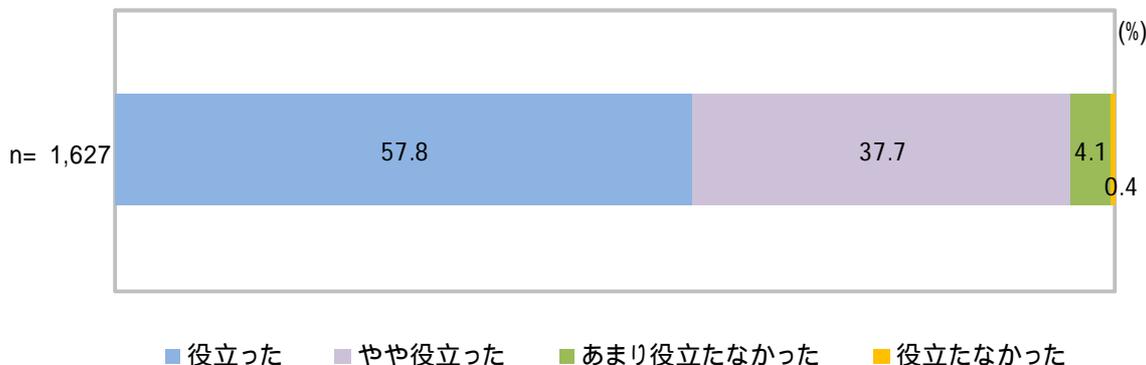
年代別にみると、20代では「テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な気象情報を確認した」が7割台半ばと、全体と比べ8%低かった。また、60代～70代では「外出を控えた」が5割台半ばと、全体に比べ6%高かった。

居住地別にみると、九州南部・奄美地方では「外出を控えた」が7割弱、「仕事の計画の変更又は継続を決めた」が2割台半ばと、全体に比べそれぞれ17%、14%高かった。

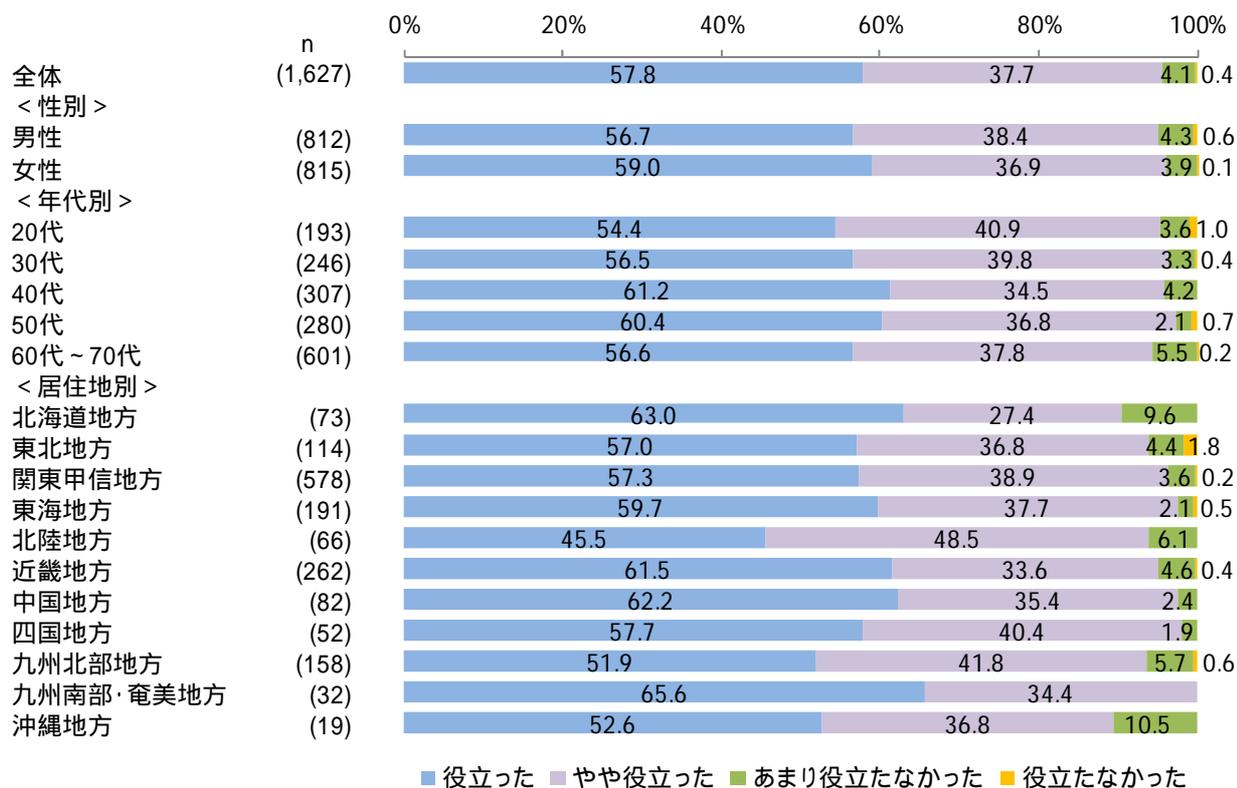
(15 - 1) 行動した人の役立ち感

Q15 あなたが昨年1年間に大雨警報等を見聞きしてとった行動の結果、大雨警報等ほどの程度役立ったと思いますか。(は1つ)

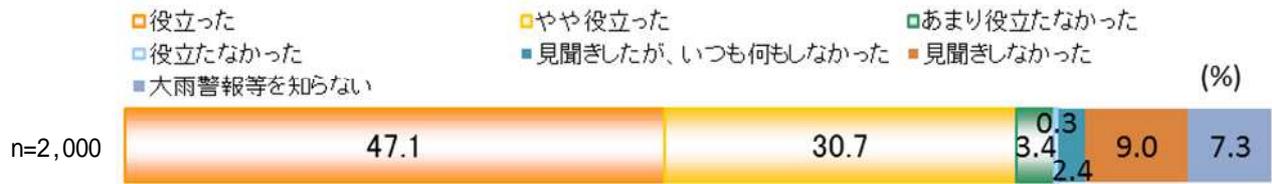
n=1,627 ベース:大雨警報等の見聞時に行動したと回答した人



大雨警報等を見聞きして行動した人の役立ち感について、「役立った」が6割弱、「やや役立った」が4割弱となり、合わせた大雨警報等が役立ったと感じている割合は9割台半ばとなっている。



(15 - 2) 認知度、見聞の有無、利用度、役立ち度

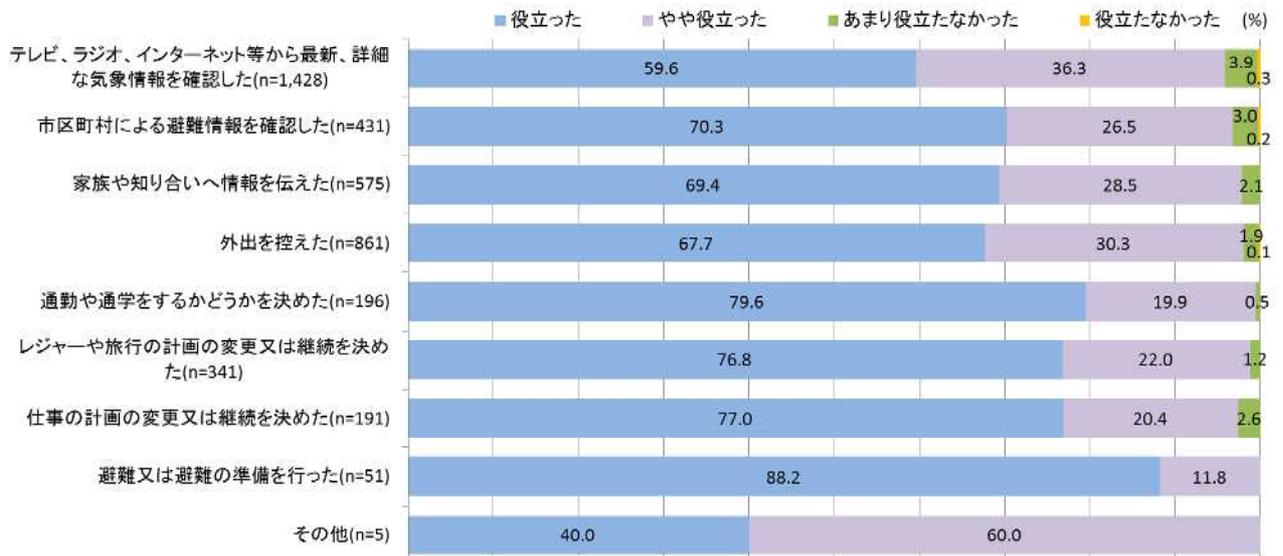


	n=2,000	(%)	認知度(%)	見聞有(%)	利用度(%)	役立ち度(%)
役立った		47.1	92.7	83.8	81.4	77.7
やや役立った		30.7				
あまり役立たなかった		3.4				
役立たなかった		0.3				
見聞きしたが、いつも何もしなかった		2.4				
見聞きしなかった		9.0				
大雨警報等を知らない		7.3				
合計		100.0				

有効回収数 (n=2,000) に対して、認知度、見聞の有無、見聞時の行動及び役立ち度をまとめると、認知度は9割台半ば、見聞有は8割台半ば、利用度は8割強及び役立ち度は8割弱であった。

(15 - 3) 見聞時の行動×行動した人の役立ち感

n=1,627 ベース：大雨警報等の見聞時に行動したと回答した人



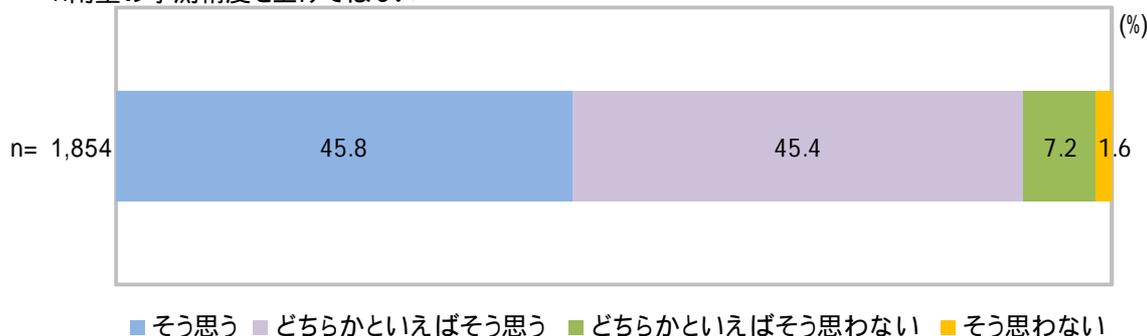
見聞時の行動と行動した人の役立ち感のクロス集計をみると、「役立った」の割合は「避難又は避難の準備を行った」が9割弱で最も高かった。一方、「テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な情報を確認した」は「役立った」の割合が6割弱で最も低かった。

(16 - 1) 大雨警報等への期待【予測精度の向上】

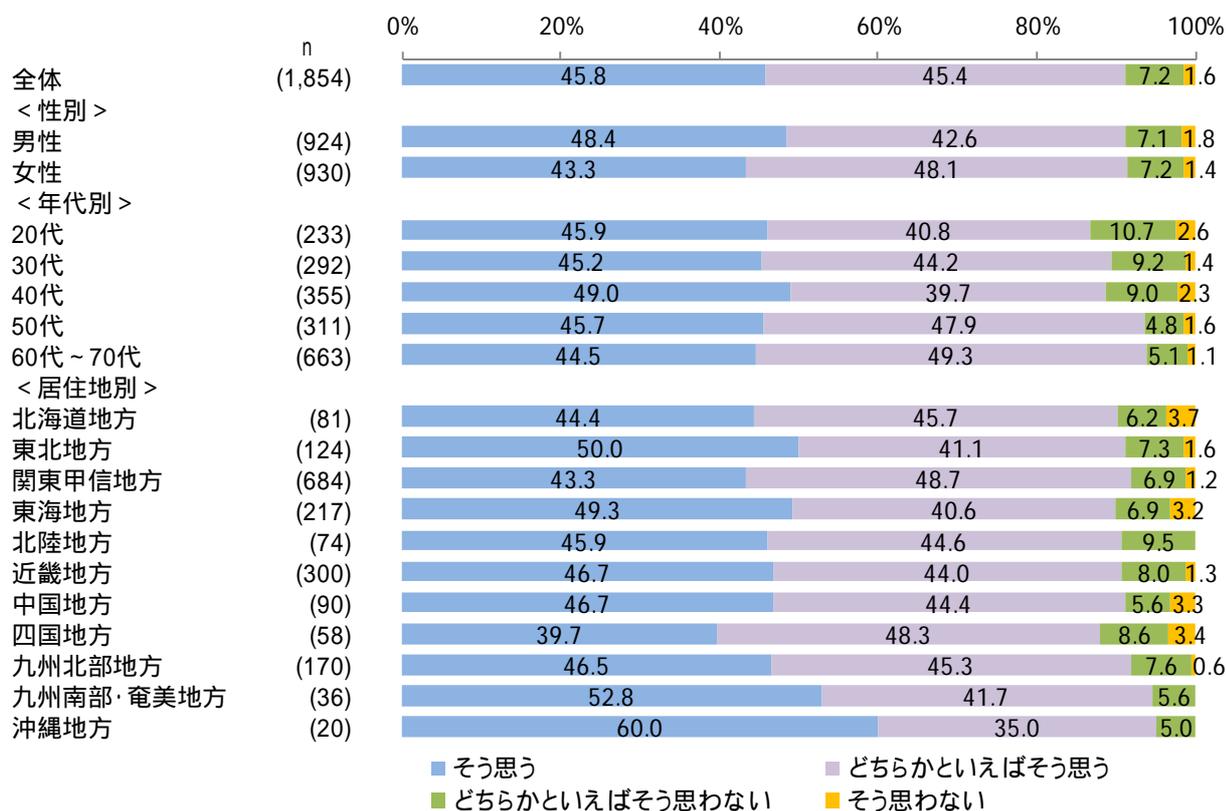
Q16 あなたは、大雨警報等について、どのように思いますか。(は1つ)

n=1,854 ベース：大雨警報等を知っていると回答した人

1.雨量の予測精度を上げてほしい



大雨警報等の雨量の予測精度向上への期待について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」がいずれも4割台半ばとなり、合わせた予測精度向上への期待のある割合は9割強であった。



年代別にみると、50代、60代~70代では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた予測精度向上への期待のある割合が、全体に比べ高かった。

居住地別にみると、九州南部・奄美地方では、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた予測精度向上への希望のある割合が、全体に比べ、高かった。

(16 - 2) 大雨警報等への期待【発表のタイミング】

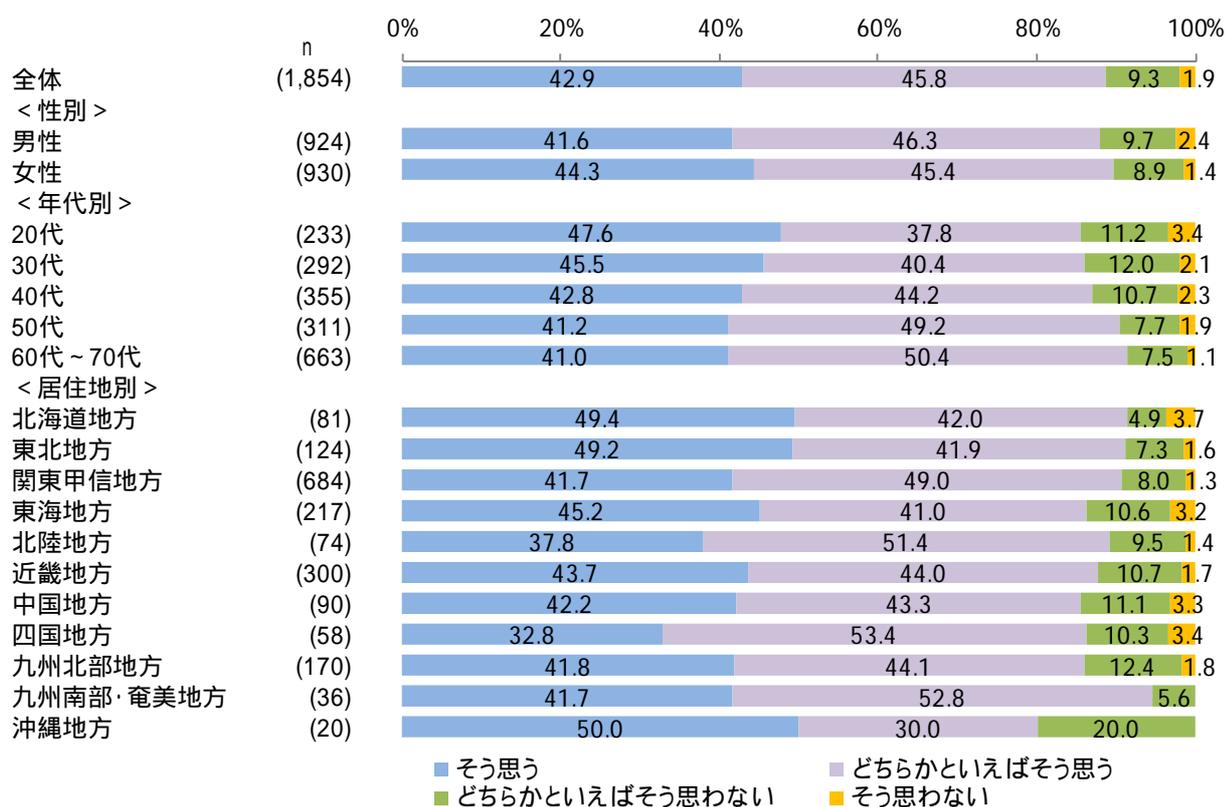
Q16 あなたは、大雨警報等について、どのように思いますか。(は1つ)

n=1,854 ベース：大雨警報等を知っていると回答した人

2.発表のタイミングを早くしてほしい



大雨警報等の発表のタイミング早期化への期待について、「そう思う」及び「どちらかといえばそう思う」が4割台半ばとなり、合わせた早期のタイミングでの発表を求める方は9割弱であった。



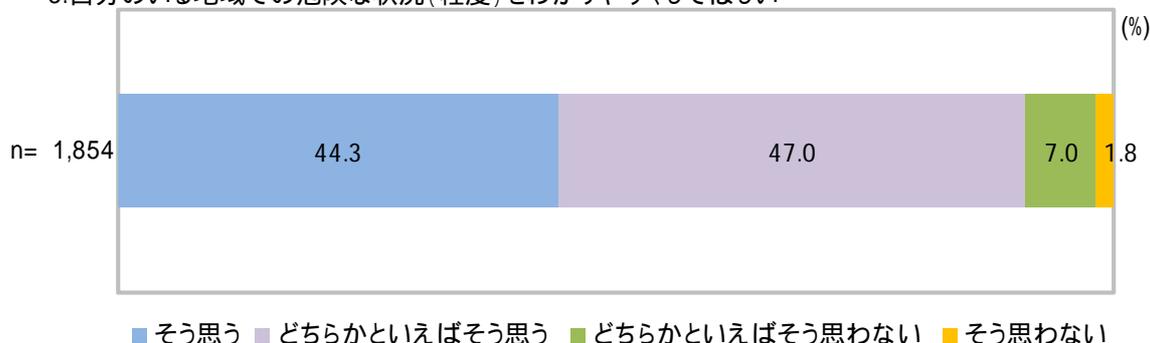
年代別にみると、高齢層になるほど「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせたタイミング早期化への期待の割合が高かった。

(16 - 3) 大雨警報等への期待【危険な状況の明瞭さ】

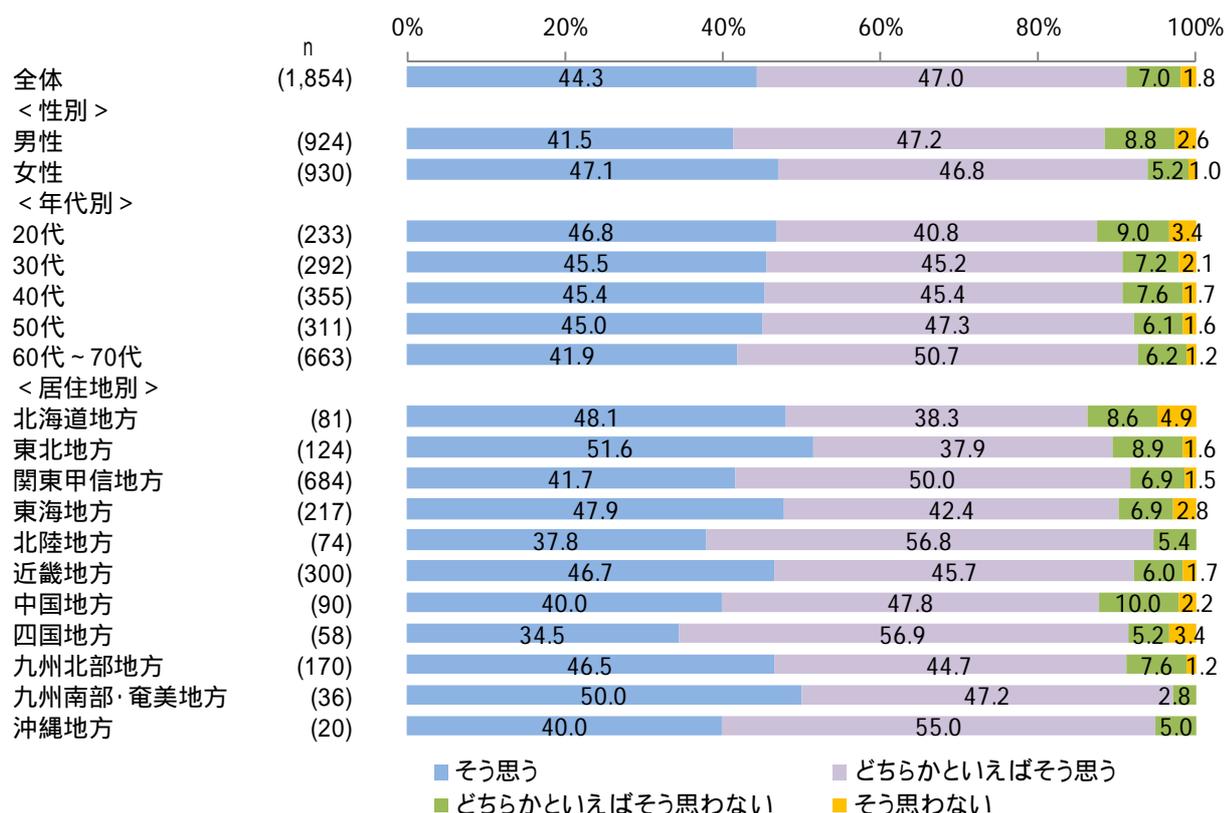
Q16 あなたは、大雨警報等について、どのように思いますか。(は1つ)

n=1,854 ベース：大雨警報等を知っていると回答した人

3.自分のいる地域での危険な状況(程度)をわかりやすくしてほしい



大雨警報等の危険な状況の明瞭さへの期待について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」がいずれも4割台半ばとなり、合わせた危険な状況の明瞭さへの期待のある方は9割強であった。



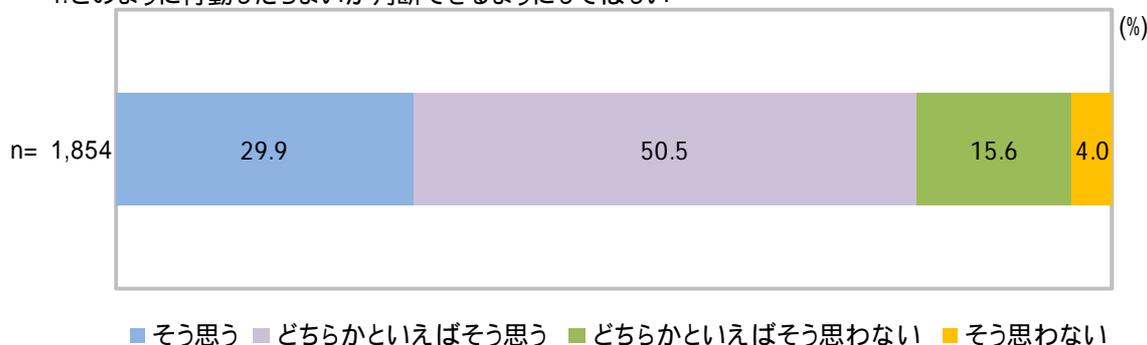
男女別にみると、女性では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた危険な状況の明瞭さへの期待のある割合は9割台半ばと、男性に比べ5%高かった。

(16 - 4) 大雨警報等への期待【とるべき行動の判断】

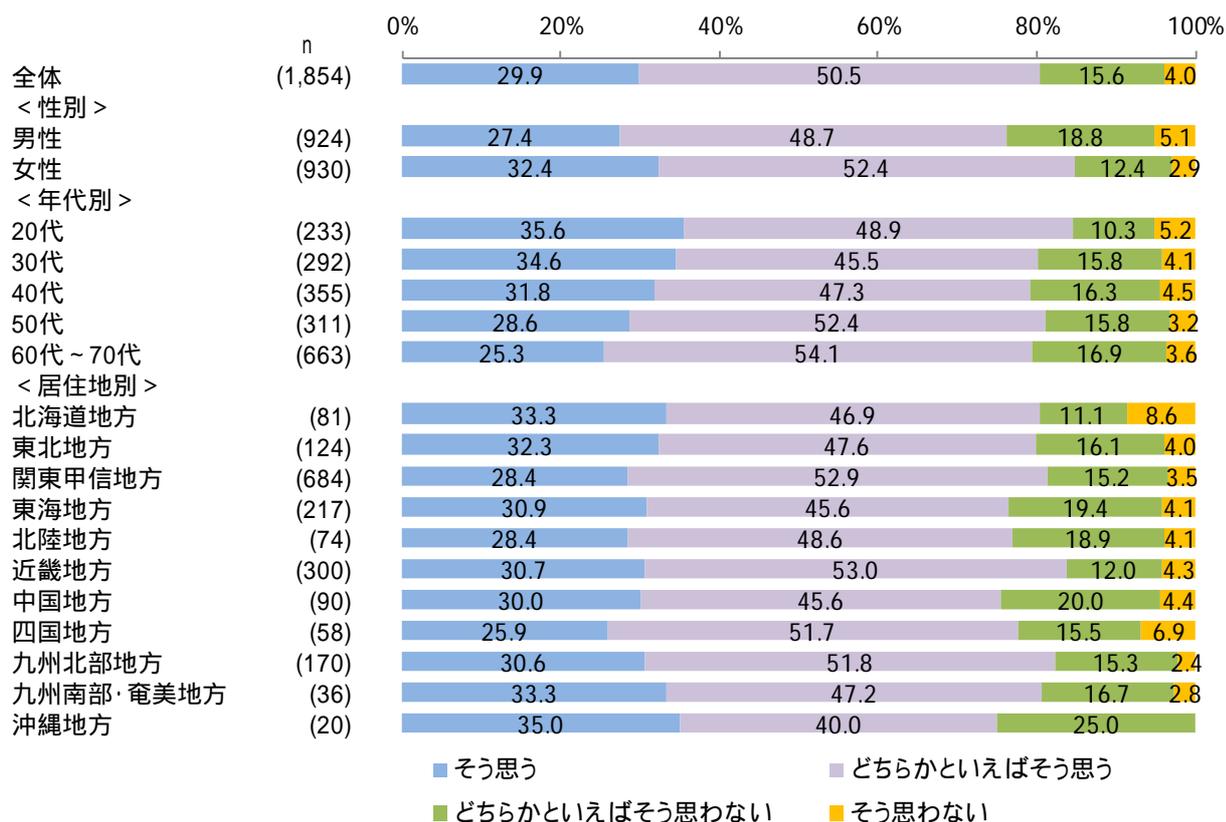
Q16 あなたは、大雨警報等について、どのように思いますか。(は1つ)

n=1,854 ベース：大雨警報等を知っていると回答した人

4.どのように行動したらよいか判断できるようにしてほしい



大雨警報等のとるべき行動が判断できる情報への期待について、「どちらかといえばそう思う」が5割強と最も高く、次いで「そう思う」が3割弱となり、合わせたとるべき行動が判断できる情報への期待のある割合は8割強であった。



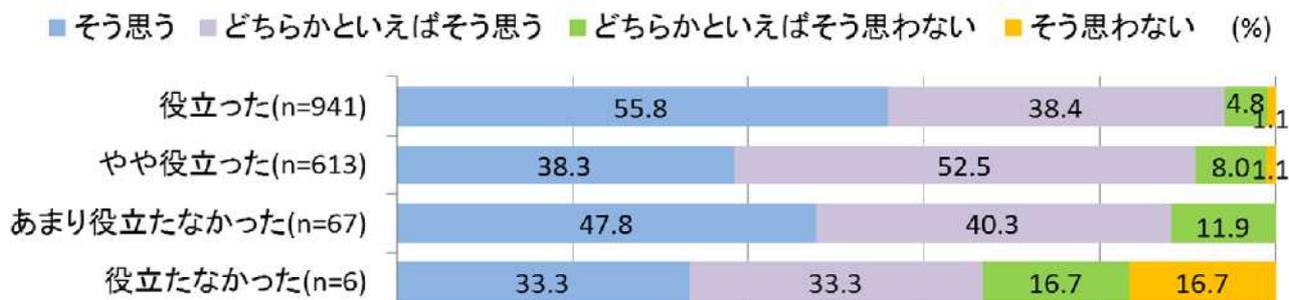
男女別にみると、女性では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせたとるべき行動が判断できる情報への期待のある割合は8割台半ばと、男性に比べ9%高かった。

年代別にみると、20代では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせたとるべき行動が判断できる情報への期待のある割合は8割台半ばと、全体に比べ高かった。

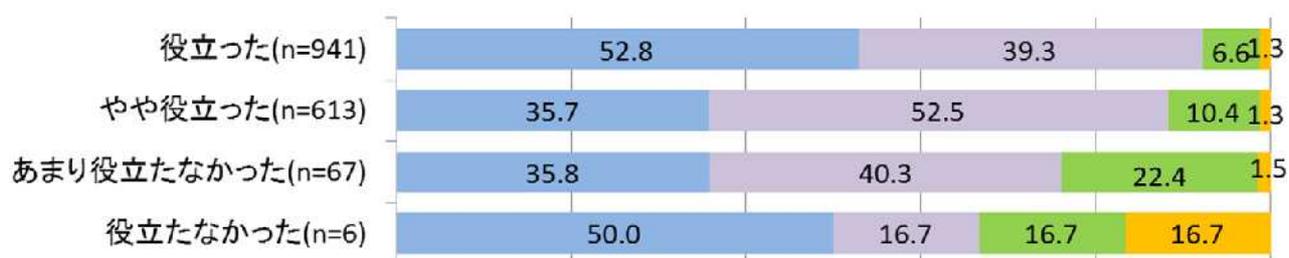
(16 - 5) 行動した人の役立ち感 × 大雨警報等への期待

n=1,627 ベース：大雨警報等の見聞時に行動したと回答した

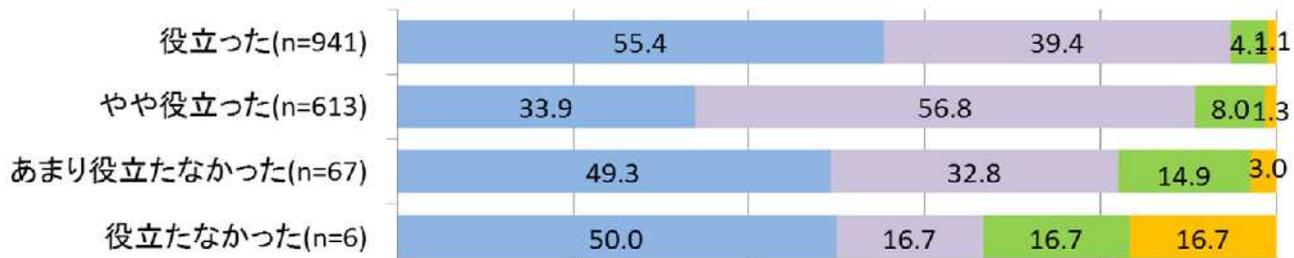
・予測精度の向上



・発表のタイミング



・危険な状況の明瞭さ



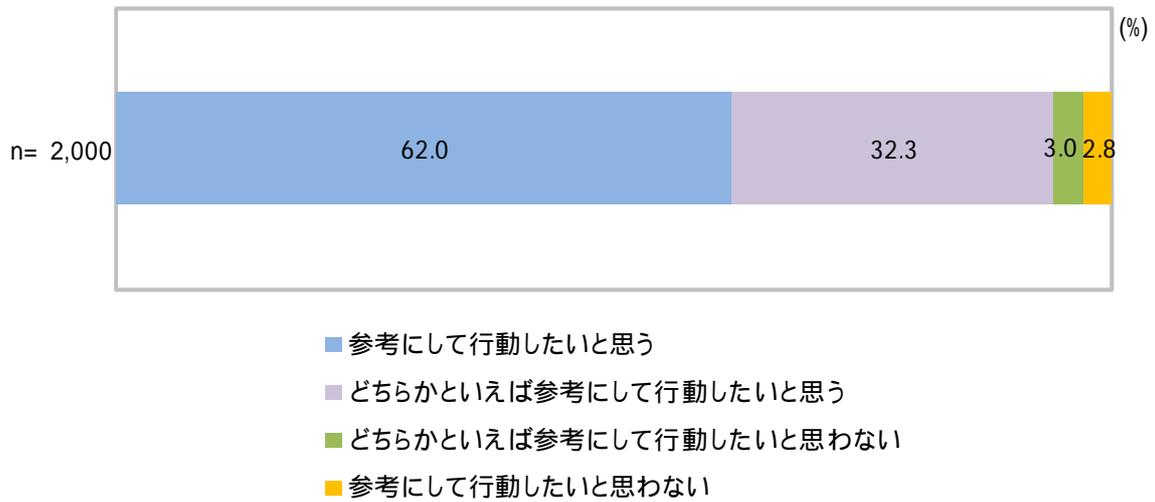
・とるべき行動の判断



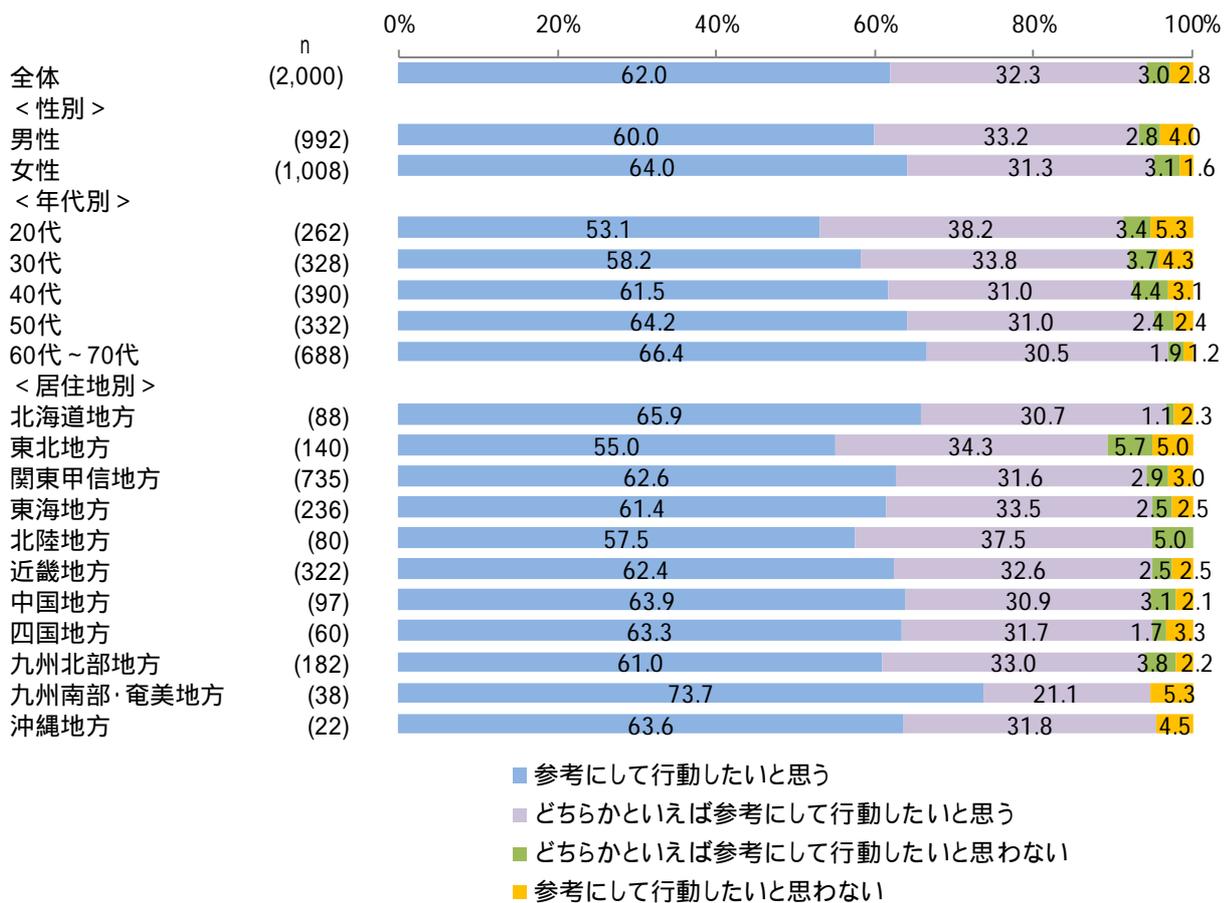
行動した人の役立ち感と大雨警報等への期待のクロス集計をみると、「役立った」及び「やや役立った」と回答した人のほうが、「あまり役立たなかった」と回答した人より各項目とも期待度が高かった。

(17 - 1) 利用意向度

Q17 あなたは、今後、大雨警報等を参考にして行動したいと思いますか。(は1つ)



今後の大雨警報等の利用意向度について、「参考にして行動したいと思う」が6割強、「どちらかといえば参考にして行動したいと思う」が3割強となり、合わせた大雨警報等の利用意向のある方は9割台半ばであった。



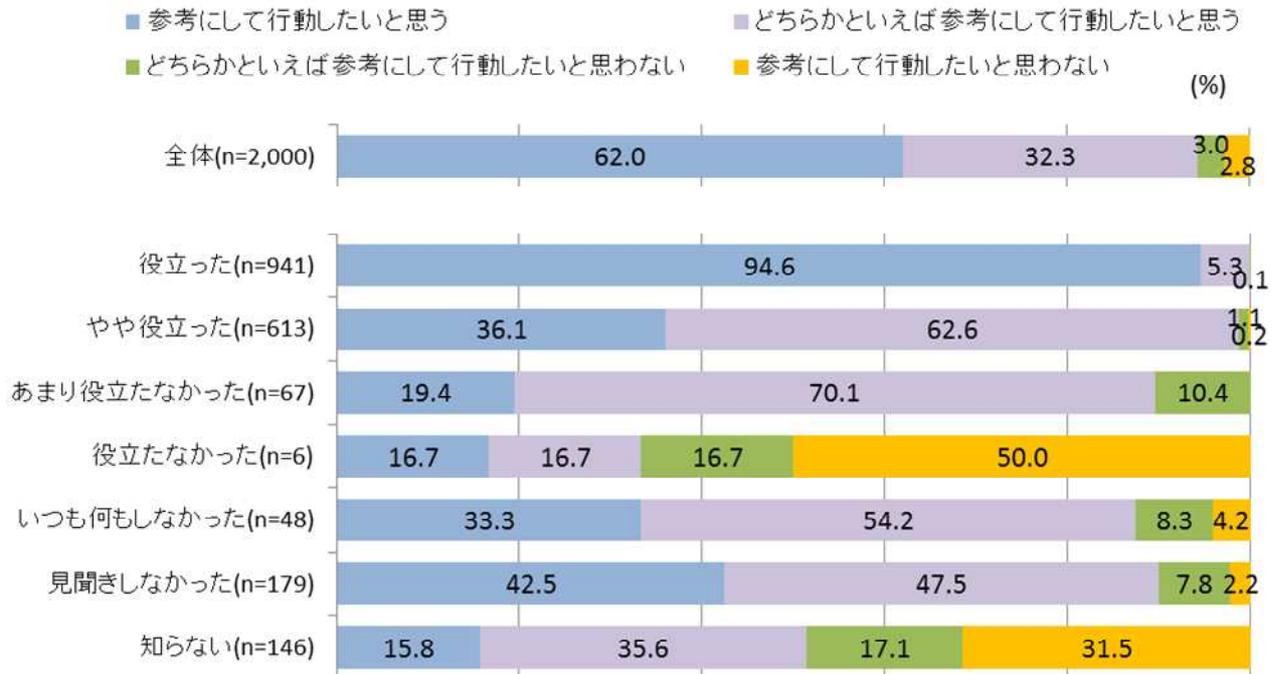
年代別にみると、高齢層ほど「参考にして行動したいと思う」、「どちらかといえば参考にして行動したいと思う」を合わせた大雨警報等の利用意向のある方の割合が高かった。

(17 - 2) 認知度 × 利用意向度



認知度と利用意向度のクロス集計をみると、「知っている」のほうが「知らない」より利用意向度が46%高かった。

(17 - 3) 役立ち度 × 利用意向度



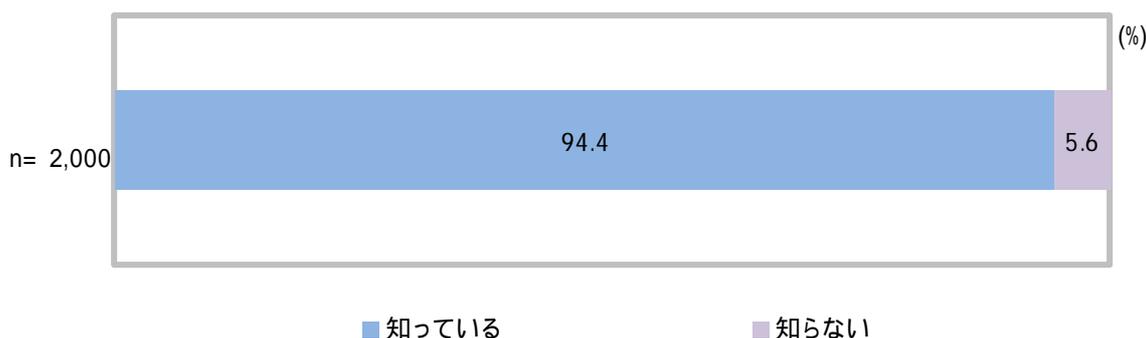
役立ち度と利用意向度のクロス集計をみると、「役立った」、「やや役立った」及び「あまり役立たなかった」の利用意向度はそれぞれ、100%、99%及び9割弱であった。一方、「いつも何もしなかった」、「見聞きしなかった」及び「知らない」の利用意向度は、それぞれ9割弱、9割弱及び5割強であった。

4 緊急地震速報

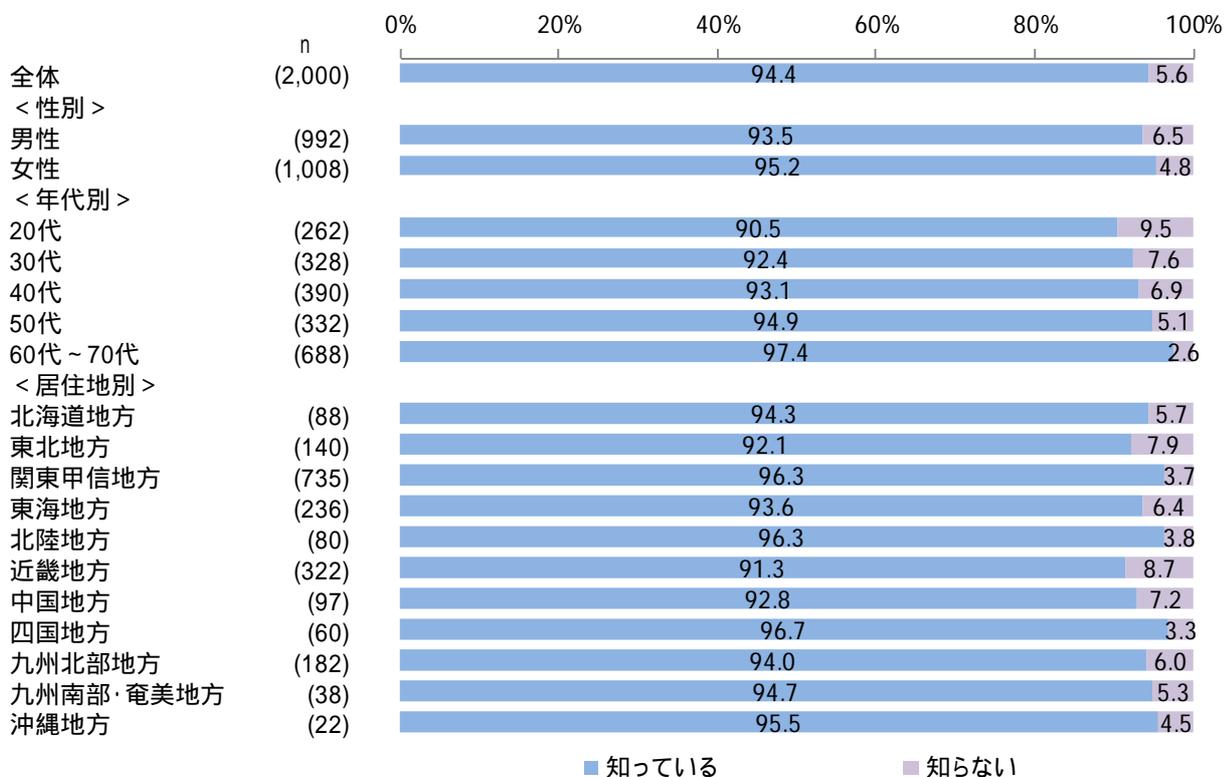
(18) 認知度

Q18 あなたは、緊急地震速報を知っていますか。(は1つ)

緊急地震速報には「警報」と「予報」がありますが、本調査では両方合わせて、「緊急地震速報」として質問しています。緊急地震速報は、テレビやラジオ、携帯電話（緊急速報メール）、スマートフォン、防災行政無線などによって伝えられます。緊急地震速報は、地震が発生した直後、地震による強い揺れが伝わる前に発表される予測情報で、地震の揺れが伝わった後に各地の詳しい震度が伝えられる「地震情報」とは異なります。



緊急地震速報の認知度について、「知っている」が9割台半ばとなっている。



年代別にみると、高齢層ほど「知っている」の割合が高かった。

平成 23 年度利活用状況調査

□知っている □知らない

n=10,007



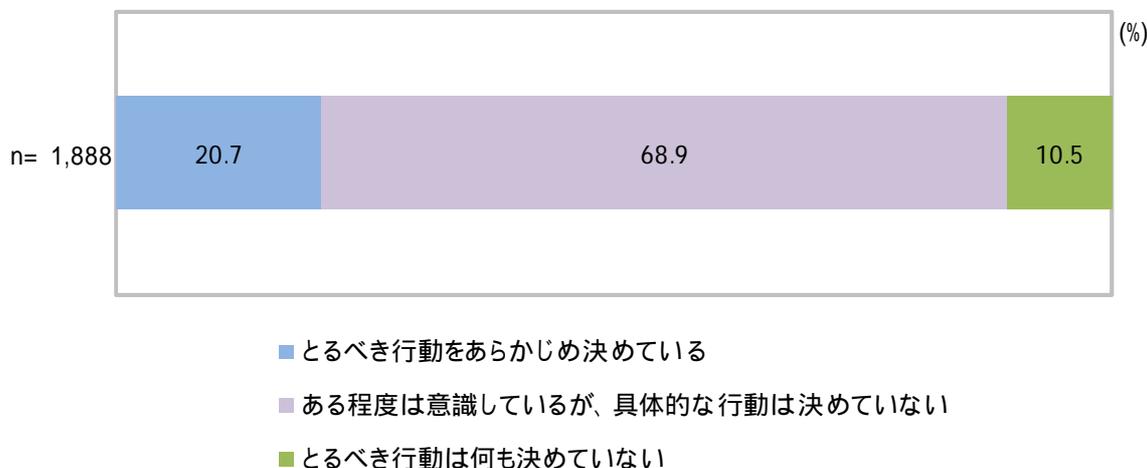
参照：平成 23 年度調査「緊急地震速報の利活用状況等に関する調査」結果 46 ページ
http://www.jma.go.jp/jma/press/1203/22c/23manzokudo_data.pdf

平成 23 年度調査と比較して、認知度は 7%上がった。

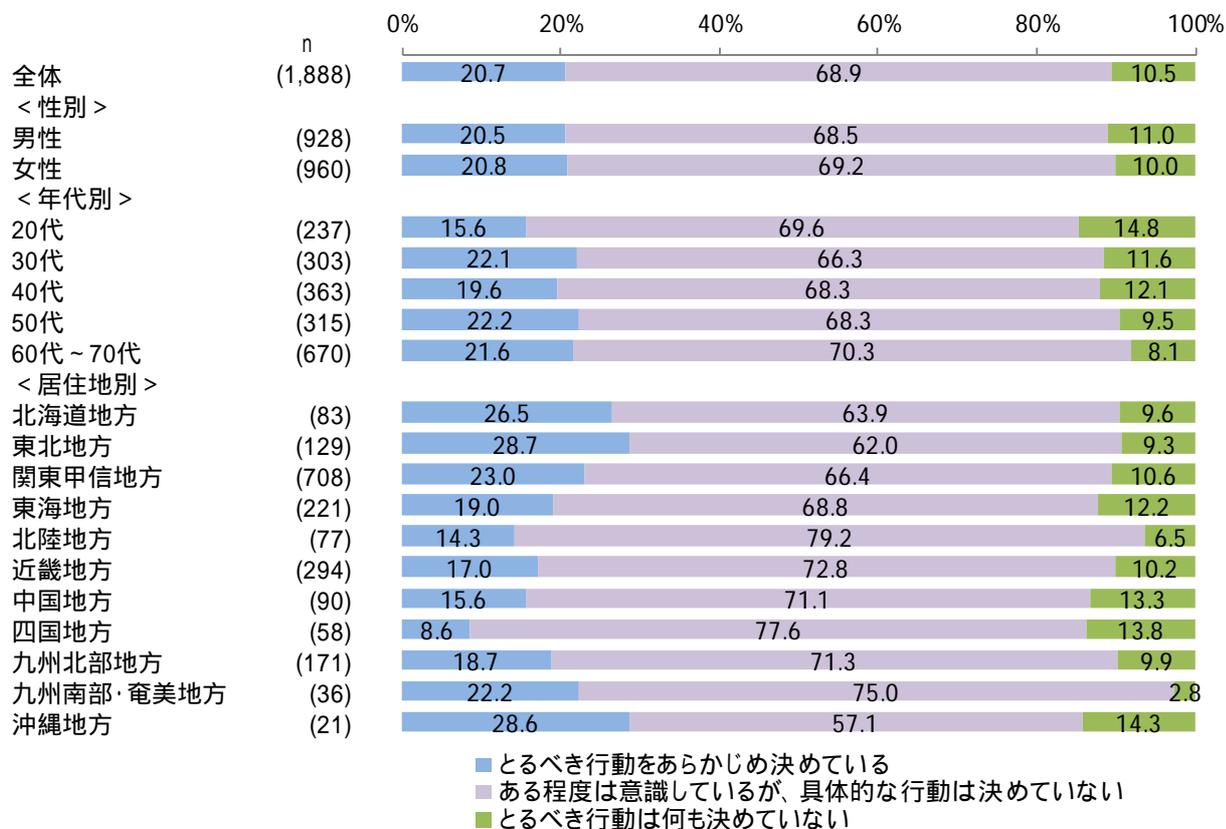
(19) 見聞時の行動予定

Q19 あなたは、日頃から緊急地震速報を見聞きしたときにとるべき行動をあらかじめ決めてありますか。(は1つ)

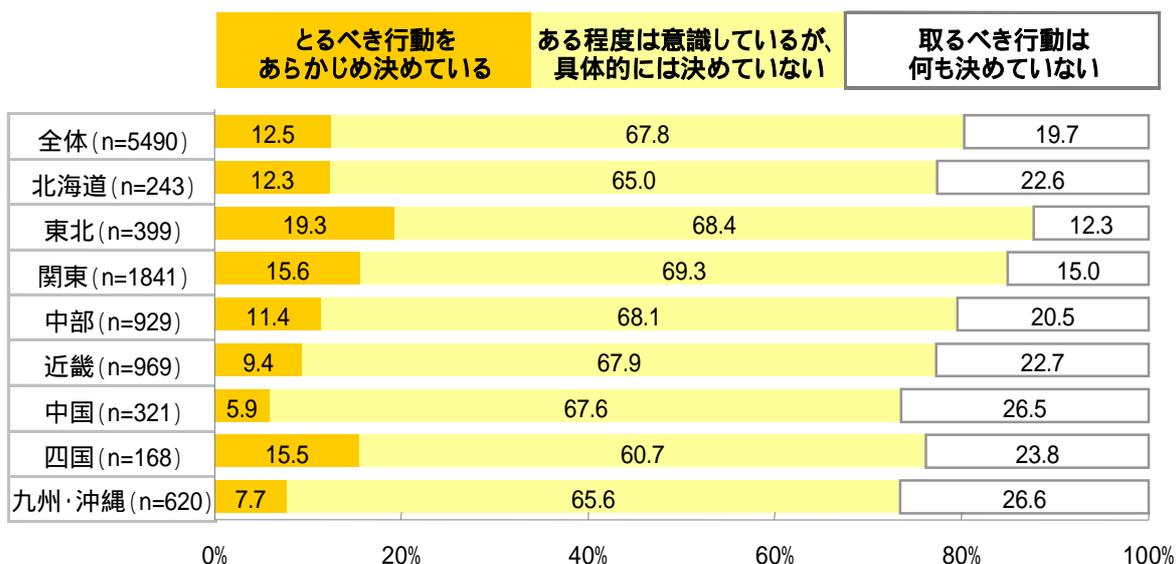
n=1,888 ベース：緊急地震速報を知っていると回答した人



緊急地震速報の見聞時の行動予定について、「とるべき行動をあらかじめ決めている」が2割強、「ある程度は意識しているが、具体的な行動は決めていない」が7割弱となり、合わせた見聞時の行動予定を決めている方は9割弱であった。



平成 24 年度利活用状況調査



参照：平成 24 年度調査「緊急地震速報の利活用状況調査結果（分析編）」14 ページ

http://www.jma.go.jp/jma/press/1212/14b/24manzokudo_data.pdf

平成 24 年度調査では、調査対象者全員に「とるべき行動を決めているか」を質問しているため、単純な比較は難しいが、参考に同調査結果を示す。

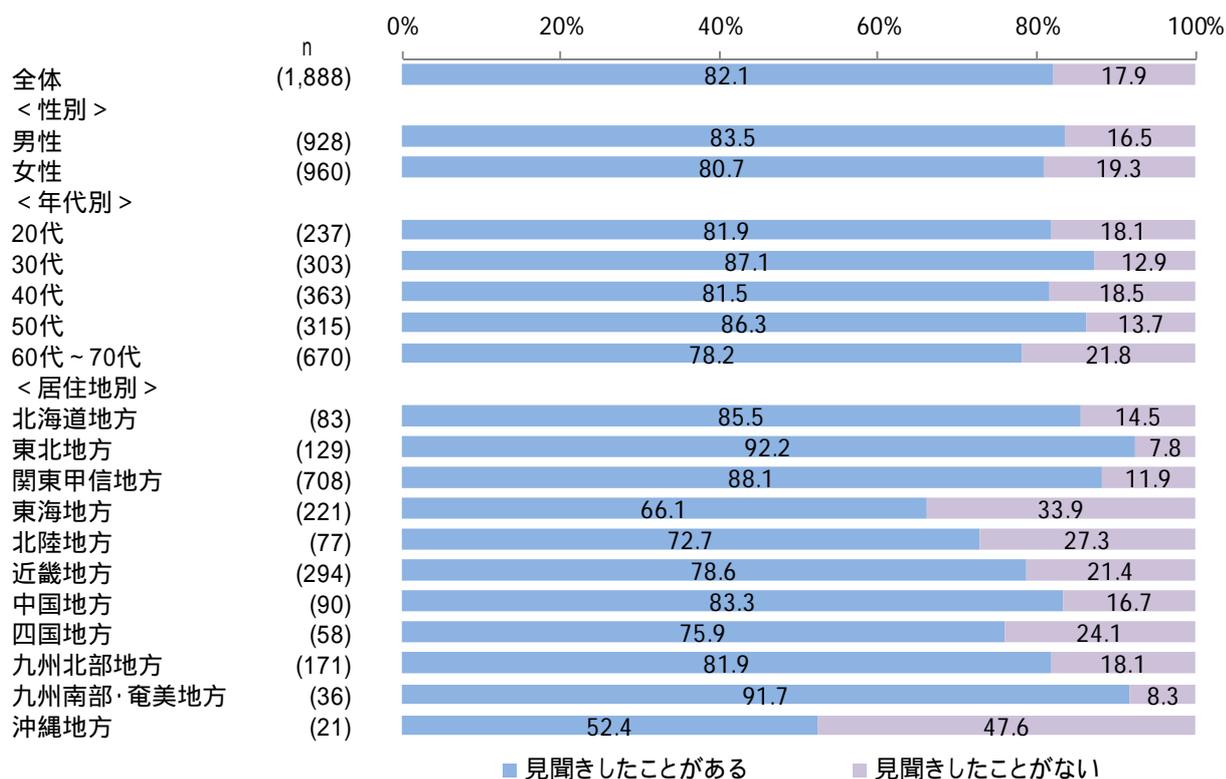
(20) 見聞の有無

Q20 あなたは、自分のいる地域を対象とした緊急地震速報を見聞きしたことがありますか。(は1つ)

n=1,888 ベース：緊急地震速報を知っていると回答した人



緊急地震速報の見聞の有無について、「見聞きしたことがある」が8割強であった。

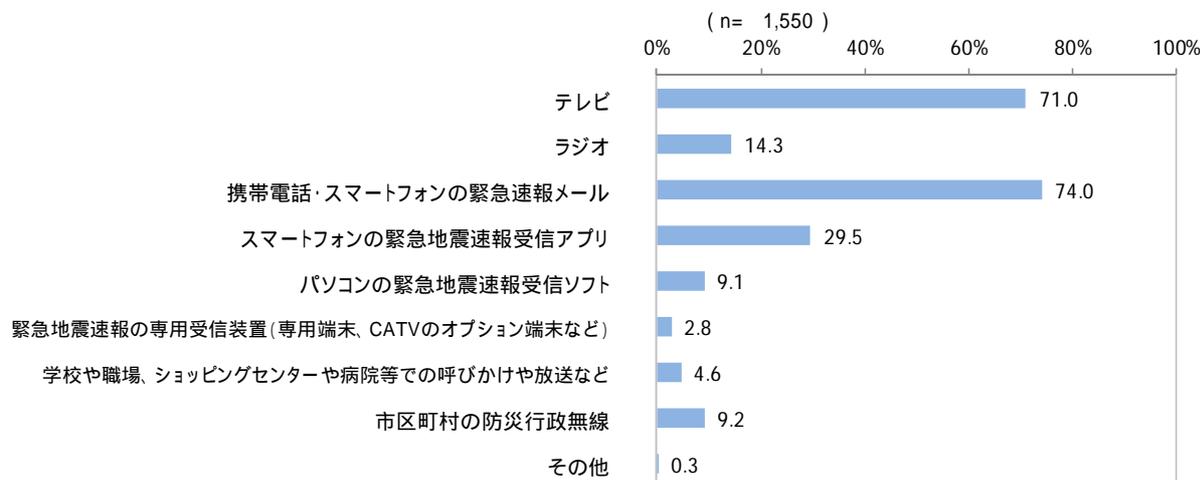


年代別にみると、30代・50代では「見聞きしたことがある」が8割台半ばと、全体に比べ高かった。居住地別にみると、東北地方、関東甲信越地方、九州南部・奄美地方では「見聞きしたことがある」が9割前後と、全体に比べ高かった。

(21) 入手手段

Q21 あなたは、自分のいる地域を対象とした緊急地震速報をどのような手段で見聞きしましたか。(はいいくつでも)

n=1,550 ベース：緊急地震速報を見聞きしたことがあると回答した人



緊急地震速報の入手手段について、「携帯電話・スマートフォンの緊急速報メール」が7割台半ば、「テレビ」が7割強であった。

* は全体+10ポイント以上、 は+5ポイント以上、 は-10ポイント以下、 は-5ポイント以下

* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	テレビ	ラジオ	スマートフォン の緊急速報	携帯電話 の緊急速報	スマートフォン の緊急速報	パソコン の緊急速報	専用受信装置 (専用端末、CATVのオプション端末など)	学校や職場、 ショッピングセンター や病院等での 呼びかけや放送	市区町村の 防災行政無線	その他
全体	1550	71.0	14.3	74.0	29.5	9.1	2.8	4.6	9.2	0.3	
性別											
男性	775	68.8	19.4	73.7	32.8	11.1	3.5	4.5	8.9	0.1	
女性	775	73.3	9.2	74.3	26.3	7.1	2.1	4.8	9.4	0.4	
年代											
20代	194	68.6	10.8	71.1	35.1	4.6	2.6	5.2	6.2	0.0	
30代	264	67.0	14.4	73.1	34.8	4.2	2.7	7.2	10.2	0.4	
40代	296	71.3	13.9	77.7	33.8	4.7	1.4	7.1	9.1	0.3	
50代	272	68.4	12.5	74.6	27.9	9.6	2.6	4.8	9.6	0.0	
60代~70代	524	75.2	16.6	73.1	23.3	15.5	3.8	1.7	9.5	0.4	
居住地											
北海道地方	71	80.3	16.9	67.6	28.2	12.7	4.2	2.8	4.2	0.0	
東北地方	119	76.5	26.1	75.6	34.5	14.3	4.2	3.4	13.4	0.0	
関東甲信地方	624	71.3	13.0	76.8	31.6	8.5	2.9	4.5	8.7	0.6	
東海地方	146	77.4	13.7	69.2	28.1	11.0	1.4	6.2	8.2	0.0	
北陸地方	56	66.1	14.3	64.3	23.2	7.1	5.4	7.1	10.7	0.0	
近畿地方	231	62.8	10.0	78.4	27.3	6.9	1.3	3.5	6.9	0.0	
中国地方	75	64.0	16.0	69.3	21.3	9.3	2.7	8.0	6.7	0.0	
四国地方	44	68.2	11.4	70.5	27.3	9.1	2.3	2.3	9.1	0.0	
九州北部地方	140	75.0	14.3	71.4	25.7	9.3	2.1	6.4	13.6	0.0	
九州南部・奄美地方	33	63.6	18.2	75.8	45.5	6.1	9.1	3.0	18.2	0.0	
沖縄地方	11	81.8	27.3	36.4	36.4	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	

男女別にみると、男性では「ラジオ」が2割弱と、女性と比べ10%高かった。

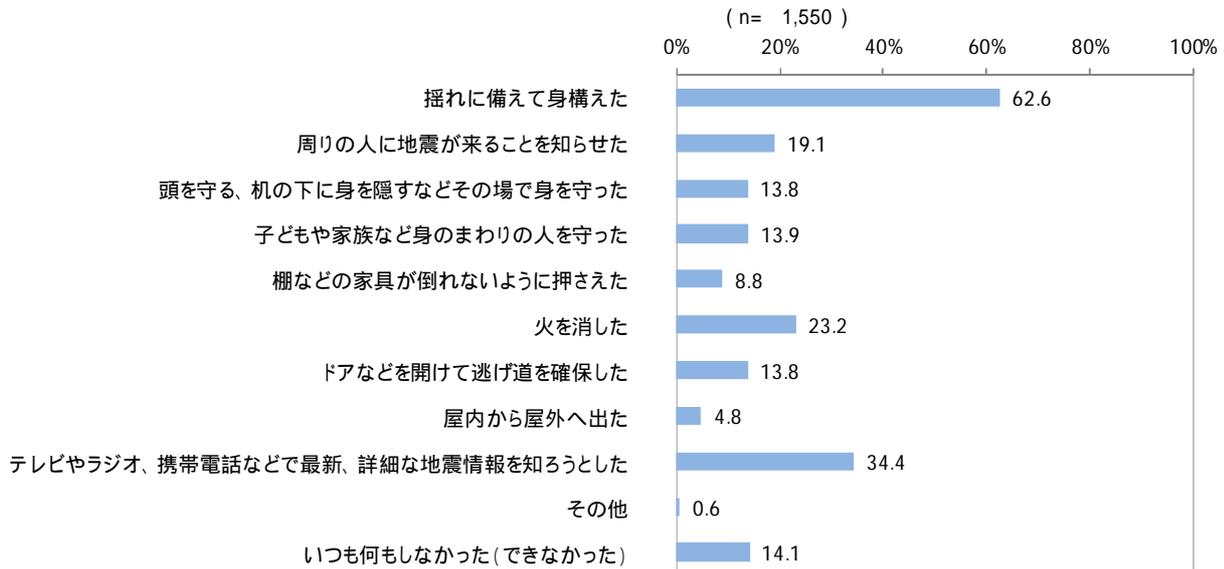
年代別にみると、若年層ほど「スマートフォンの緊急地震速報受信アプリ」が高かった。

居住地別にみると、東北地方では「ラジオ」が2割台半ばと、全体に比べ12%高かった。

(22) 見聞時の行動

Q22 あなたは、自分のいる地域を対象とした緊急地震速報を見聞きして、どのような行動をとったことがありますか。(はいいくつでも)

n=1,550 ベース：緊急地震速報を見聞きしたことがあると回答した人



緊急地震速報の見聞時の行動について、「揺れに備えて身構えた」が6割台半ば、「テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした」が3割台半ば、「火を消した」が2割台半ばであった。一方、「いつも何もしなかった(できなかった)」が1割台半ばであった。

* は全体 + 10ポイント以上、 は + 5ポイント以上、 は - 10ポイント以下、 は - 5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	揺れに備えて身構えた	周りの人に地震が来ると知らせた	頭を守るなど、机の下に身を隠すなど	子どもや家族など身のまわりの人を守った	いよに家具が倒れないように押さえた	火を消した	ドアなどを開けて逃げ道を確認した	屋内から屋外へ出た	テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした	その他	いつも何もしなかった(できなかった)	
全体	1550	62.6	19.1	13.8	13.9	8.8	23.2	13.8	4.8	34.4	0.6	14.1	
性別	男性	775	60.4	20.0	13.2	12.4	9.2	18.1	11.9	4.9	33.5	0.6	15.9
	女性	775	64.8	18.2	14.5	15.5	8.4	28.3	15.7	4.6	35.2	0.5	12.4
年代	20代	194	55.7	20.1	19.6	15.5	7.2	12.9	10.8	5.7	21.1	0.0	20.6
	30代	264	68.2	20.1	15.9	27.3	8.3	12.9	13.6	4.2	29.2	0.8	12.9
	40代	296	62.8	19.3	13.5	18.6	9.5	18.2	12.2	4.7	33.1	0.7	16.2
	50代	272	63.6	15.8	9.6	10.3	5.5	26.8	12.1	3.3	34.2	0.7	14.0
	60代～70代	524	61.6	19.8	13.0	5.9	10.9	33.0	16.8	5.5	42.7	0.6	11.3
	居住地	北海道地方	71	59.2	25.4	12.7	15.5	16.9	26.8	16.9	4.2	39.4	0.0
	東北地方	119	67.2	22.7	13.4	17.6	10.9	35.3	26.9	9.2	37.8	0.0	12.6
	関東甲信地方	624	69.1	19.2	13.0	13.8	10.6	26.3	16.0	4.2	33.5	0.5	10.9
	東海地方	146	56.2	15.8	13.0	13.0	4.8	21.2	14.4	3.4	30.8	0.7	18.5
	北陸地方	56	55.4	14.3	8.9	10.7	5.4	25.0	8.9	3.6	50.0	1.8	14.3
	近畿地方	231	54.1	19.5	14.7	13.0	3.9	20.3	6.5	3.9	32.9	1.3	17.3
	中国地方	75	54.7	16.0	16.0	10.7	6.7	12.0	10.7	6.7	22.7	0.0	18.7
	四国地方	44	47.7	18.2	13.6	4.5	2.3	13.6	2.3	0.0	29.5	0.0	20.5
	九州北部地方	140	61.4	18.6	16.4	17.9	10.0	12.9	9.3	7.9	39.3	0.7	17.9
	九州南部・奄美地方	33	75.8	21.2	27.3	18.2	15.2	24.2	18.2	3.0	48.5	0.0	3.0
	沖縄地方	11	54.5	18.2	0.0	18.2	9.1	9.1	9.1	9.1	0.0	27.3	

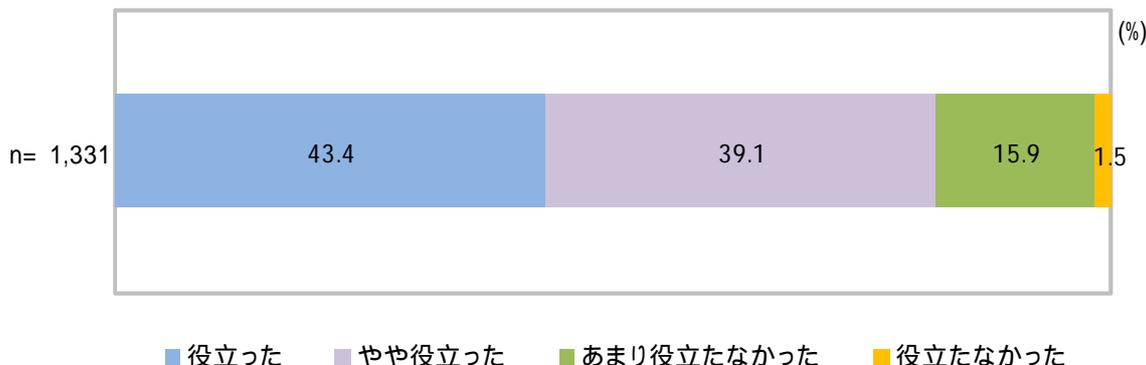
男女別にみると、女性では「火を消した」が3割弱と、男性に比べ10%高かった。

年代別にみると、高齢層ほど「テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした」、「火を消した」が高かった。

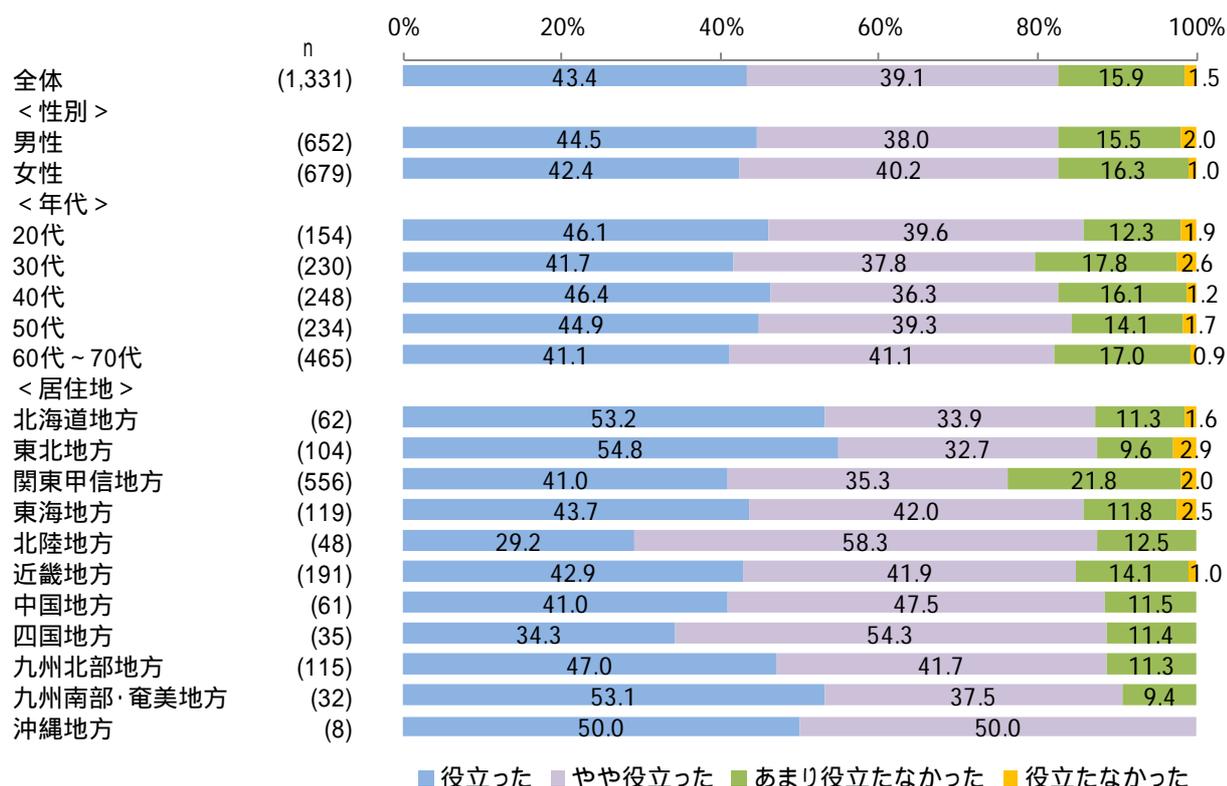
(23 - 1) 行動した人の役立ち感

Q23 あなたが、緊急地震速報を見聞きしてとった行動の結果、緊急地震速報はどの程度役立ったと思いますか。(は1つ)

n=1,331 ベース：緊急地震速報の見聞時に行動したと回答した人

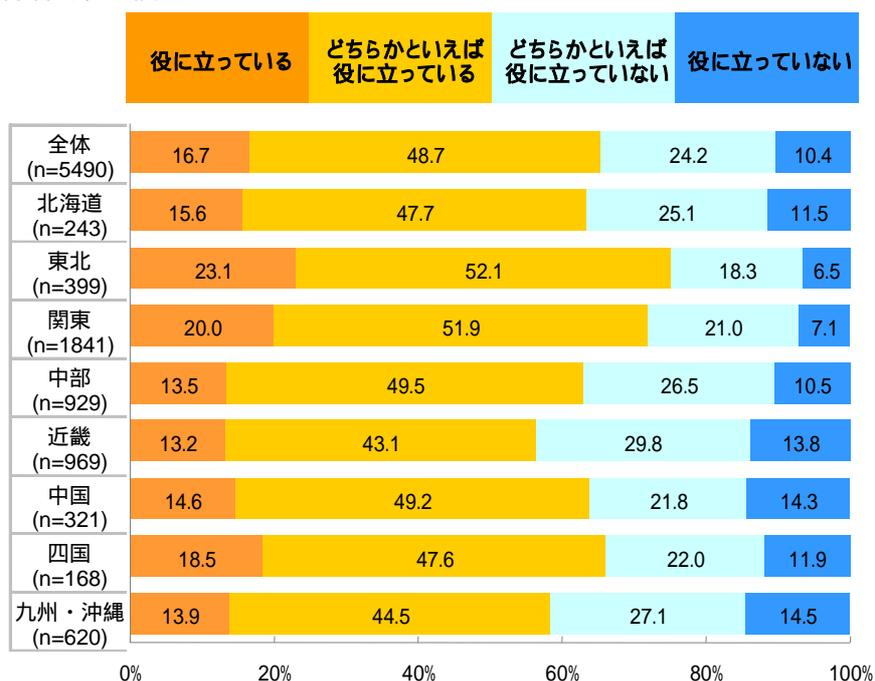


緊急地震速報見聞時にとった行動の役立ち感について、「役に立った」が4割台半ば、「やや役に立った」が4割弱となり、合わせた緊急地震速報が役立っていると感じる方は8割台半ばであった。



居住地別にみると、関東甲信地方を除いた居住地では「役に立った」、「やや役に立った」を合わせた緊急地震速報を役立っていると感じる方が8割以上であった。

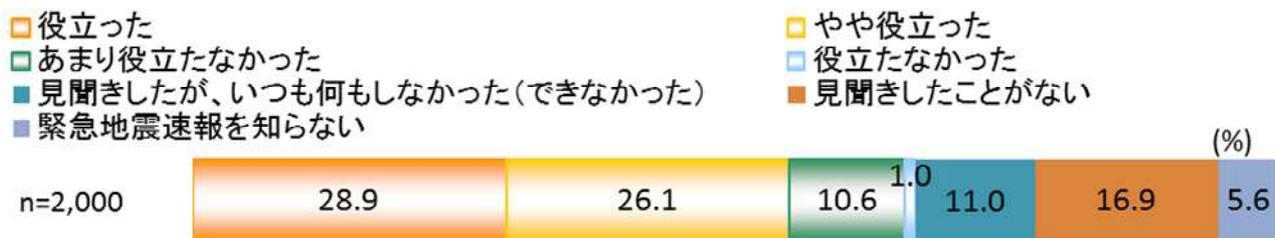
平成 24 年度利活用状況調査



参照：平成 24 年度調査「緊急地震速報の利活用状況調査結果（分析編）」8 ページ
http://www.jma.go.jp/jma/press/1212/14b/24manzokudo_data.pdf

平成 24 年度調査では、調査対象者全員に「役に立っていると思うか」を質問しているため、単純な比較は難しいが、「役に立っている」及び「どちらかといえば役に立っている」の合計は 6 割台半ばであった。また、「役に立っている」及び「どちらかといえば役に立っている」の合計が最も低かったのは、近畿（三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）であった。

(23 - 2) 認知度、見聞の有無、利用度、役立ち度

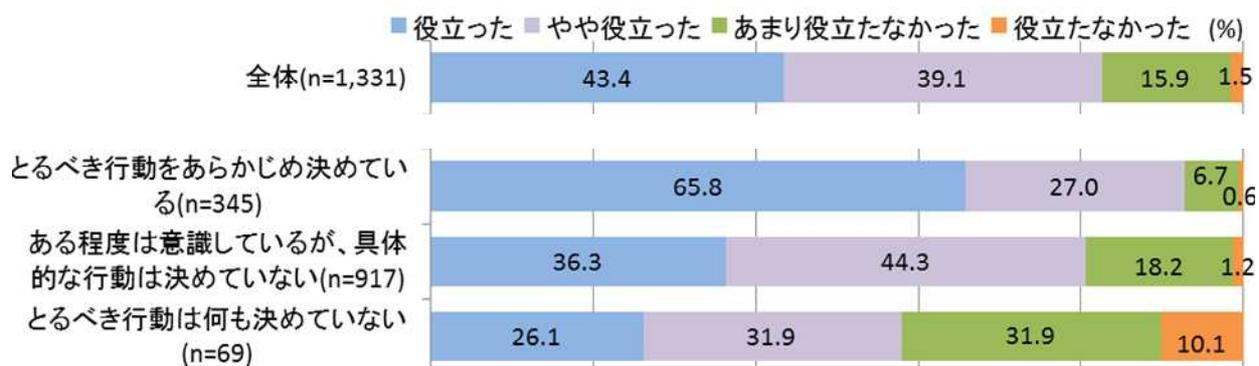


	n=2,000	(%)	認知度(%)	見聞有(%)	利用度(%)	役立ち度(%)
役立った		28.9	94.4	77.5	66.6	55.0
やや役立った		26.1				
あまり役立たなかった		10.6				
役立たなかった		1.0				
見聞きしたが、いつも何もしなかった(できなかった)		11.0				
見聞きしたことがない		16.9				
緊急地震速報を知らない		5.6				
合計		100.0				

有効回収数 (n=2,000) に対して、認知度、見聞の有無、見聞時の行動及び役立ち度をまとめると、認知度は9割台半ば、見聞有は8割弱、利用度は6割台半ば及び役立ち度は5割台半ばであった。

(23 - 3) 見聞時の行動予定×行動した人の役立ち感

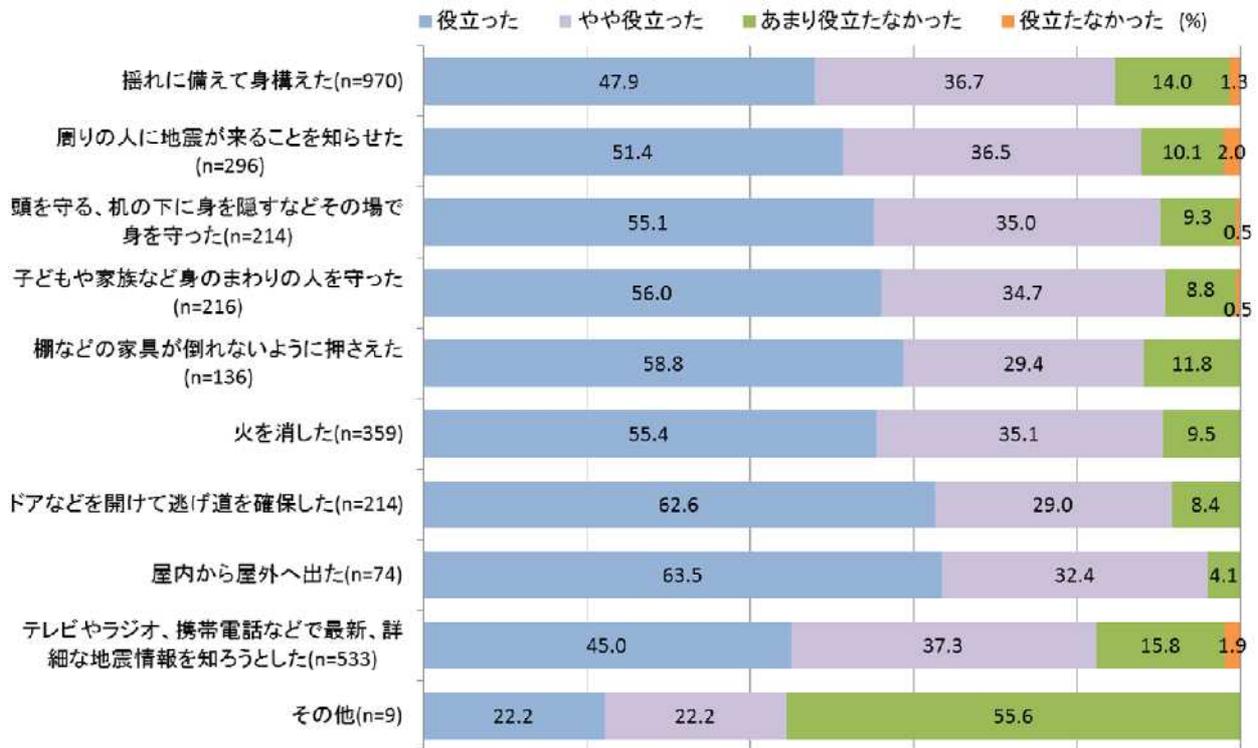
n=1,331 ベース：緊急地震速報の見聞時に行動したと回答した人



見聞時の行動予定と行動した人の役立ち感のクロス集計をみると、「役立った」の割合は「とるべき行動をあらかじめ決めてい
る」が6割台半ばで最も高かった。

(23 - 4) 見聞時の行動×行動した人の役立ち感

n=1,331 ベース：緊急地震速報の見聞時に行動したと回答した人

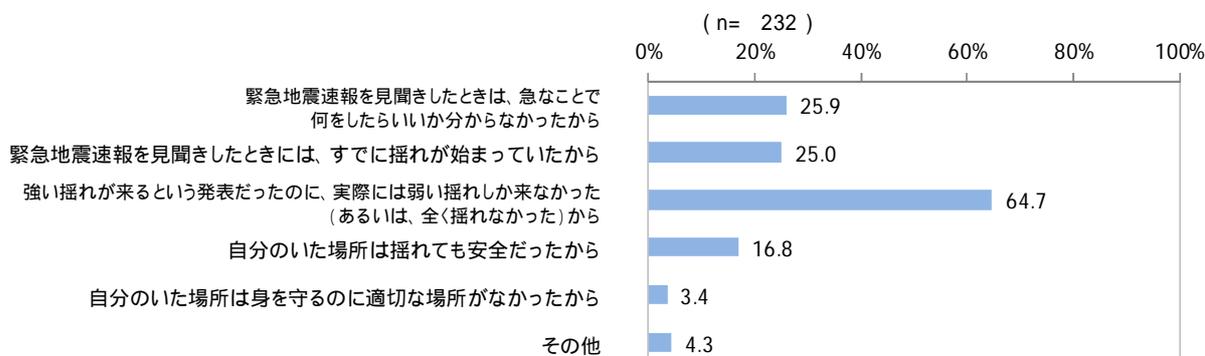


見聞時の行動と行動した人の役立ち感のクロス集計をみると、「役立った」の割合は「屋内から屋外へ出た」が6割半ばで最も高かった。一方、「テレビ、ラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした」は「役立った」の割合が4割台半ば、「揺れに備えて身構えた」は5割弱と低かった。

(24) 役立たなかった理由

Q24 緊急地震速報を見聞きしてとった行動の結果は、あなたにとって、どのような点で「あまり役立たなかった」または「役立たなかった」と思いましたか。(はいいくつでも)

n=232 ベース：緊急地震速報を見聞きした結果、あまり役立たなかった、役立たなかったと回答した人



緊急地震速報が役立たなかった理由について、「揺れが来るという発表だったのに、実際には弱い揺れしか来なかった(あるいは、全く揺れなかった)から」が6割台半ば、次いで「緊急地震速報を見聞きしたときは、急なことで何をしたらいいかわからなかったから」、「緊急地震速報を見聞きしたときには、すでに揺れが始まっていたから」がいずれも2割台半ばであった。「その他」として、「緊急地震速報はきたが、揺れなかった」、「本当に揺れた時に速報が来なかったから」などがあつた。

* は全体+10ポイント以上、 は+5ポイント以上、 は-10ポイント以下、 は-5ポイント以下
* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	いきは、急なことから何をしたら	緊急地震速報を見聞きしたとき	緊急地震速報を見聞きしたとき	強い揺れが来るという発表	自分のいた場所は揺れても安全だったから	自分のいた場所は身を守るのに適切な場所がなかったから	その他
全体	232	25.9	25.0	64.7	16.8	3.4	4.3	
性別								
男性	114	29.8	25.4	67.5	14.9	5.3	5.3	
女性	118	22.0	24.6	61.9	18.6	1.7	3.4	
年代								
20代	22	22.7	40.9	63.6	9.1	4.5	0.0	
30代	47	38.3	25.5	59.6	12.8	4.3	12.8	
40代	43	27.9	20.9	72.1	14.0	4.7	4.7	
50代	37	24.3	32.4	67.6	10.8	2.7	2.7	
60代~70代	83	19.3	19.3	62.7	25.3	2.4	1.2	
居住地								
北海道地方	8	12.5	62.5	75.0	25.0	0.0	0.0	
東北地方	13	15.4	23.1	69.2	7.7	7.7	0.0	
関東甲信地方	132	25.0	25.8	71.2	13.6	3.8	5.3	
東海地方	17	23.5	11.8	52.9	29.4	0.0	5.9	
北陸地方	6	33.3	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0	
近畿地方	29	31.0	13.8	55.2	27.6	0.0	3.4	
中国地方	7	28.6	14.3	57.1	28.6	14.3	0.0	
四国地方	4	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	
九州北部地方	13	38.5	46.2	38.5	7.7	7.7	0.0	
九州南部・奄美地方	3	0.0	0.0	100.0	33.3	0.0	0.0	
沖縄地方	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

年代別にみると、30代では「緊急地震速報を見聞きしたときは、急なことで何をしたらいいかわからなかったから」が4割弱と、全体に比べ12%高かった。

居住地別にみると、関東甲信地方では「強い揺れが来るという発表だったのに、実際には弱い揺れしか来なかった(あるいは、全く揺れなかった)から」が71%と、全体に比べて7%高かった。

平成 24 年度利活用状況調査

■ 緊急地震速報は「役に立っていない」もしくは「どちらかといえば役に立っていない」回答者 (n=1,904)



参照：平成 24 年度調査「緊急地震速報の利活用状況調査結果」32 ページ

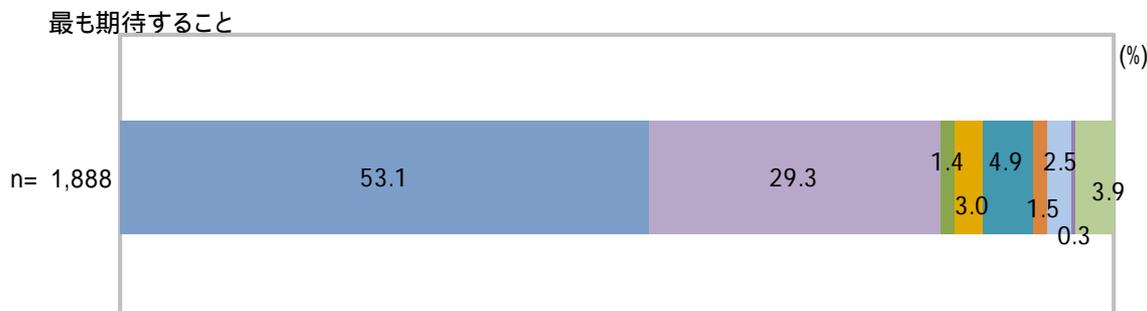
http://www.jma.go.jp/jma/press/1212/14b/24manzokudo_data.pdf

平成 24 年度調査では、調査対象者全員のうち「役に立っていない」及び「どちらかといえば役に立っていない」と回答した人にその理由を質問しているため、単純な比較は難しいが、「強い揺れが来るという発表だったのに、実際には弱い揺れしか来なかった (あるいは、全く揺れなかった) から」は 2 割強であった。

(25-1) 最も期待すること

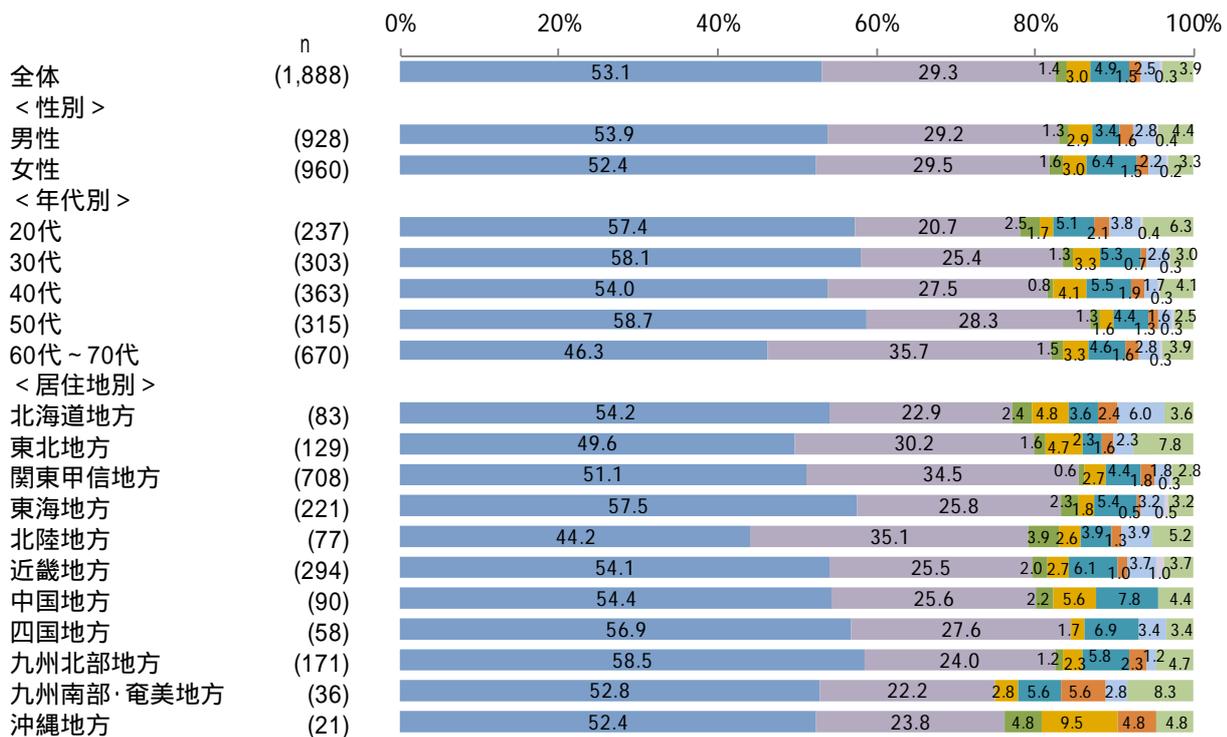
Q25 あなたは、緊急地震速報について、何を期待しますか。最も期待すること、2番目に期待すること、3番目に期待することまで選んでください。

n=1,888 ベース：緊急地震速報を知っていると回答した人



- 緊急地震速報の発表から強い揺れが到達するまでの時間(猶予時間)を長くしてほしい
- 震度(地震の揺れの強さ)の予測精度を上げてほしい
- 現状より小さい地震の予測も伝えてほしい
- 外国人や高齢の方、耳や目が不自由な方に伝わりやすくする工夫をしてほしい
- 地震の揺れが来るまでの短時間で何ができるのかを周知・広報してほしい
- 緊急地震速報を使って日頃から訓練できる仕組みを作ってほしい
- より手軽に緊急地震速報が受けられるようにしてほしい
- その他
- 特になし

緊急地震速報に最も期待することについて、「緊急地震速報の発表から強い揺れが到達するまでの時間(猶予時間)を長くしてほしい」が5割台半ば、「震度(地震の揺れの強さ)の予測精度を上げてほしい」が3割弱であった。

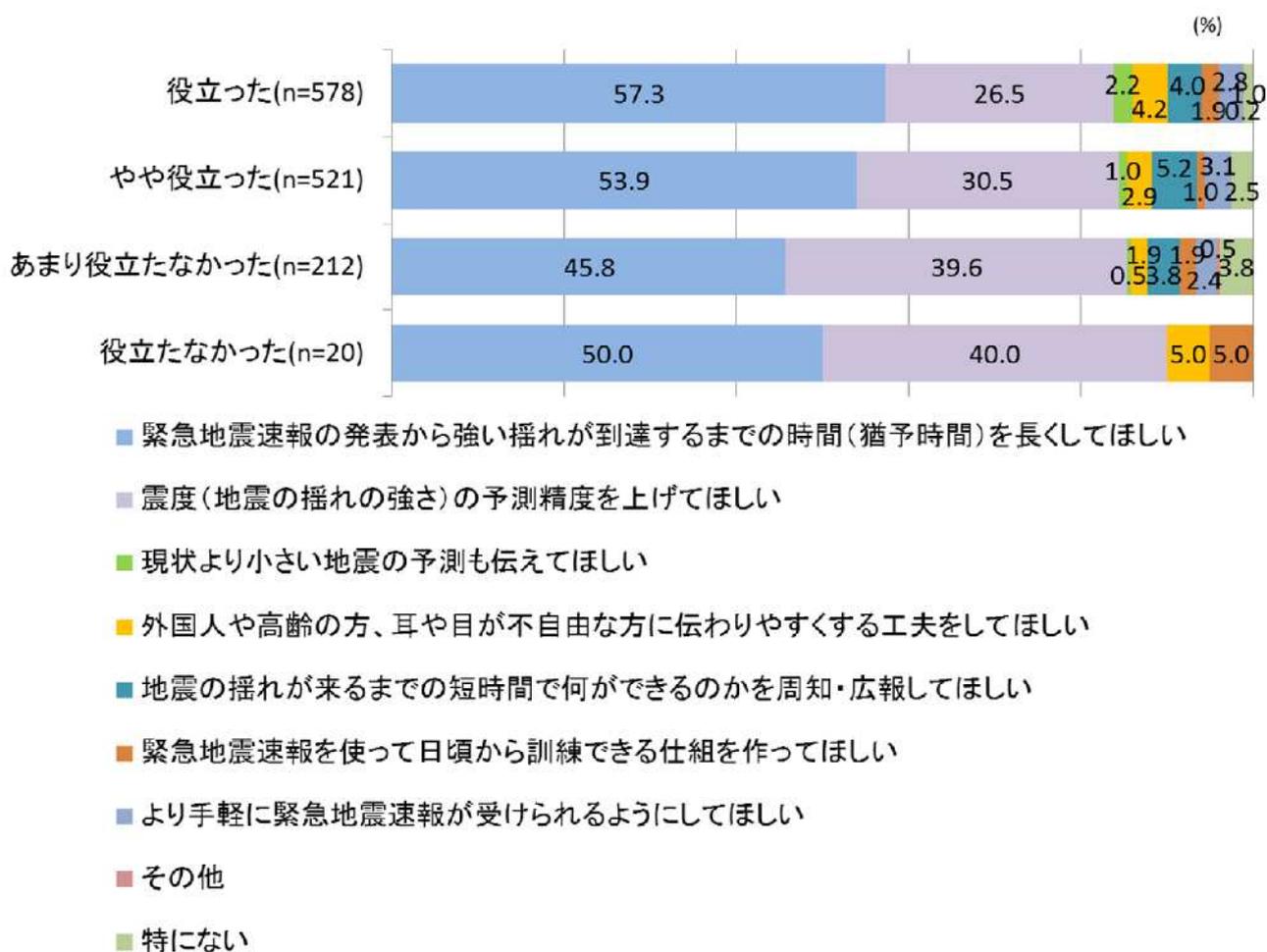


- 緊急地震速報の発表から強い揺れが到達するまでの時間(猶予時間)を長くしてほしい
- 震度(地震の揺れの強さ)の予測精度を上げてほしい
- 現状より小さい地震の予測も伝えてほしい
- 外国人や高齢の方、耳や目が不自由な方に伝わりやすくする工夫をしてほしい
- 地震の揺れが来るまでの短時間で何ができるのかを周知・広報してほしい
- 緊急地震速報を使って日頃から訓練できる仕組みを作ってほしい
- より手軽に緊急地震速報が受けられるようにしてほしい
- その他
- 特にない

年代別にみると、高齢層ほど「震度(地震の揺れの強さ)の予測精度を上げてほしい」が高かった。
 居住地別にみると、関東甲信地方、北陸地方では、「震度(地震の揺れの強さ)の予測精度を上げてほしい」が3割台半ばと、他居住地に比べ高かった。

(25-2) 行動した人の役立ち感×最も期待すること

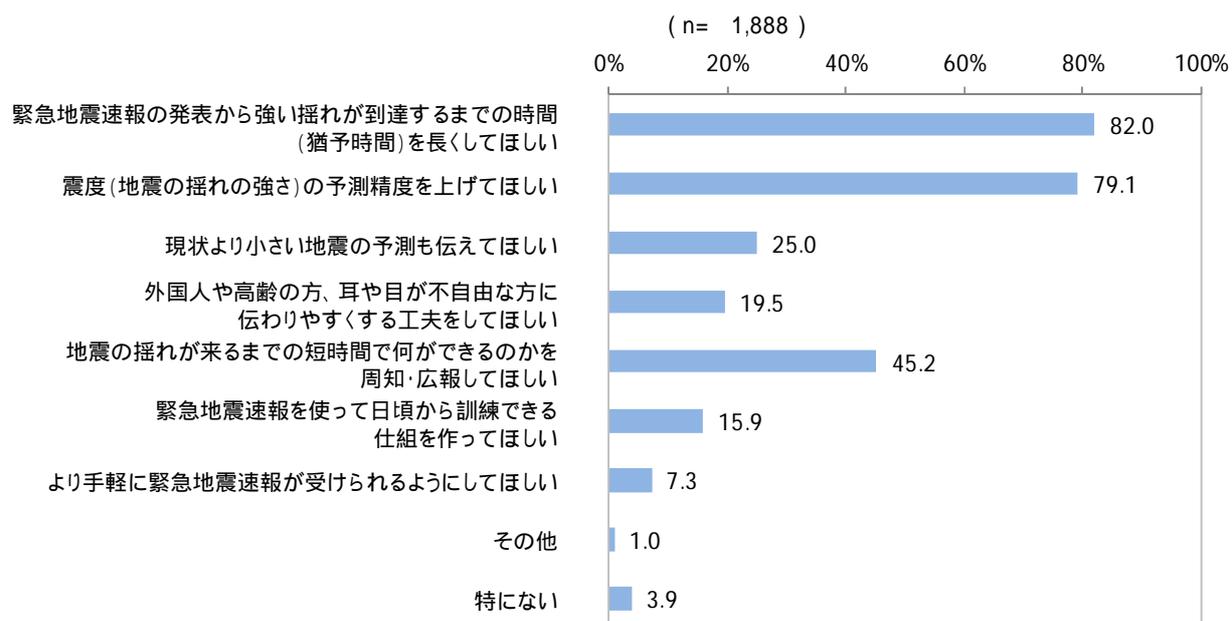
n=1,331 ベース：緊急地震速報の見聞時に行動したと回答した人



行動した人の役立ち感と最も期待することのクロス集計をみると、「緊急地震速報の発表から強い揺れが到達するまでの時間(猶予時間)を長くしてほしい」は「役に立った」、「やや役に立った」、「あまり役に立たなかった」の順に最も期待している割合が高かった。

「震度(地震の揺れの強さ)の予測精度を上げてほしい」は、「あまり役に立たなかった」、「やや役に立った」、「役に立った」の順に最も期待している割合が高かった。

(25-3) 期待すること (複数回答)



緊急地震速報に期待することについて、最も期待すること、2番目に期待すること、3番目に期待することを合わせると、「緊急地震速報の発表から強い揺れが到達するまでの時間 (猶予時間) を長くしてほしい」が8割強、「震度 (地震の揺れの強さ) の予測精度を上げてほしい」が8割弱であった。

* は全体+10ポイント以上、 は+5ポイント以上、 は-10ポイント以下、 は-5ポイント以下
 *赤字はベースがn=29以下のため参考値

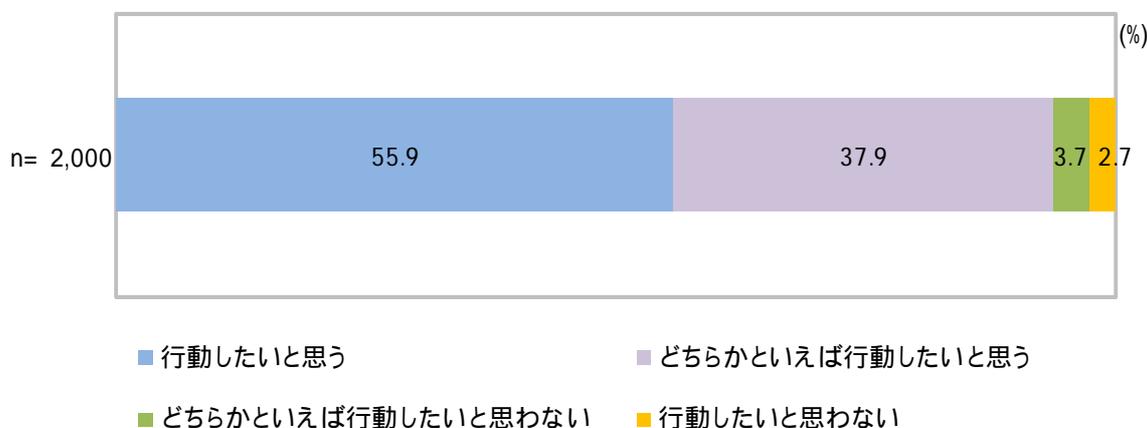
	n	時間が緊急地震速報の発表から強い揺れが到達するまでの時間(猶い予)	の震度予測(地震の揺れの強さ)	も現状より小さい地震の予測	くが不自由な方に伝わりやすい	外国人や高齢の方に、耳や目	知・広報してほしかった	地震の揺れが来るまでの短時間	地震速報の仕組を作った	緊急地震速報を使って日頃	受けられるように地震速報が	より手軽に緊急地震速報が	その他	特にな
全体	1888	82.0	79.1	25.0	19.5	45.2	15.9	7.3	1.0	3.9				
性別														
男性	928	82.2	79.8	26.8	17.5	41.2	16.9	7.1	1.3	4.4				
女性	960	81.8	78.4	23.2	21.6	49.1	14.9	7.4	0.7	3.3				
年代別														
20代	237	78.9	70.0	27.0	18.1	44.7	18.6	7.6	1.3	6.3				
30代	303	85.8	81.2	28.7	18.2	42.6	14.2	8.3	1.3	3.0				
40代	363	84.3	78.2	23.7	20.1	46.6	15.4	5.2	1.4	4.1				
50代	315	87.0	82.2	28.6	21.3	41.9	13.3	5.7	0.6	2.5				
60代~70代	670	77.8	80.4	21.6	19.6	47.3	17.2	8.5	0.7	3.9				
居住地別														
北海道地方	83	83.1	75.9	30.1	19.3	45.8	14.5	12.0	0.0	3.6				
東北地方	129	77.5	77.5	27.9	25.6	32.6	12.4	7.0	0.8	7.8				
関東甲信地方	708	83.3	83.9	21.2	17.5	47.3	16.1	6.1	1.1	2.8				
東海地方	221	82.4	80.1	31.2	16.7	43.4	20.4	6.8	0.5	3.2				
北陸地方	77	75.3	77.9	24.7	24.7	37.7	13.0	6.5	2.6	5.2				
近畿地方	294	81.3	77.6	25.5	19.7	45.2	15.0	9.2	2.0	3.7				
中国地方	90	87.8	70.0	22.2	20.0	55.6	14.4	7.8	0.0	4.4				
四国地方	58	79.3	70.7	27.6	20.7	50.0	20.7	3.4	1.7	3.4				
九州北部地方	171	83.0	73.7	28.7	19.9	48.0	13.5	6.4	0.0	4.7				
九州南部・奄美地方	36	77.8	75.0	25.0	27.8	30.6	19.4	16.7	0.0	8.3				
沖縄地方	21	71.4	71.4	19.0	38.1	38.1	19.0	9.5	0.0	4.8				

男女別にみると、女性では「地震の揺れが来るまでの短時間で何が出来るのかを周知・広報してほしい」が男性に比べ、8%高かった。

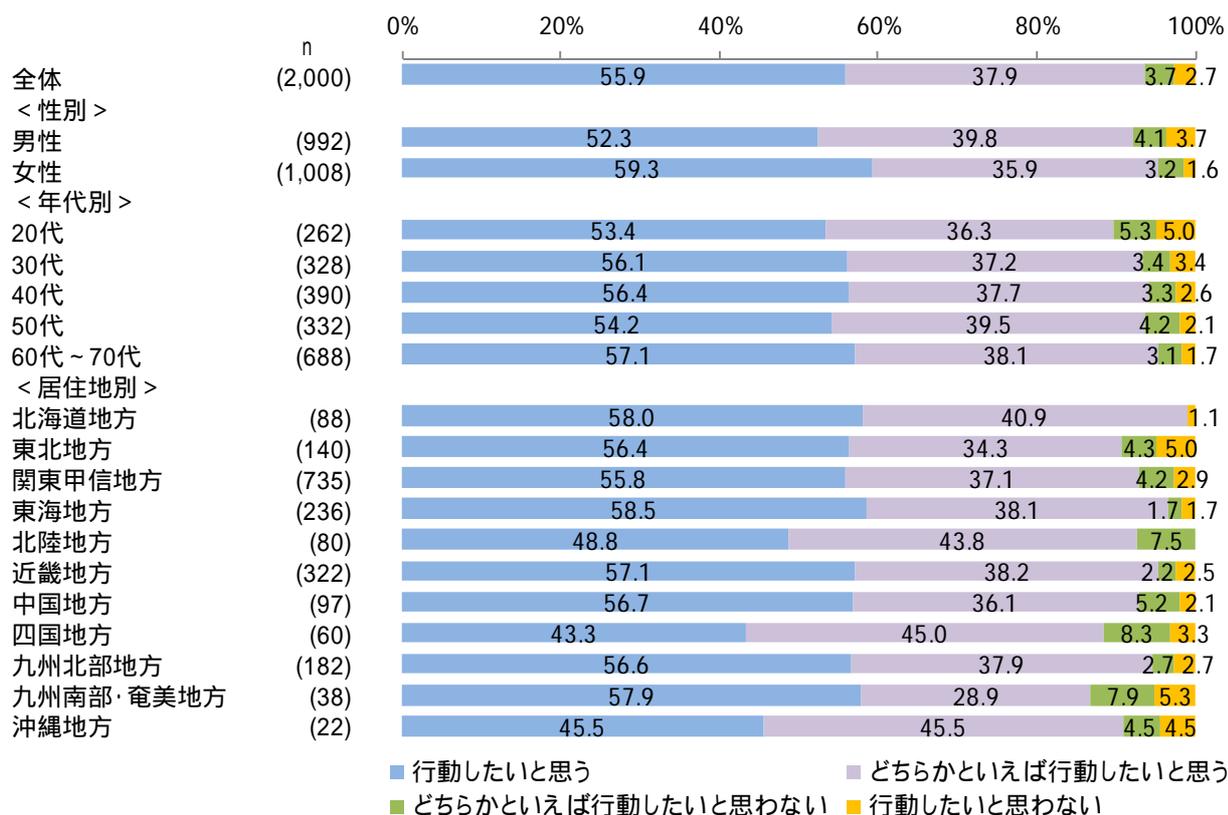
居住地別にみると、中国地方では「地震の揺れが来るまでの短時間で何が出来るのかを周知・広報してほしい」が全体に比べ 10%高くなり、東北地方、九州南部・奄美地方では全体に比べ、それぞれ 13%、15%低かった。

(26 - 1) 利用意向度

Q26 あなたは、今後、緊急地震速報を見聞きして行動したいと思いますか。(は1つ)

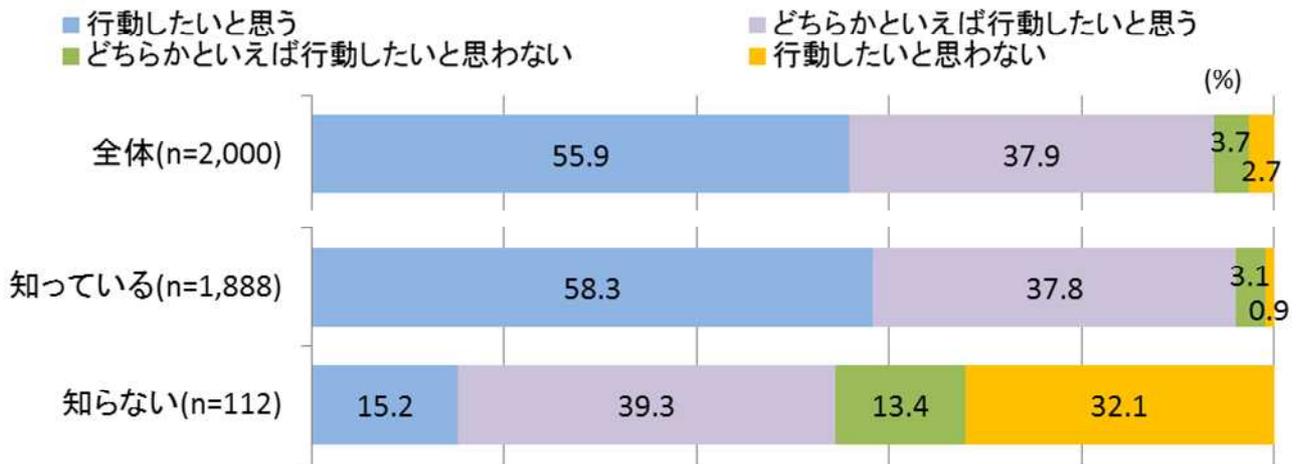


今後の緊急地震速報の利用意向度について、「行動したいと思う」が5割台半ば、「どちらかといえば行動したいと思う」が4割弱となり、合わせた利用意向のある方は9割台半ばであった。



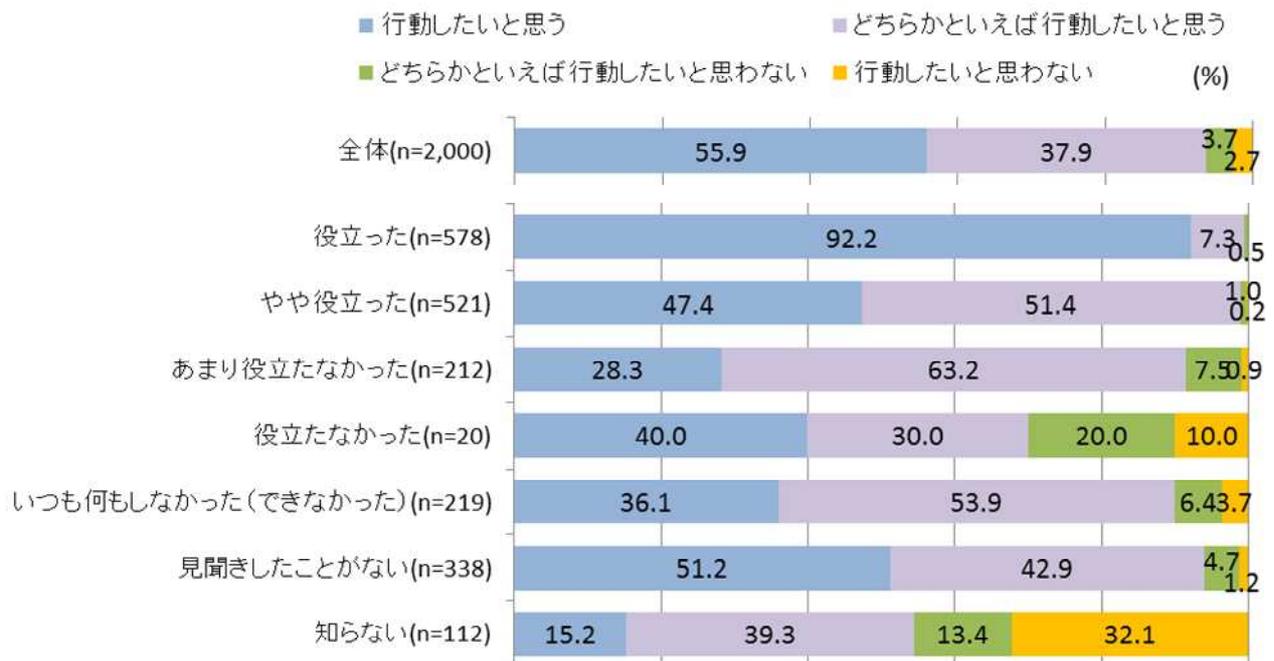
居住地別にみると、北海道地方では、「行動したいと思う」、「どちらかといえば行動したいと思う」を合わせた利用意向のある方は、全体に比べ高かった。

(26 - 2) 認知度 × 利用意向度



認知度と利用意向度のクロス集計をみると、「知っている」のほうが「知らない」より利用意向度が42%高かった。

(26 - 3) 役立ち度 × 利用意向度

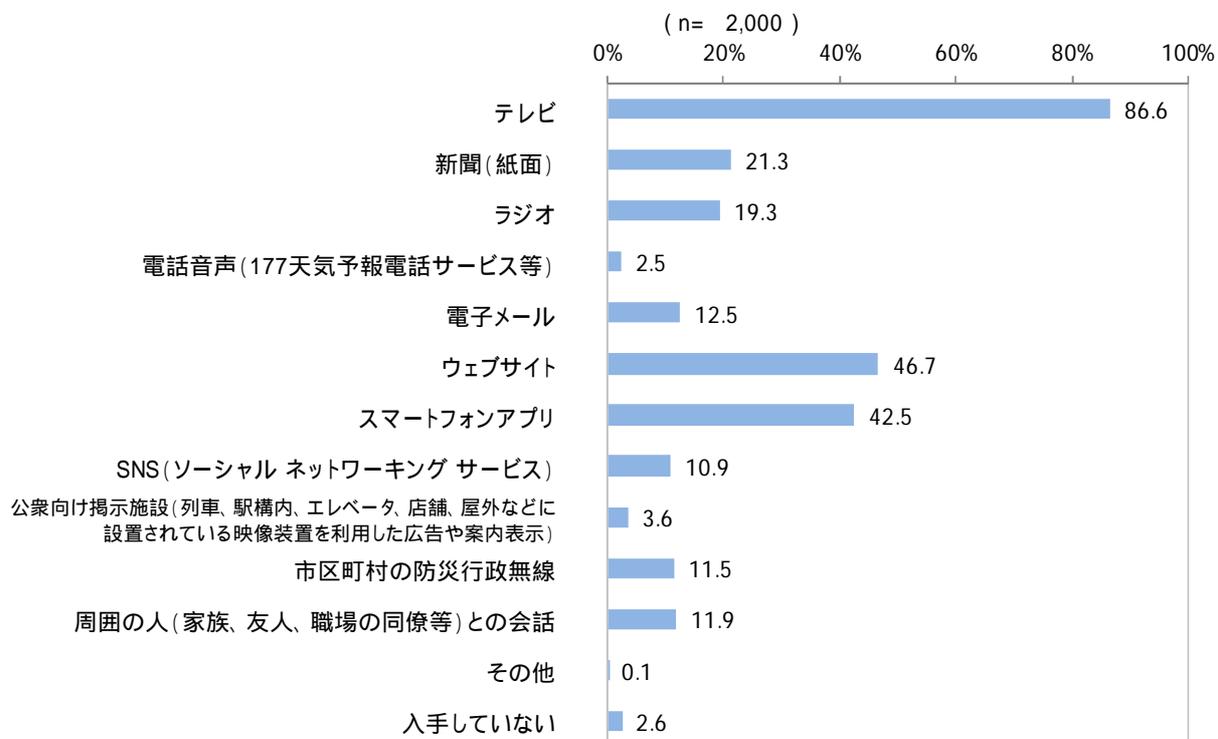


役立ち度と利用意向度のクロス集計をみると、「役立った」、「やや役立った」及び「あまり役立たなかった」の利用意向度はそれぞれ、100%、99%及び9割強であった。一方、「いつも何もしなかった(できなかった)」、「見聞きしたことがない」及び「知らない」の利用意向度は、それぞれ9割弱、9割台半ば及び5割台半ばであった。

5 気象情報の入手手段

(27) 入手手段

Q27 現在、あなたが天気予報や大雨警報などの気象情報を入手する手段は何ですか。(はいくつでも)



気象情報の入手手段について、「テレビ」が8割台半ば、次いで「ウェブサイト」、「スマートフォンアプリ」が4割台半ばであった。

* は全体 + 10ポイント以上、 は + 5ポイント以上、 は - 10ポイント以下、 は - 5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	テレビ	新聞 (紙面)	ラジオ	報道音声 (177天気予 報電話サー ビス等)	電子メ ール	ウェブ サイト	スマー トフォ ンアプ リ	SNS (ソシ ヤル サー ビス)	公衆 向け 掲示 施設 (列車、 駅構 内、エ レベ ータ、 店舗、 屋外 など に設 置さ れて いる 映像 装置 を 利用 した 広告 や案 内表 示)	市 区 町 村 の 防 災 行 政 無 線	周 圍 の 人 (家 族、 友 人、 職 場 の 同 僚 等) と の 会 話	そ の 他	入 手 し て い な い
全体	2000	86.6	21.3	19.3	2.5	12.5	46.7	42.5	10.9	3.6	11.5	11.9	0.1	2.6
性別														
男性	992	84.5	21.4	25.6	1.9	14.5	49.9	42.4	10.6	3.5	11.4	9.4	0.0	3.1
女性	1008	88.6	21.1	13.1	3.0	10.5	43.5	42.6	11.2	3.7	11.5	14.3	0.1	2.0
年代														
20代	262	80.5	14.5	11.5	2.7	6.5	43.9	48.9	21.4	5.3	7.3	14.9	0.0	4.6
30代	328	81.7	16.2	14.6	2.7	9.5	49.1	52.7	13.4	3.7	7.6	12.8	0.0	3.4
40代	390	83.6	14.6	19.0	1.5	12.3	53.1	46.2	10.8	3.6	9.5	11.0	0.0	3.6
50代	332	85.5	19.0	18.7	2.1	14.8	46.7	43.4	7.5	3.0	13.3	10.8	0.0	2.7
60代～70代	688	93.3	31.1	25.0	2.9	15.3	42.9	32.7	7.4	3.2	15.1	11.2	0.1	0.7
居住地														
北海道地方	88	86.4	29.5	19.3	4.5	17.0	35.2	48.9	11.4	3.4	8.0	11.4	0.0	3.4
東北地方	140	87.9	18.6	30.0	2.1	7.9	39.3	45.7	7.1	2.9	10.7	7.1	0.0	5.0
関東甲信地方	735	86.3	18.0	16.9	1.9	12.5	48.2	44.5	11.8	4.9	11.6	11.4	0.1	3.3
東海地方	236	88.6	19.9	19.5	2.5	14.4	48.7	38.6	10.6	1.7	12.3	12.7	0.0	0.8
北陸地方	80	85.0	28.8	33.8	1.3	6.3	42.5	30.0	11.3	0.0	8.8	6.3	0.0	1.3
近畿地方	322	87.0	21.4	16.1	2.5	14.6	47.5	44.7	11.2	4.0	9.6	12.7	0.0	1.2
中国地方	97	86.6	24.7	23.7	4.1	10.3	51.5	38.1	15.5	3.1	13.4	12.4	0.0	3.1
四国地方	60	83.3	26.7	13.3	1.7	15.0	38.3	41.7	6.7	6.7	18.3	15.0	0.0	5.0
九州北部地方	182	87.4	26.4	16.5	1.6	12.6	51.6	37.4	9.3	1.6	13.2	15.9	0.0	1.1
九州南部・奄美地方	38	84.2	28.9	31.6	10.5	7.9	44.7	52.6	7.9	5.3	7.9	13.2	0.0	2.6
沖縄地方	22	72.7	13.6	22.7	4.5	4.5	31.8	31.8	9.1	0.0	18.2	9.1	0.0	4.5

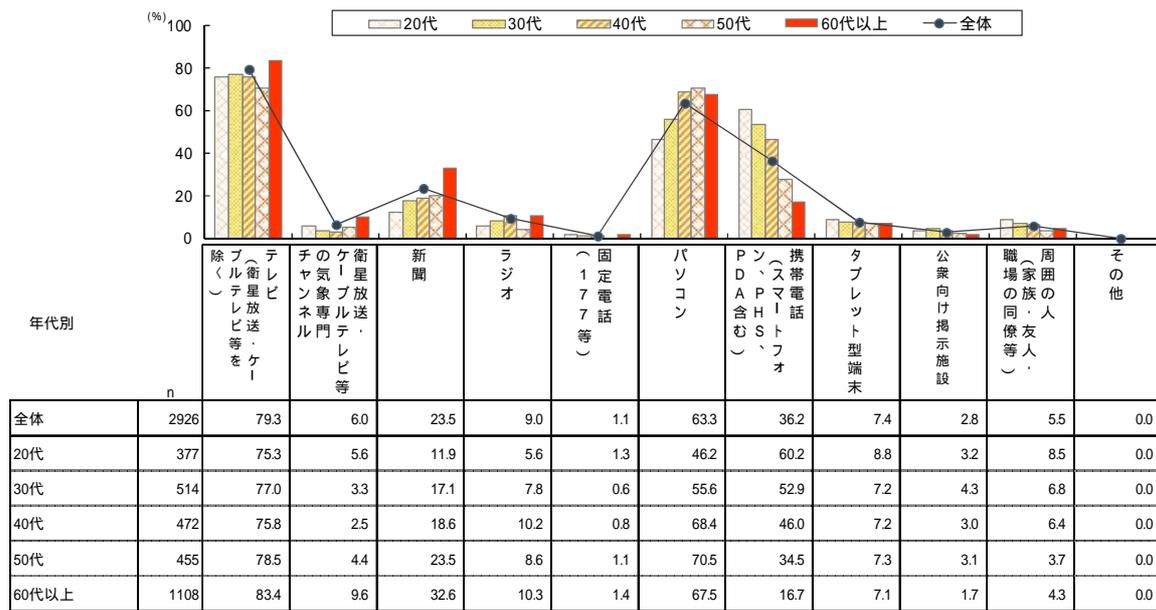
男女別にみると、男性では「ラジオ」が2割台半ばと、女性に比べ13%高かった。

年代別にみると、60代～70代では「テレビ」,
「新聞(紙面)」,
「ラジオ」が全体に比べ、それぞれ7%、10%、6%高かった。

居住地別にみると、東北地方、北陸地方、九州南部・奄美地方では「ラジオ」が全体に比べ、それぞれ11%、15%、12%高かった。

平成 26 年度利活用状況調査

[Q13(1) 「今日・明日・明後日の天気予報」を見聞きする手段(年代別)]



n: 「今日・明日・明後日の天気予報」利用者ベース

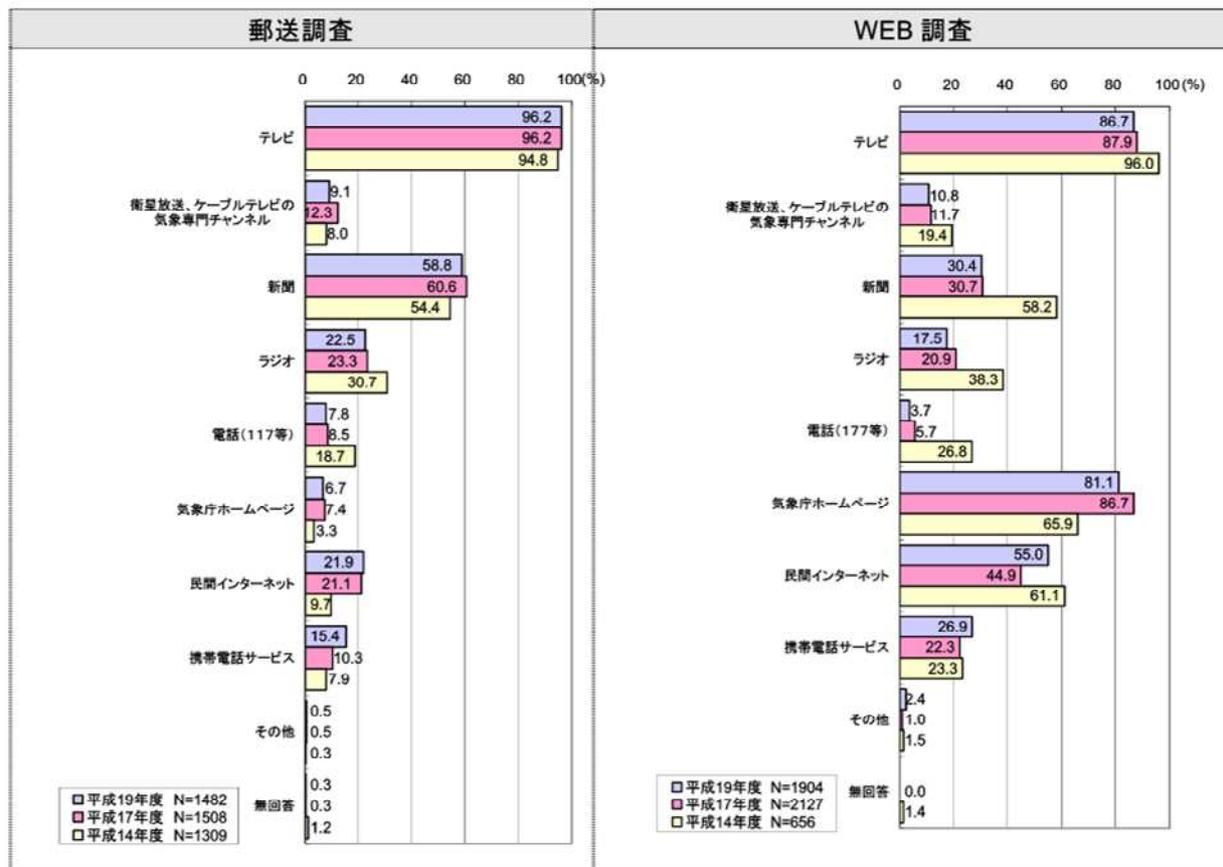
参照：平成 26 年度調査「気象情報等の利活用状況調査結果」32 ページ

http://www.jma.go.jp/jma/press/1503/24b/26manzokudo_data.pdf

平成 26 年度調査の「今日・明日・明後日の天気予報を見聞きする手段」と単純な比較は難しいが、今回の「テレビ」87%は、26 年度調査の「テレビ(衛星放送・ケーブルテレビ等を除く)」79%及び「衛星放送・ケーブルテレビ等の気象専門チャンネル」6%の合計と同等であった。

また、今回の「スマートフォンアプリ」43%は、26 年度調査の「携帯電話(スマートフォン、PHS、PDA を含む)」36%を上回った。

平成 19 年度、17 年度、14 年度利用状況調査



参照：平成 19 年度調査「天気予報に関する満足度調査」12 ページ

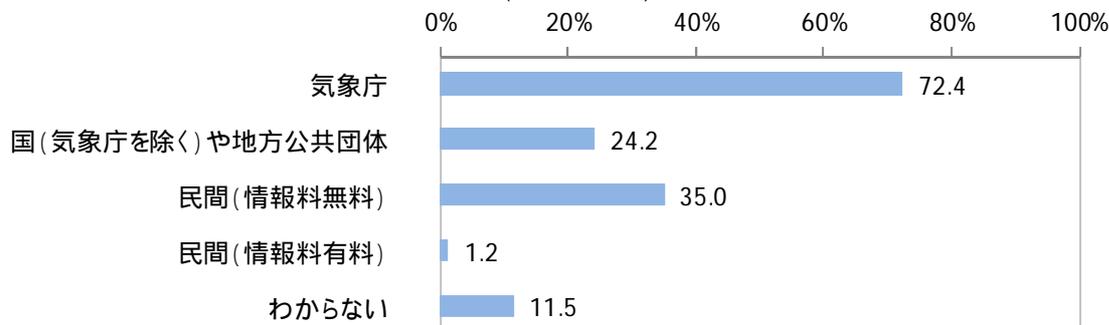
http://www.jma.go.jp/jma/kishou/hyouka/manzokudo/19manzokudo/19manzokudo_kekka.pdf

参考に、平成 19 年度、17 年度、14 年度の利用状況調査における今日・明日・明後日の天気予報の入手媒体調査の結果を示す。

(28) 提供元

Q28 あなたが、電子メール、ウェブサイト、スマートフォンアプリ、SNS を通じて入手する気象情報の提供元はどこですか。(はいくつでも)

n=1,502 ベース：気象情報の入手手段を電子メール、ウェブサイト、スマートフォンアプリ、SNS と回答した人 (n= 1,502)



気象情報の提供元について、「気象庁」が7割強、次いで「民間(情報料無料)」が3割台半ば、「国(気象庁を除く)や地方公共団体」が2割台半ばであった。

* は全体+10ポイント以上、 は+5ポイント以上、 は-10ポイント以下、 は-5ポイント以下
* 赤字はベースがn=29以下のため参考値

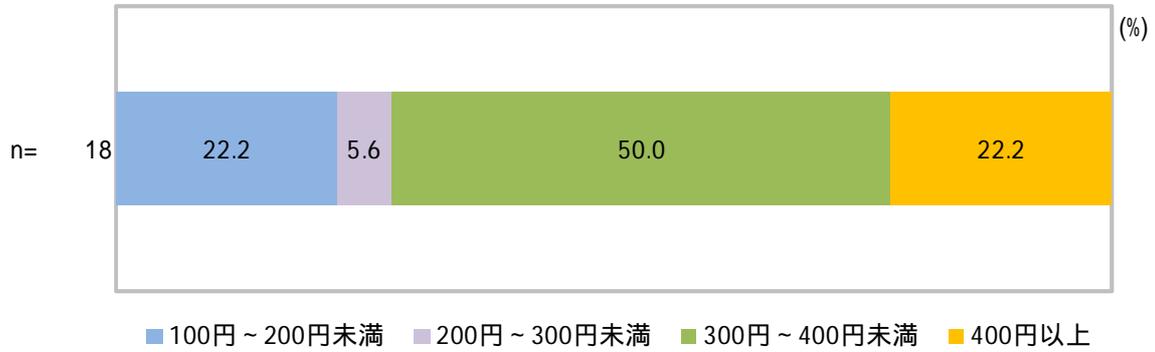
	n	気象庁	や国 地 方 公 共 団 体 を 除 く ()	民間 (情 報 料 無 料)	民間 (情 報 料 有 料)	わ か ら な い
全体	1502	72.4	24.2	35.0	1.2	11.5
性別						
男性	761	75.4	25.1	37.3	1.4	8.5
女性	741	69.4	23.3	32.7	0.9	14.6
年代						
20代	187	65.2	25.7	34.2	3.2	15.0
30代	259	69.1	25.9	33.2	1.2	13.5
40代	313	69.6	19.5	38.3	0.6	13.1
50代	250	70.8	21.6	33.6	2.0	11.2
60代~70代	493	79.5	27.2	34.9	0.4	8.3
居住地						
北海道地方	67	70.1	23.9	29.9	1.5	19.4
東北地方	101	67.3	29.7	34.7	0.0	15.8
関東甲信地方	565	71.7	23.2	37.2	0.7	12.0
東海地方	171	76.0	21.1	37.4	1.8	8.8
北陸地方	50	80.0	36.0	22.0	2.0	4.0
近畿地方	255	73.3	24.3	34.5	2.4	11.4
中国地方	76	77.6	25.0	32.9	1.3	3.9
四国地方	37	64.9	24.3	32.4	2.7	13.5
九州北部地方	138	73.2	24.6	33.3	0.7	13.0
九州南部・奄美地方	30	63.3	23.3	33.3	0.0	13.3
沖縄地方	12	66.7	16.7	41.7	0.0	0.0

年代別にみると、高齢層ほど「気象庁」からの情報入手の割合が高かった。

(29) 情報料

Q29 民間（情報料有料）の情報料は月々いくらですか。複数の民間に支払っている場合は、合計金額をお答えください。

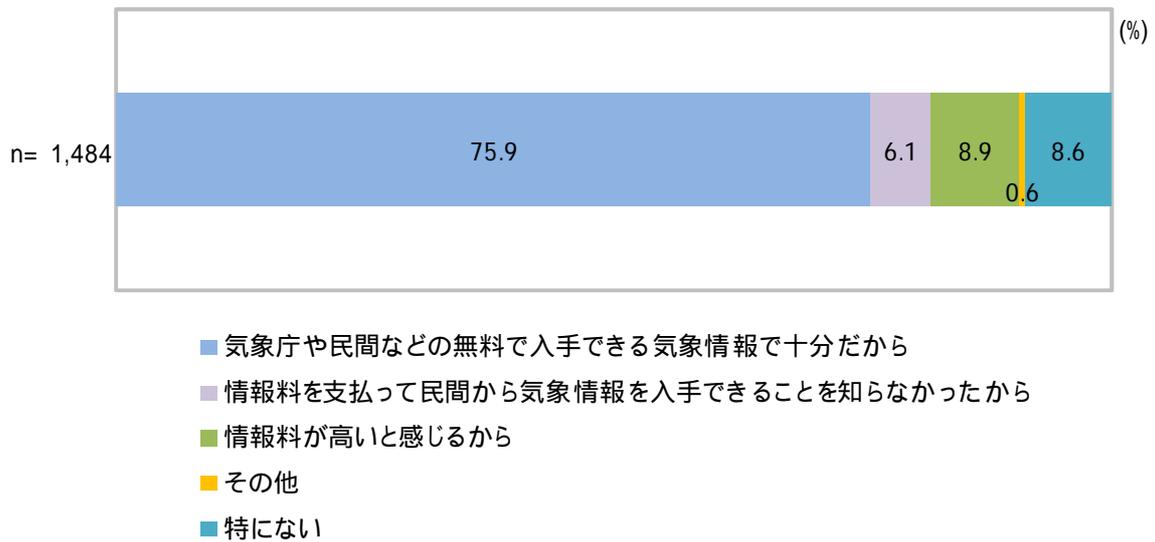
n=18 ベース：気象情報の提供元を民間(情報料有料)と回答し、その費用を回答した人



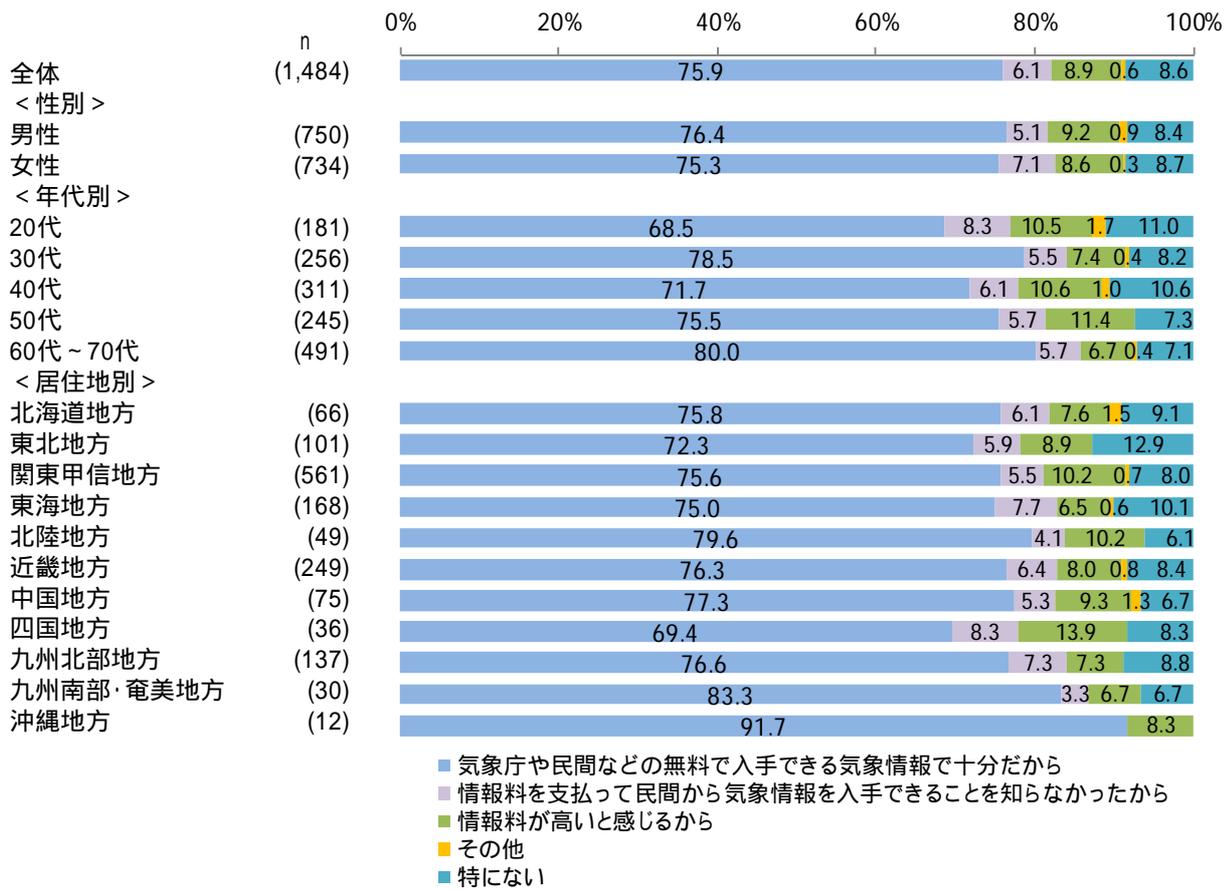
(30) 有料非入手理由

Q30 あなたが、情報料を支払って民間から気象情報を入手しない理由は何ですか。(は1つ)

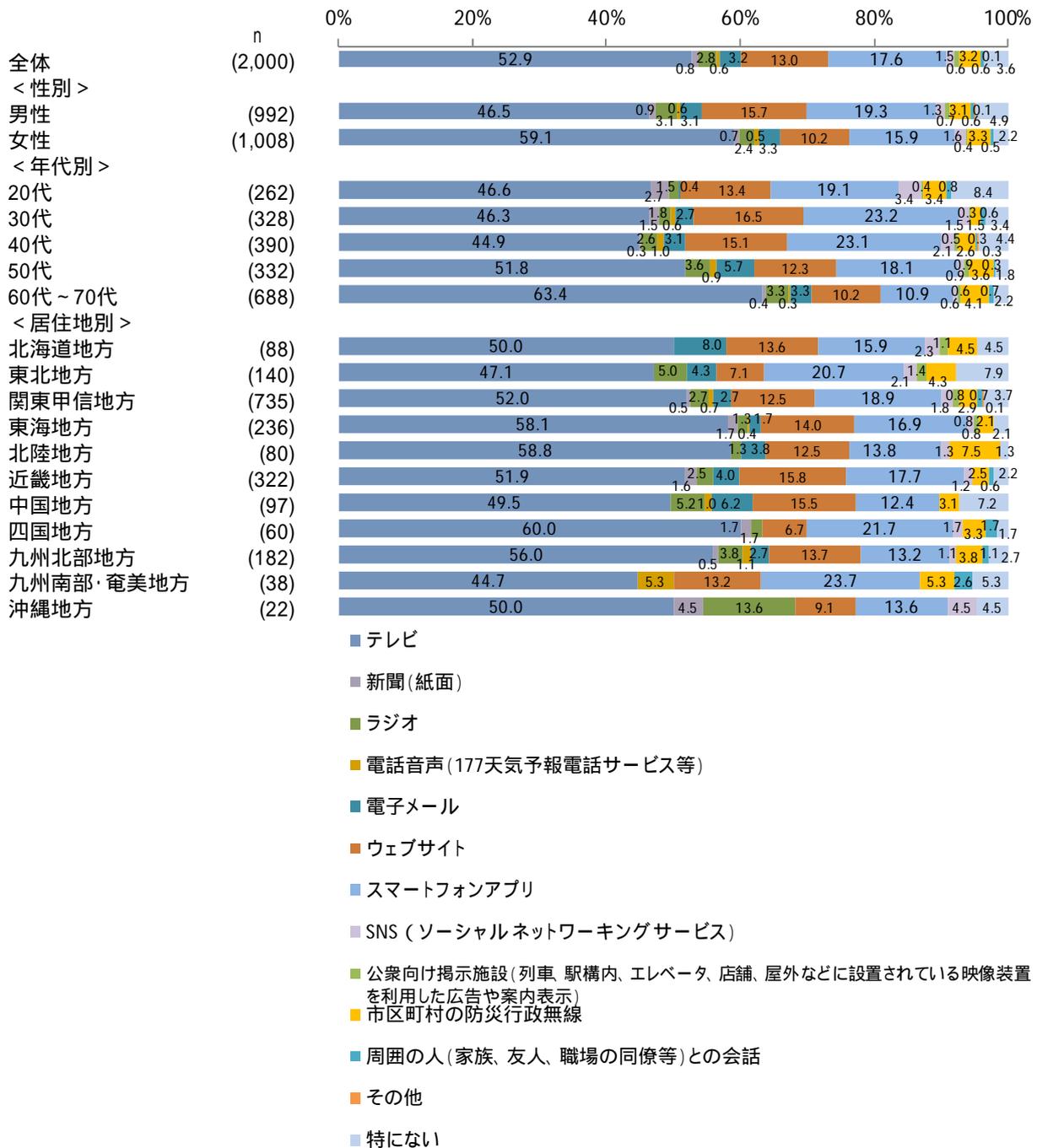
n=1,484 ベース：気象情報の提供元を気象庁、国(気象庁を除く)や地方公共団体、民間(情報料無料)、わからないと回答した人



気象情報の有料非入手理由について、「気象庁や民間などの無料で入手できる気象情報で十分だから」が7割台半ばを占めていた。

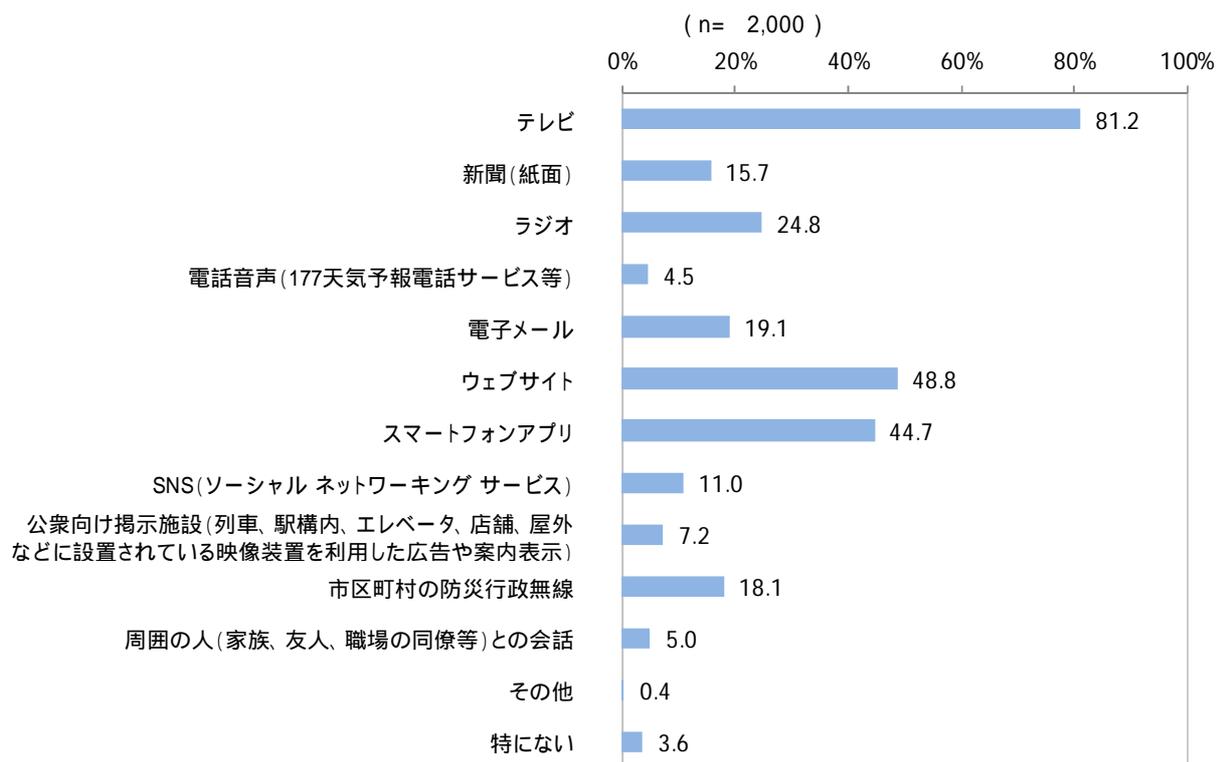


年代別にみると、30代、60代～70代では「気象庁や民間などの無料で入手できる気象情報で十分だから」が、全体に比べ高かった。



男女別にみると、女性では「テレビ」が6割弱と、男性に比べ13%高かった。
 年代別にみると、60代~70代では「テレビ」が6割台半ばと、全体に比べ高かった。
 居住地別にみると、東海地方、北陸地方、四国地方では、「テレビ」が、全体に比べ高かった。

(31-2) 期待する入手手段 (複数回答)



気象情報の期待する入手手段について優先順位を外して複数回答としてみると、「テレビ」が8割強と多数を占め、「ウェブサイト」が5割弱、「スマートフォンアプリ」が4割台半ばとなっている。

* は全体 +10ポイント以上、 は +5ポイント以上、 は -10ポイント以下、 は -5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

	n	テレビ	新聞 (紙面)	ラジオ	電話音声 (177天気予 報電話サー ビス等)	電子メール	ウェブサイト	スマートフォン アプリ	SNS(ソーシャル ネットワー キングサ ー ビス)	公共向け 施設(列 車、駅 構内、 エレベ ーター 、店舗 、屋外 などに 設置さ れてい る映像 装置を 利用し た広告 や案内 表示)	市区町村 の防災 行政無 線	周囲の人 (家族、 友人、 職場の 同僚等) との会 話	その他	特 に な い
全体	2,000	81.2	15.7	24.8	4.5	19.1	48.8	44.7	11.0	7.2	18.1	5.0	0.4	3.6
性別														
男性	992	77.4	15.6	28.0	4.6	19.3	49.5	44.2	10.8	7.0	15.7	5.0	0.4	4.9
女性	1,008	84.9	15.8	21.6	4.4	18.8	48.0	45.1	11.1	7.4	20.3	4.9	0.3	2.2
年代別														
20代	262	74.0	15.6	18.7	6.1	6.1	43.1	51.1	22.1	9.2	12.2	6.1	0.0	8.4
30代	328	79.3	13.1	22.3	2.4	12.5	56.1	56.1	14.0	5.8	12.5	5.2	0.6	3.4
40代	390	75.9	9.2	23.1	2.6	19.0	53.6	48.5	13.6	8.7	16.7	4.6	0.5	4.4
50代	332	83.1	15.4	25.9	4.5	24.7	53.3	45.5	5.4	6.9	17.8	3.6	0.6	1.8
60代~70代	688	86.9	20.8	28.8	6.0	24.4	42.4	34.2	6.4	6.4	23.8	5.2	0.1	2.2
居住地別														
北海道地方	88	77.3	15.9	25.0	6.8	35.2	38.6	39.8	8.0	14.8	15.9	3.4	0.0	4.5
東北地方	140	77.9	15.7	37.1	2.9	14.3	38.6	45.7	10.0	2.9	17.1	4.3	0.7	7.9
関東甲信地方	735	80.4	11.7	21.4	3.4	17.1	53.7	49.4	11.4	6.7	19.0	4.4	0.4	3.7
東海地方	236	80.9	21.6	27.5	5.1	22.9	51.3	38.1	9.3	5.1	17.8	6.8	0.0	2.1
北陸地方	80	80.0	18.8	37.5	3.8	22.5	40.0	36.3	10.0	8.8	22.5	8.8	0.0	1.3
近畿地方	322	83.5	17.4	20.8	5.6	19.6	47.2	44.4	11.2	12.1	15.2	4.7	0.9	2.2
中国地方	97	76.3	14.4	30.9	7.2	20.6	49.5	40.2	12.4	4.1	16.5	3.1	0.0	7.2
四国地方	60	90.0	28.3	21.7	8.3	13.3	40.0	46.7	8.3	5.0	20.0	3.3	0.0	1.7
九州北部地方	182	85.2	15.4	22.5	3.8	17.6	48.9	42.3	12.1	5.5	18.7	7.1	0.0	2.7
九州南部・奄美地方	38	78.9	15.8	26.3	5.3	13.2	42.1	44.7	18.4	7.9	23.7	5.3	0.0	5.3
沖縄地方	22	86.4	22.7	40.9	4.5	18.2	45.5	36.4	9.1	0.0	13.6	0.0	0.0	4.5

男女別にみると、女性では「テレビ」が8割台半ばと、男性に比べ8%高かった。一方、男性では「ラジオ」が3割弱と、女性よりも6%高かった。

年代別にみると、高齢層ほど「テレビ」の割合が高い傾向にある。また、20代、30代では「スマートフォンアプリ」が5割以上と、全体に比べ高かった。

居住地別にみると、四国地方では「テレビ」が9割と他居住地に比べ高くなっている。また、東北地方及び北陸地方では「ラジオ」が4割弱と、他居住地に比べ高かった。

(31 - 3) 見聞時の行動×期待する入手手段 (複数回答)

		Q31 期待する入手手段														
		n	テレビ	新聞 (紙面)	ラジオ	電話音声 (177 天気予報電話サービス等)	電子メール	ウェブサイト	スマートフォンアプリ	SNS (ソーシャル ネットワーキング サービス)	置を 利用した 広告や案内表示)	公衆 向け 施設 (列車、 駅構内、 エレベーター、 店舗、 屋外などに 設置されて いる映像表 示)	市区 町村の 防災行政 無線	周囲 の人 (家族、 友人、 職場の 同僚等) との 会話	その他	特 に な い
全体		2000 100.0	1624 81.2	314 15.7	496 24.8	90 4.5	381 19.1	975 48.8	893 44.7	219 11.0		144 7.2	361 18.1	99 5.0	7 0.4	71 3.6
Q2 天気予報見聞 時の行動	テレビ、ラジオ、インター ネット等から最新、詳細な 情報を確認した	1426 100.0	1184 83.0	212 14.9	357 25.0	53 3.7	271 19.0	742 52.0	662 46.4	164 11.5	99 6.9	272 19.1	65 4.6	4 0.3	26 1.8	
	傘や長靴などの雨具を準備 した	972 100.0	790 81.3	134 13.8	214 22.0	36 3.7	183 18.8	501 51.5	479 49.3	118 12.1	85 8.7	203 20.9	52 5.3	5 0.5	14 1.4	
	暑さや寒さに備えた服装 にした	1091 100.0	872 79.9	141 12.9	226 20.7	45 4.1	212 19.4	558 51.1	543 49.8	140 12.8	83 7.6	236 21.6	61 5.6	3 0.3	24 2.2	
	洗濯を行うかどうか決めた	738 100.0	614 83.2	94 12.7	147 19.9	29 3.9	135 18.3	380 51.5	355 48.1	106 14.4	48 6.5	167 22.6	36 4.9	1 0.1	11 1.5	
	レジャーや旅行の計画の 変更又は継続を決めた	555 100.0	434 78.2	68 12.3	113 20.4	19 3.4	105 18.9	294 53.0	273 49.2	82 14.8	42 7.6	117 21.1	40 7.2	4 0.7	10 1.8	
	仕事の計画の変更又は継続 を決めた	190 100.0	144 75.8	21 11.1	49 25.8	7 3.7	36 18.9	98 51.6	96 50.5	29 15.3	16 8.4	37 19.5	8 4.2	0 0.0	5 2.6	
	熱中症に備えた	348 100.0	276 79.3	45 12.9	84 24.1	13 3.7	57 16.4	167 48.0	173 49.7	46 13.2	26 7.5	89 25.6	21 6.0	3 0.9	6 1.7	
	家族や知り合いへ天気予 報を伝えた	605 100.0	495 81.8	68 11.2	108 17.9	20 3.3	98 16.2	333 55.0	314 51.9	81 13.4	42 6.9	137 22.6	37 6.1	4 0.7	12 2.0	
	その他:	11 100.0	8 72.7	1 9.1	1 9.1	1 9.1	2 18.2	5 45.5	8 72.7	1 9.1	1 9.1	1 9.1	1 9.1	0 0.0	0 0.0	
	いつも何もなかった	80 100.0	68 85.0	14 17.5	26 32.5	4 5.0	14 17.5	33 41.3	29 36.3	4 5.0	4 5.0	9 11.3	2 2.5	0 0.0	6 7.5	
	Q8 台風情報見聞 時の行動	テレビ、ラジオ、インター ネット等から最新、詳細な 気象情報を確認した	1541 100.0	1274 82.7	225 14.6	378 24.5	68 4.4	300 19.5	789 51.2	728 47.2	180 11.7	108 7.0	304 19.7	74 4.8	5 0.3	27 1.8
市区町村による避難情報 を確認した		347 100.0	282 81.3	50 14.4	87 25.1	15 4.3	63 18.2	155 44.7	168 48.4	37 10.7	20 5.8	103 29.7	19 5.5	3 0.9	5 1.4	
家族や知り合いへ情報を 伝えた		607 100.0	493 81.2	76 12.5	125 20.6	23 3.8	103 17.0	307 50.6	307 50.6	83 13.7	45 7.4	138 22.7	39 6.4	5 0.8	11 1.8	
外出を控えた		991 100.0	819 82.6	139 14.0	206 20.8	43 4.3	192 19.4	487 49.1	462 46.6	122 12.3	77 7.8	234 23.6	58 5.9	5 0.5	19 1.9	
通勤や通学をするかどうか を決めた		232 100.0	174 75.0	22 9.5	47 20.3	6 2.6	37 15.9	130 56.0	124 53.4	39 16.8	24 10.3	49 21.1	11 4.7	0 0.0	7 3.0	
レジャーや旅行の計画の 変更又は継続を決めた		474 100.0	382 80.6	63 13.3	93 19.6	10 2.1	91 19.2	251 53.0	224 47.3	70 14.8	36 7.6	112 23.6	31 6.5	4 0.8	5 1.1	
仕事の計画の変更又は継続 を決めた		228 100.0	165 72.4	25 11.0	52 22.8	6 2.6	39 17.1	116 50.9	125 54.8	42 18.4	25 11.0	49 21.5	13 5.7	2 0.9	4 1.8	
避難又は避難の準備を 行った		71 100.0	54 76.1	11 15.5	14 19.7	5 7.0	9 12.7	28 39.4	36 50.7	15 21.1	4 5.6	25 35.2	6 8.5	0 0.0	1 1.4	
その他:		10 100.0	9 90.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	9 90.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
いつも何もなかった		43 100.0	34 79.1	5 11.6	7 16.3	1 2.3	6 14.0	24 55.8	15 34.9	5 11.6	2 4.7	2 4.7	1 2.3	0 0.0	6 14.0	

(31-3) 入手手段×期待する入手手段(複数回答)

* は全体+10ポイント以上、 は+5ポイント以上、 は-10ポイント以下、 は-5ポイント以下
 * 赤字はベースがn=29以下のため参考値

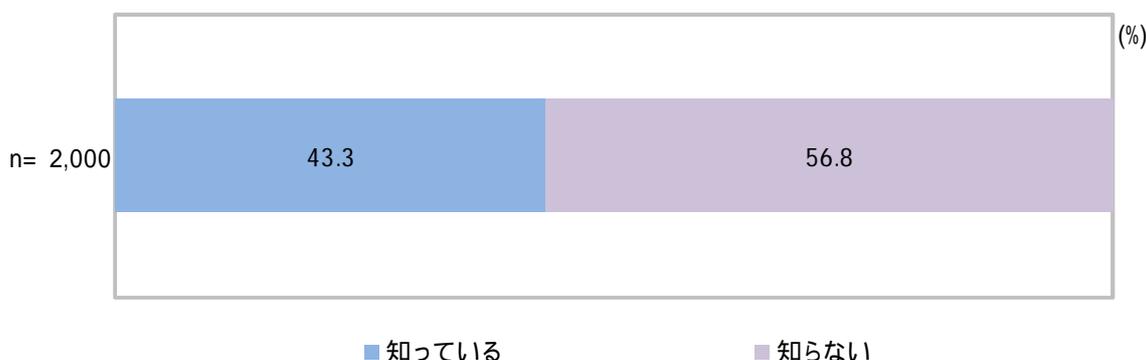
		Q31 期待する入手手段													
		n	テレビ	新聞(紙面)	ラジオ	電話音声(177天気予報電話サービス等)	電子メール	ウェブサイト	スマートフォンアプリ	SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)	公衆向け掲示施設(列車、駅構内、エレベータ、店舗、屋外などに設置されている映像装置を利用した広告や案内表示)	市区町村の防災行政無線	周囲の人(家族、友人、職場の同僚等)との会話	その他	特にない
全体		2000	1624	314	496	90	381	975	893	219	144	361	99	7	71
		100.0	81.2	15.7	24.8	4.5	19.1	48.8	44.7	11.0	7.2	18.1	5.0	0.4	3.6
Q27 現在の入手手段	テレビ	1731	1493	270	429	75	332	844	763	189	119	329	84	6	36
		100.0	86.3	15.6	24.8	4.3	19.2	48.8	44.1	10.9	6.9	19.0	4.9	0.3	2.1
	新聞(紙面)	425	363	156	125	23	78	177	154	34	23	80	23	1	6
		100.0	85.4	36.7	29.4	5.4	18.4	41.6	36.2	8.0	5.4	18.8	5.4	0.2	1.4
	ラジオ	386	309	64	247	21	69	131	146	26	19	60	18	1	9
		100.0	80.1	16.6	64.0	5.4	17.9	33.9	37.8	6.7	4.9	15.5	4.7	0.3	2.3
	電話音声(177天気予報電話サービス等)	49	38	12	12	10	13	15	19	7	2	9	2	0	2
		100.0	77.6	24.5	24.5	20.4	26.5	30.6	38.8	14.3	4.1	18.4	4.1	0.0	4.1
	電子メール	250	183	36	63	17	118	104	86	31	14	57	15	1	3
		100.0	73.2	14.4	25.2	6.8	47.2	41.6	34.4	12.4	5.6	22.8	6.0	0.4	1.2
	ウェブサイト	933	741	92	167	29	170	686	420	106	62	166	33	2	20
		100.0	79.4	9.9	17.9	3.1	18.2	73.5	45.0	11.4	6.6	17.8	3.5	0.2	2.1
	スマートフォンアプリ	850	646	60	127	18	110	397	669	121	71	155	52	6	21
		100.0	76.0	7.1	14.9	2.1	12.9	46.7	78.7	14.2	8.4	18.2	6.1	0.7	2.5
	SNS(ソーシャル ネットワーキング サービス)	218	151	17	34	8	31	95	122	98	15	50	14	1	1
	100.0	69.3	7.8	15.6	3.7	14.2	43.6	56.0	45.0	6.9	22.9	6.4	0.5	0.5	
公衆向け掲示施設(列車、駅構内、エレベータ、店舗、屋外などに設置されている映像装置を利用した広告や案内表示)	72	55	9	14	2	9	36	40	10	12	20	3	1	1	
	100.0	76.4	12.5	19.4	2.8	12.5	50.0	55.6	13.9	16.7	27.8	4.2	1.4	1.4	
市区町村の防災行政無線	229	173	23	52	9	48	90	96	24	12	116	13	1	7	
	100.0	75.5	10.0	22.7	3.9	21.0	39.3	41.9	10.5	5.2	50.7	5.7	0.4	3.1	
周囲の人(家族、友人、職場の同僚等)との会話	237	192	23	36	3	48	128	119	41	20	55	22	0	5	
	100.0	81.0	9.7	15.2	1.3	20.3	54.0	50.2	17.3	8.4	23.2	9.3	0.0	2.1	
その他:	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	
	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
入手していない	51	24	15	15	1	1	10	5	3	2	1	1	0	23	
	100.0	47.1	29.4	29.4	2.0	2.0	19.6	9.8	5.9	3.9	2.0	2.0	0.0	45.1	

現在の入手手段と期待する入手手段(複数回答)のクロス集計をみると、ほとんどの入手手段について、現在の入手手段への期待が比較的高かった。また、現在の入手手段が「SNS」及び「公衆向け掲示施設」の人は、「スマートフォンアプリ」への期待がいずれも5割台半ばと比較的高かった。一方、現在の入手手段が「SNS」とする人は、「テレビ」への期待が7割弱と比較的低かった。

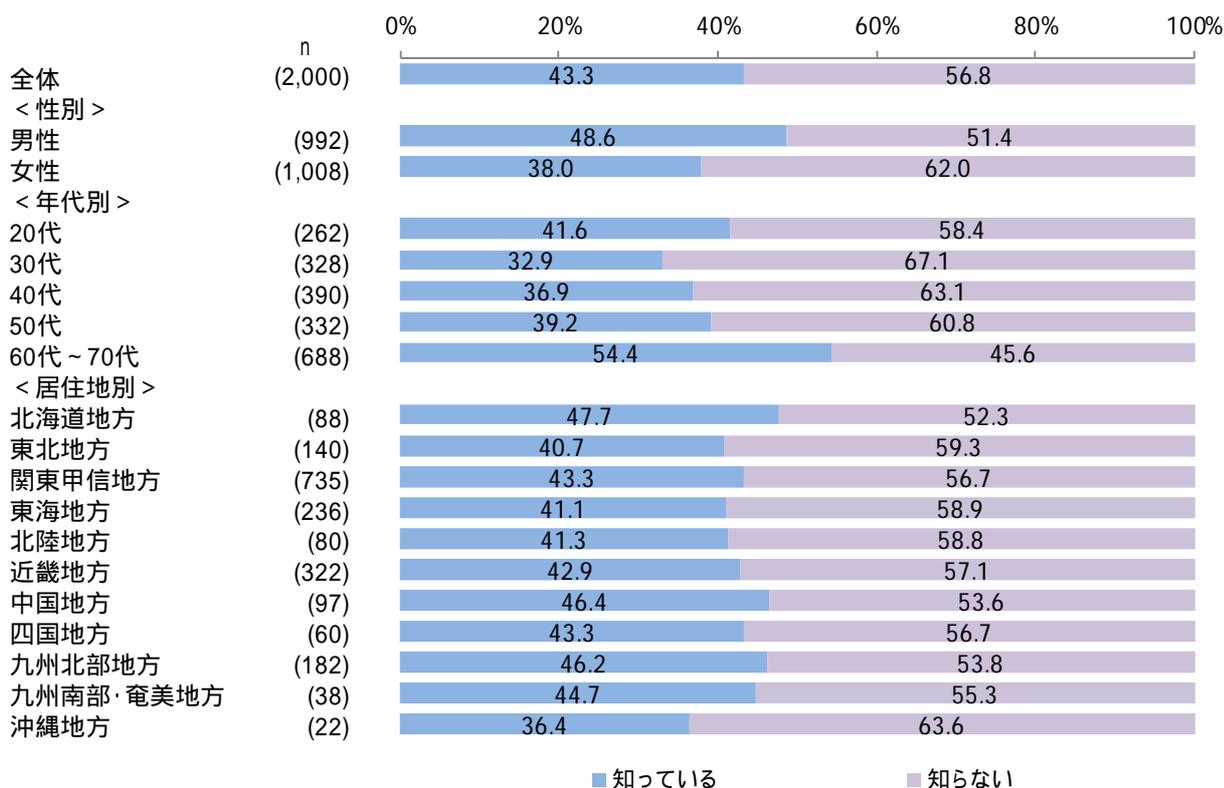
6 安全知識の普及啓発

(32) 取組認知度

Q32 あなたは、気象庁が気象や地震などの自然現象に対する安全知識の広報・普及に関する取り組みを行っていることを知っていますか。(1 は1つ)



安全知識の普及啓発の取組認知度について、「知っている」が4割台半ばであった。

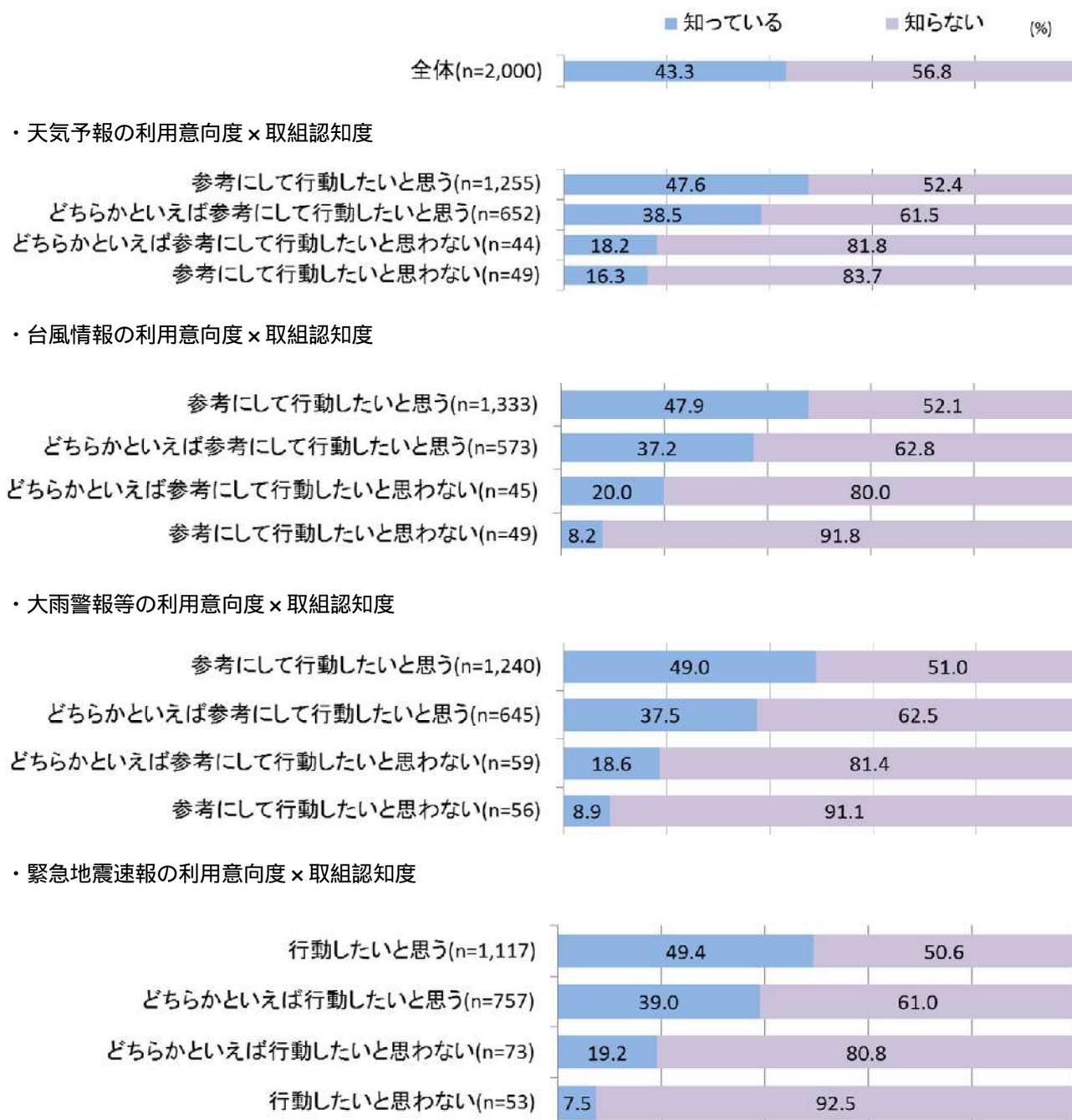


男女別にみると、男性では「知っている」の割合が5割弱と、女性と比べ11%高かった。

年代別にみると、60代～70代では「知っている」の割合が5割台半ばと、全体に比べ高かった。

居住地別にみると、北海道地方、中国地方、九州北部地方では「知っている」の割合が、全体に比べ高かった。

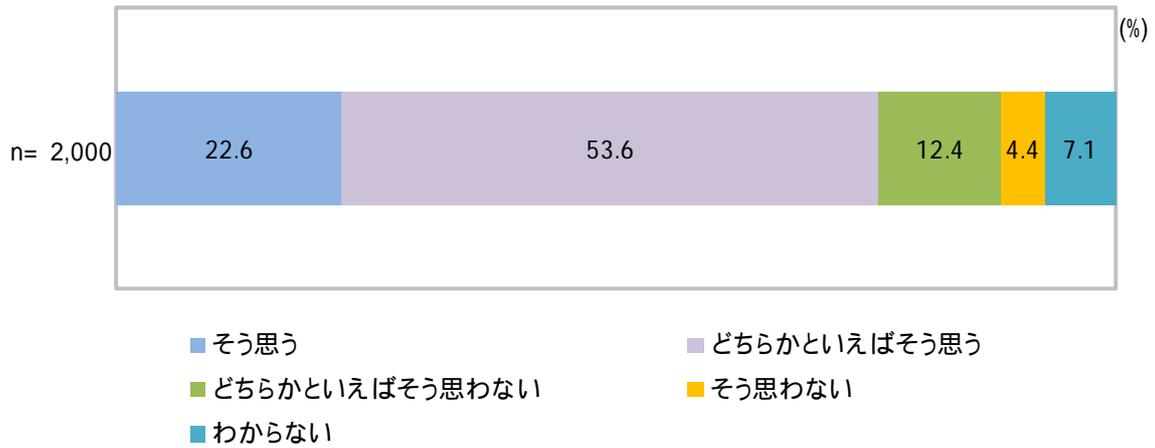
(33) 利用意向度 × 取組認知度



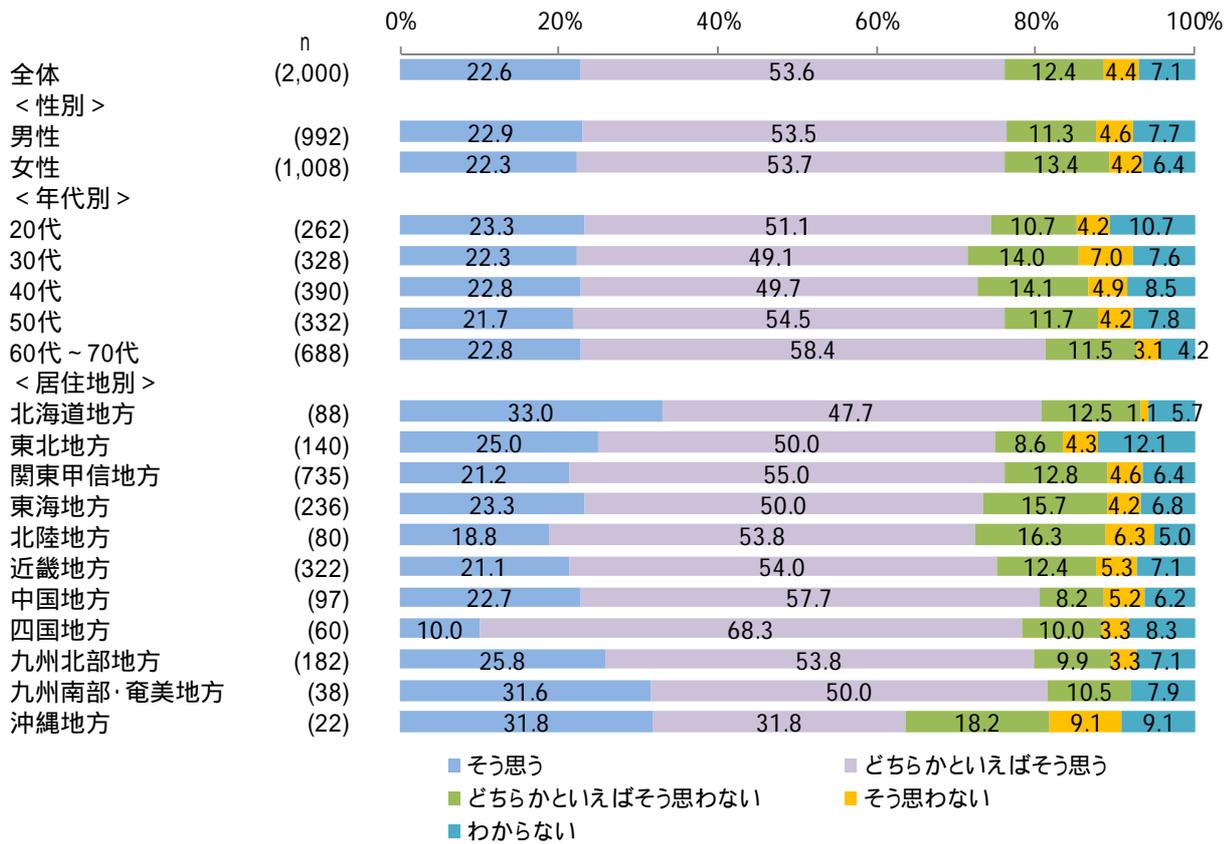
各情報の利用意向度と取組認知度のクロス集計をみると、各情報の利用意向度が高いほど、取組認知度も高かった。

(33 - 1) 防災意識の醸成度

Q33 あなたは、5年前と比べて、気象や地震などの自然現象に対する防災行動を自らの判断で行うことができる世の中になってきたと思いますか。(1 は1つ)

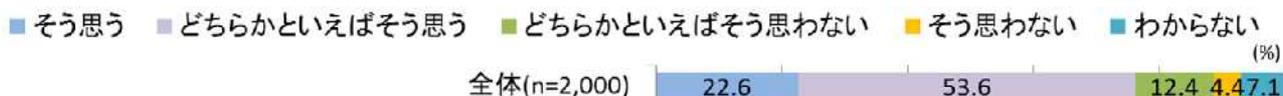


防災意識の醸成度について、「そう思う」が2割台半ば、「どちらかといえばそう思う」が5割台半ばとなり、合わせた防災意識の醸成度は7割台半ばであった。

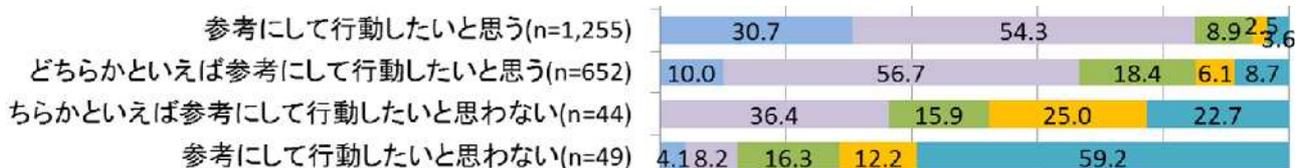


年代別にみると、60代~70代では「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた防災意識の醸成度は8割強となり、全体に比べ高かった。

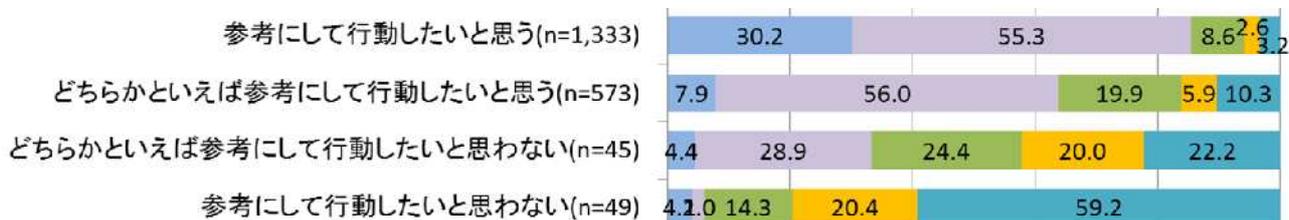
(33 - 2) 利用意向度 × 防災意識の醸成度



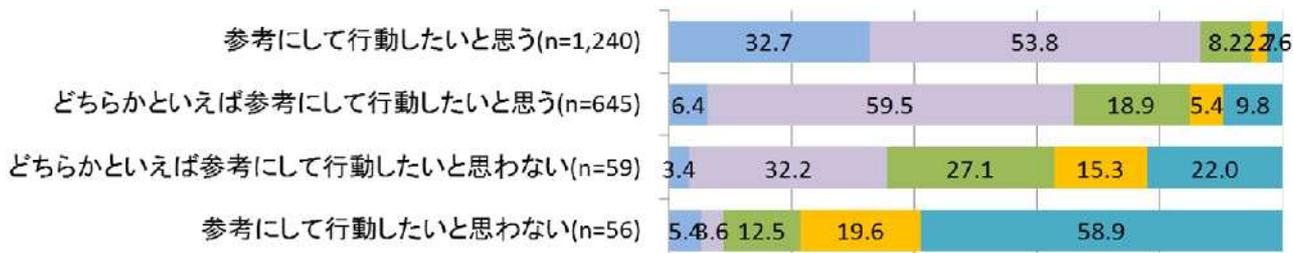
・ 天気予報の利用意向度 × 防災意識の醸成度



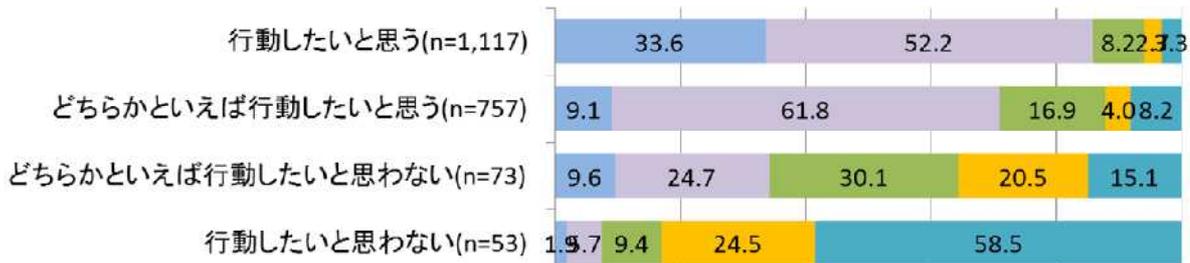
・ 台風情報の利用意向度 × 防災意識の醸成度



・ 大雨警報等の利用意向度 × 防災意識の醸成度

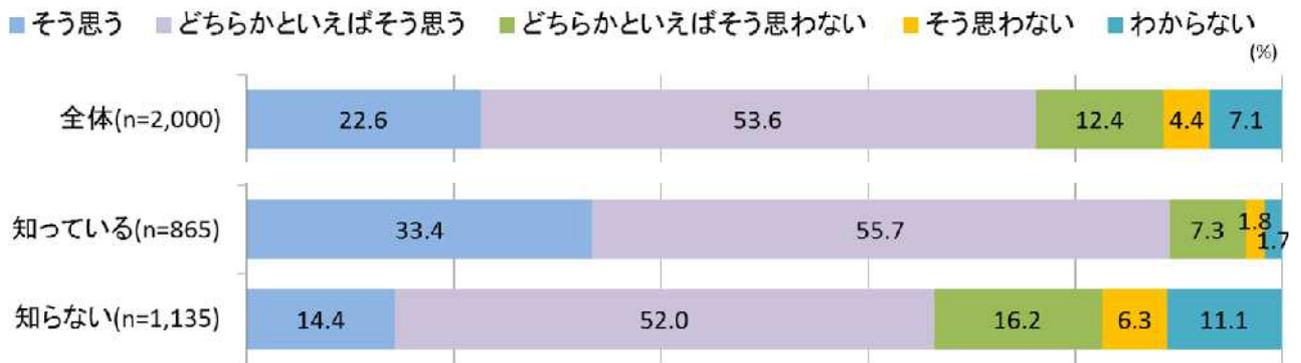


・ 緊急地震速報の利用意向度 × 防災意識の醸成度



各情報の利用意向度と防災意識の醸成度のクロス集計をみると、各情報の利用意向度が高いほど、防災意識の醸成度も高かった。

(33 - 3) 取組認知度 × 防災意識の醸成度



取組認知度と防災意識の醸成度のクロス集計をみると、取組を知っているほうが、防災意識の醸成度が23%高かった。

7 気象情報の比較

(1) 認知度

- ・ 認知度をみると、聴取した台風情報、大雨警報等及び緊急地震速報の全てで 9 割以上であった。(表 1)
- ・ 年代別にみると、いずれの気象情報においても、高齢層になるほど認知度が高かった。(図 1)
- ・ 居住地別にみると、台風情報及び大雨警報は、東北地方が他地域に比べ低かった。(図 1)

(2) 見聞の頻度/有無

- ・ 見聞の有無をみると、天気予報、台風情報、大雨警報等では「見聞きした」が 9 割以上、緊急地震速報では 8 割強であった。(表 1)
- ・ 年代別にみると、天気予報、台風情報、大雨警報等は、高齢層ほど、見聞した割合が高い傾向であった。緊急地震速報は、30 代が見聞した割合が最も高かった。(図 2)
- ・ 居住地別にみると、台風情報は九州北部地方と九州南部・奄美地方が高く、大雨警報は九州北部地方が最も高かった。(図 2)

(3) 見聞時の行動

- ・ 見聞時の行動をみると、天気予報、台風情報、大雨警報等で「テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な情報を確認した」が最も高かった。一方で、緊急地震速報では「揺れに備えて身構えた」が 6 割台半ばであった。(表 1)

(4) 行動した人の役立ち感

- ・ 行動した人の役立ち感をみると、「役立った」及び「やや役立った」の合計は天気予報、台風情報、大雨警報等が 9 割以上、緊急地震速報が 8 割台半ばであった。(表 1)
- ・ 年代別にみると、緊急地震速報は 20 代、50 代が他年代に比べ、高かった。(図 3)
- ・ 緊急地震速報は、関東甲信地方で 7 割台半ばと、他居住地に比べ、最も低かった。(図 3)

(5) 期待

- ・ 予測精度の向上、危険な状況の明瞭さは、全ての情報で期待度が約 9 割であった。(表 1)
- ・ とるべき行動の判断は、台風情報及び大雨警報等で期待度が 8 割強、天気予報で 7 割弱であった。(表 1)

危険な状況の明瞭さは、天気予報には同一の設問なし。

緊急地震速報は、他気象情報と同一の設問ないため、比較なし。

(6) 利用意向

- ・ 利用意向度は、全ての情報において 9 割以上であった。(表 1)
- ・ 年代別にみると、全ての情報で高齢層ほど利用意向度が高い傾向であった。(図 4)
- ・ 地方予報区別にみると、台風情報を除いた気象情報においては、北海道地方では利用意向度が全体に比べ高かった。一方で台風情報においては、北陸地方、近畿地方で利用意向度が全体に比べ高かった。(図 4)

緊急地震速報では「参考にして行動したいと思う」が「行動したいと思う」、「どちらかといえば参考にして行動したいと思う」が「どちらかといえば行動したいと思う」の選択肢。

(表1) 気象情報の比較

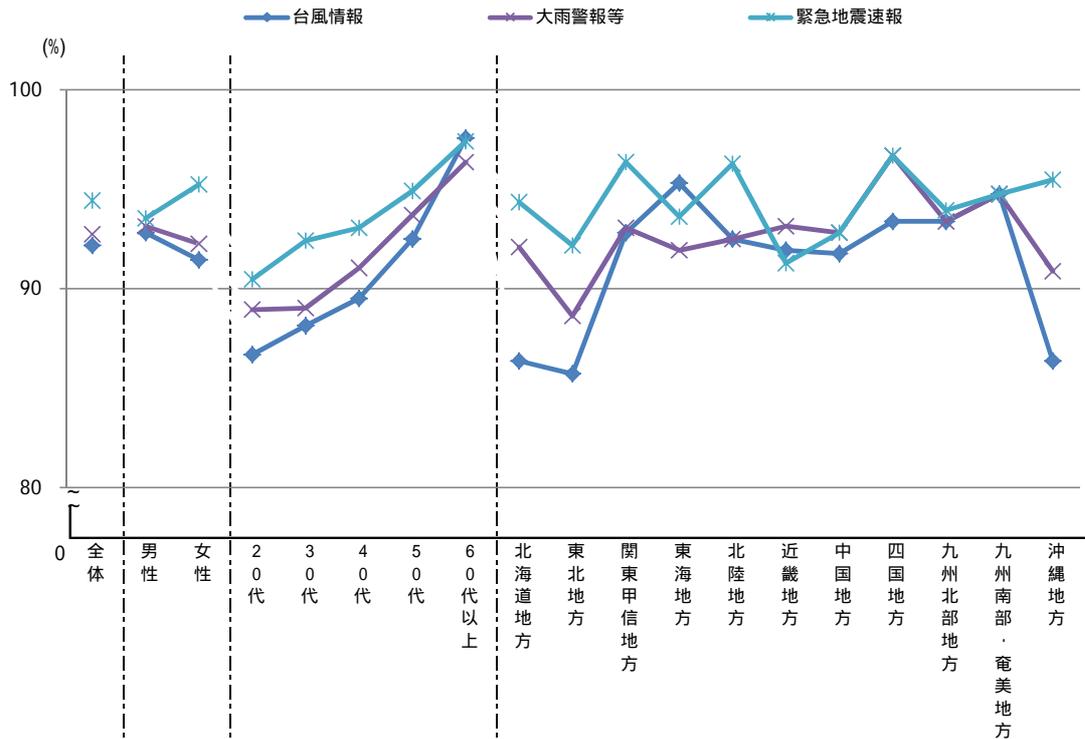
(%)

		天気予報	台風情報	大雨警報等	緊急地震速報			
認知度	n=	(2,000)	(2,000)	(2,000)	(2,000)			
			92.2	92.7	94.4			
見聞の頻度 / 有無	n=	(2,000)	1 (1,843)	1 (1,854)	1 (1,888)			
	1日に2回以上	48.5	見聞きした	97.4	見聞きした	90.3		
	1日に1回程度	36.9				見聞きしたことがある	82.1	
	週に2~4回程度	9.0	見聞きしなかった	2.6	見聞きしなかった	9.7	見聞きしたことがない	17.9
	週に1回程度	2.2						
	週に1回未満	1.0						
	見聞きしなかった	2.6						
見聞時の行動	2 n=	(1,948)	2 (1,795)	2 (1,675)	2 (1,550)			
	テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な情報を確認した	73.2	テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な気象情報を確認した	85.8	テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な気象情報を確認した	85.3	揺れに備えて身構えた	62.6
	傘や長靴などの雨具を準備した	49.9	市区町村による避難情報を確認した	19.3	市区町村による避難情報を確認した	25.7	周りの人に地震が来ることを知らせた	19.1
	暑さや寒さに備えた服装にした	56.0	家族や知り合いへ情報を伝えた	33.8	家族や知り合いへ情報を伝えた	34.3	頭を守る、机の下に身を隠すなどその場で身を守った	13.8
	洗濯を行うかどうか決めた	37.9	外出を控えた	55.2	外出を控えた	51.4	子どもや家族など身のまわりの人を守った	13.9
	レジャーや旅行の計画の変更又は継続を決めた	28.5	通勤や通学をするかどうかを決めた	12.9	通勤や通学をするかどうかを決めた	11.7	棚などの家具が倒れないように押さえた	8.8
	仕事の計画の変更又は継続を決めた	9.8	レジャーや旅行の計画の変更又は継続を決めた	26.4	レジャーや旅行の計画の変更又は継続を決めた	20.4	火を消した	23.2
	熱中症に備えた	17.9	仕事の計画の変更又は継続を決めた	12.7	仕事の計画の変更又は継続を決めた	11.4	ドアなどを開けて逃げ道を確認した	13.8
	家族や知り合いへ天気予報を伝えた	31.1	避難又は避難の準備を行った	4.0	避難又は避難の準備を行った	3.0	屋内から屋外へ出た	4.8
	その他	0.6	その他	0.6	その他	0.3	テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知らうとした	34.4
	いつも何もしなかった	4.1	いつも何もしなかった	2.4	いつも何もしなかった	2.9	その他	0.6
							いつも何もしなかった(できなかった)	14.1
行動した人の役立ち感	3 n=	(1,868)	3 (1,752)	3 (1,627)	3 (1,331)			
	役立った	61.2	61.4	57.8	43.4			
	やや役立った	37.1	35.6	37.7	39.1			
	あまり役立たなかった	1.3	2.7	4.1	15.9			
	役立たなかった	0.3	0.3	0.4	1.5			
期待	n=	(2,000)	1 (1,843)	1 (1,854)				
	予測精度の向上							
	そう思う	46.7	51.5	45.8				
	どちらかといえばそう思う	42.6	42.4	45.4				
	どちらかといえばそう思わない	6.8	4.4	7.2				
	そう思わない	4.0	1.6	1.6				
	危険な状況の明瞭さ							
	n=	(2,000)	1 (1,843)	1 (1,854)				
	そう思う		45.8	44.3				
	どちらかといえばそう思う		46.7	47.0				
	どちらかといえばそう思わない		5.8	7.0				
	そう思わない		1.7	1.8				
とるべき行動の判断								
n=	(2,000)	1 (1,843)	1 (1,854)					
そう思う	21.3	29.5	29.9					
どちらかといえばそう思う	48.4	51.5	50.5					
どちらかといえばそう思わない	21.9	15.3	15.6					
そう思わない	8.5	3.7	4.0					
利用意向	n=	(2,000)	(2,000)	(2,000)	(2,000)			
	参考にして行動したいと思う	62.8	66.7	62.0	行動したいと思う	55.9		
	どちらかといえば参考にして行動したいと思う	32.6	28.7	32.3	どちらかといえば行動したいと思う	37.9		
	どちらかといえば参考にして行動したいと思わない	2.2	2.3	3.0	どちらかといえば行動したいと思わない	3.7		
	参考にして行動したいと思わない	2.5	2.5	2.8	行動したいと思わない	2.7		

1: 当該気象情報を知っていると回答した人

2: 当該気象情報を見聞きしたと回答した人

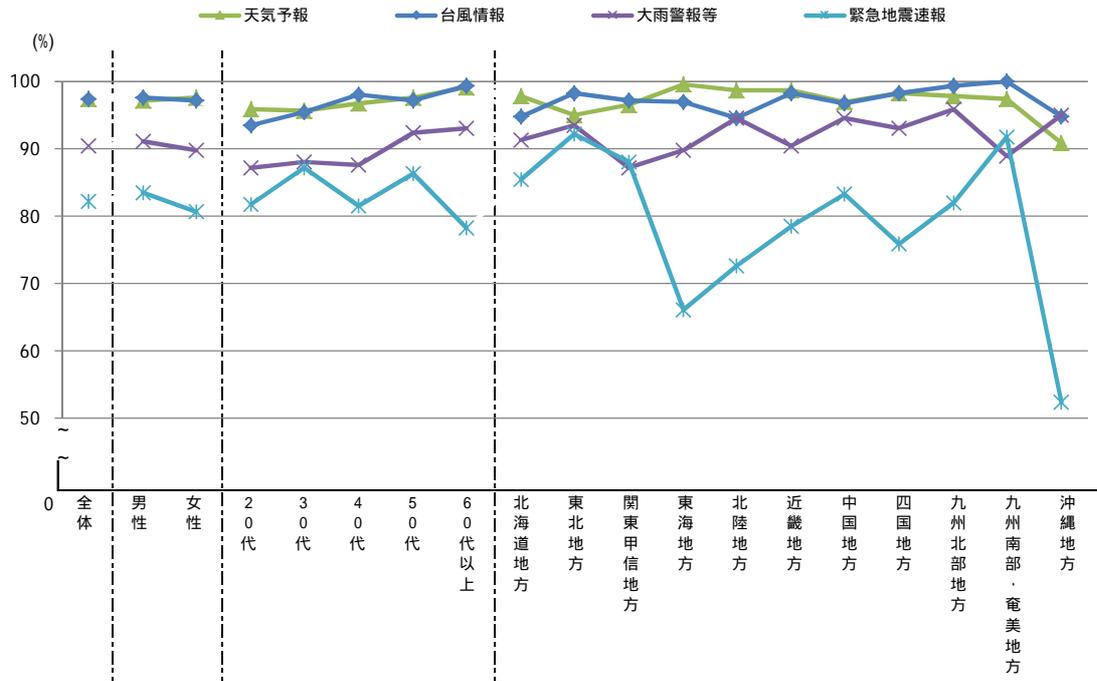
3: 当該気象情報の見聞時に行動したと回答した人



	n=	<性別>			<年代別>					<居住地別>										
		全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代以上	北海道地方	東北地方	関東甲信地方	東海地方	北陸地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州北部地方	九州南部・奄美地方	沖縄地方
台風情報	2,000	92.2	92.8	91.5	86.6	88.1	89.5	92.5	97.5	86.4	85.7	92.8	95.3	92.5	91.9	91.8	93.3	93.4	94.7	86.4
大雨警報等	2,000	92.7	93.1	92.3	88.9	89.0	91.0	93.7	96.4	92.0	88.6	93.1	91.9	92.5	93.2	92.8	96.7	93.4	94.7	90.9
緊急地震速報	2,000	94.4	93.5	95.2	90.5	92.4	93.1	94.9	97.4	94.3	92.1	96.3	93.6	96.3	91.3	92.8	96.7	94.0	94.7	95.5

数値は各気象情報を「知っている」と回答した割合。
 (天気予報は認知状況の聴取なし)
 赤字の数値はnが29以下を示している。

(図1) 属性別認知度



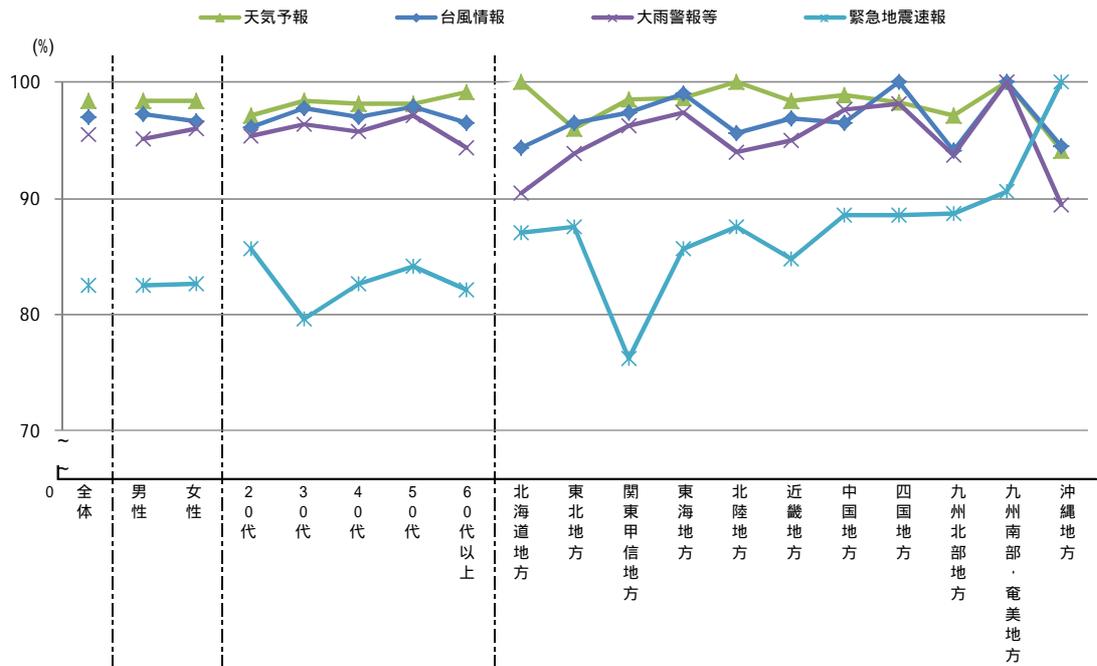
n=	< 性別 >		< 年代別 >						< 居住地別 >											
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代以上	北海道地方	東北地方	関東甲信地方	東海地方	北陸地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州北部地方	九州南部・奄美地方	沖縄地方	
天気予報	2,000	97.4	97.2	97.6	95.8	95.7	96.7	97.6	99.1	97.7	95.0	96.5	99.6	98.8	98.8	96.9	98.3	97.8	97.4	90.9
台風情報	1,843	97.4	97.6	97.2	93.4	95.5	98.0	97.1	99.4	94.7	98.3	97.1	96.9	94.6	98.3	96.6	98.2	99.4	100.0	94.7
大雨警報等	1,854	90.3	91.0	89.7	87.1	88.0	87.6	92.3	93.1	91.4	93.5	87.1	89.9	94.6	90.3	94.4	93.1	95.9	88.9	95.0
緊急地震速報	1,888	82.1	83.5	80.7	81.9	87.1	81.5	86.3	78.2	85.5	92.2	88.1	66.1	72.7	78.6	83.3	75.9	81.9	91.7	52.4

ベース：当該気象情報を認知している人

数値は各気象情報を「見聞きした」と回答した割合。
 (天気予報は「1日に2回以上」「1日に1回程度」「週に2～4回程度」「週に1回程度」「週に1回未満」を合算。)
 赤字の数値はnが29以下を示している。

天気予報のみ、全員回答設問。

(図2) 属性別見聞の有無

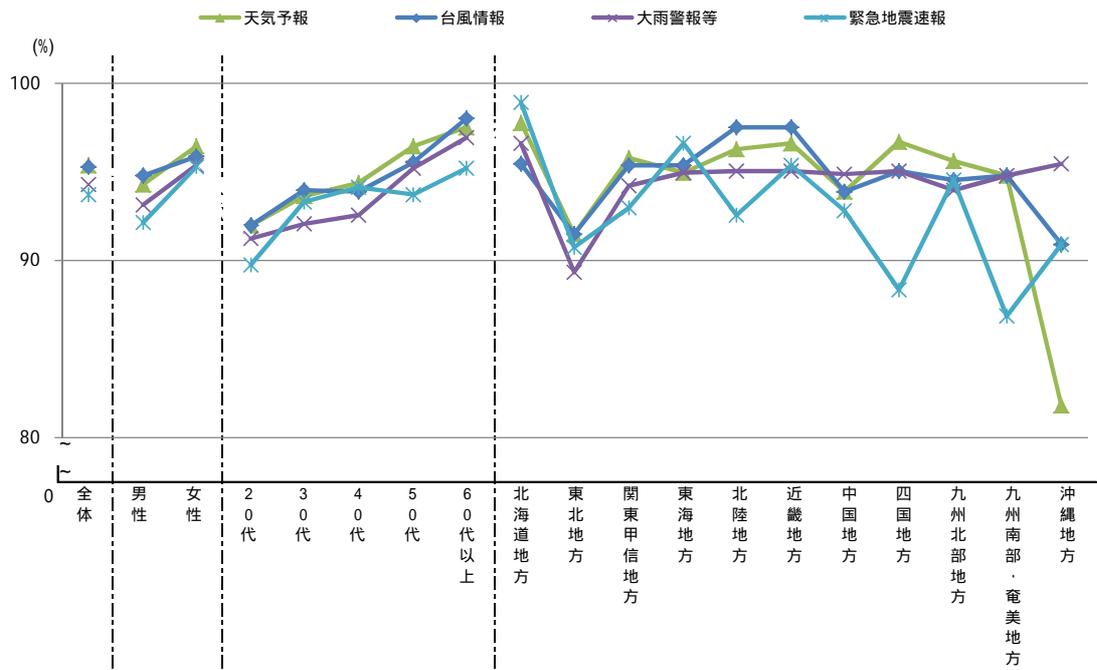


n=	< 性別 >			< 年代別 >						< 居住地別 >										
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代以上	北海道地方	東北地方	関東甲信地方	東海地方	北陸地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州北部地方	九州南部・奄美地方	沖縄地方	
天気予報	1,868	98.3	98.4	98.3	97.1	98.3	98.1	98.1	99.1	100.0	96.0	98.5	98.6	100.0	98.4	98.9	98.3	97.1	100.0	94.1
台風情報	1,752	97.0	97.3	96.7	96.1	97.7	97.1	97.9	96.5	94.4	96.5	97.3	99.1	95.6	96.9	96.5	100.0	94.0	100.0	94.4
大雨警報等	1,627	95.5	95.1	96.0	95.3	96.3	95.8	97.1	94.3	90.4	93.9	96.2	97.4	93.9	95.0	97.6	98.1	93.7	100.0	89.5
緊急地震速報	1,331	82.6	82.5	82.6	85.7	79.6	82.7	84.2	82.2	87.1	87.5	76.3	85.7	87.5	84.8	88.5	88.6	88.7	90.6	100.0

ベース：当該気象情報を見聞時に行動したと回答した人

数値は各気象情報を見聞き時に行動し、「役立った」「やや役立った」と回答した割合。赤字の数値はnが29以下を示している。

(図3) 属性別行動した人の役立ち感



n=	<性別>			<年代別>					<居住地別>											
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代以上	北海道地方	東北地方	関東甲信地方	東海地方	北陸地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州北部地方	九州南部・奄美地方	沖縄地方	
天気予報	2,000	95.4	94.3	96.4	92.0	93.6	94.4	96.4	97.5	97.7	91.4	95.8	94.9	96.3	96.6	93.8	96.7	95.6	94.7	81.8
台風情報	2,000	95.3	94.8	95.8	92.0	93.9	93.8	95.5	98.0	95.5	91.4	95.4	95.3	97.5	97.5	93.8	95.0	94.5	94.7	90.9
大雨警報等	2,000	94.3	93.1	95.3	91.2	92.1	92.6	95.2	96.9	96.6	89.3	94.1	94.9	95.0	95.0	94.8	95.0	94.0	94.7	95.5
緊急地震速報	2,000	93.7	92.1	95.2	89.7	93.3	94.1	93.7	95.2	98.9	90.7	92.9	96.6	92.5	95.3	92.8	88.3	94.5	86.8	90.9

数値は各防災気象情報について、「参考にして行動したいと思う」「どちらかといえば参考にして行動したいと思う」と回答した割合。
 (緊急地震速報は「行動したいと思う」「どちらかといえば行動したいと思う」を合算。)
 赤字の数値はnが29以下を示している。

(図4) 属性別利用意向度

第3 巻末資料

1 調査票

気象情報に関する利活用状況調査

(全員)

天気予報についてお伺いします。

Q1. あなたは、昨年1年間に「天気予報」をどの程度見聞きしましたか。あなたのお考えにもっとも近いものを1つ選んでください。ここでは、テレビやラジオ、新聞、インターネットなどで伝えられる晴れや雨、気温、降水確率などの予報を「天気予報」と言います。

1. 1日に2回以上
2. 1日に1回程度
3. 週に2~4回程度
4. 週に1回程度
5. 週に1回未満
6. 見聞きしなかった

(Q1 = 1 ~ 5)

Q2. あなたは、昨年1年間に天気予報を見聞きした後、どのような行動をとりましたか。あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも)

1. テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な情報を確認した
2. 傘や長靴などの雨具を準備した
3. 暑さや寒さに備えた服装にした
4. 洗濯を行うかどうか決めた
5. レジャーや旅行の計画の変更又は継続を決めた
6. 仕事の計画の変更又は継続を決めた
7. 熱中症に備えた
8. 家族や知り合いへ天気予報を伝えた
9. その他:
10. いつも何もしなかった

(Q2 = 1 ~ 9)

Q3. あなたが昨年1年間に天気予報を見聞きしてとった行動の結果、天気予報はどの程度役立ったと思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

1. 役立った
2. やや役立った
3. あまり役立たなかった
4. 役立たなかった

(全員)

Q4. あなたは、天気予報について、どのように思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

1. 予測の精度を上げてほしい
2. 内容を詳しくしてほしい
3. 予報が変わったことを伝えてほしい
4. どのように行動したらよいか判断できるようにしてほしい

(そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・そう思わない)

(全員)

Q5 . あなたは、今後、天気予報を参考にして行動したいと思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

- 1 . 参考にして行動したいと思う
- 2 . どちらかといえば参考にして行動したいと思う
- 3 . どちらかといえば参考にして行動したいと思わない
- 4 . 参考にして行動したいと思わない

(全員)

台風情報(台風の進路や強度に関する情報)についてお伺いします。

Q6. あなたは、「台風情報」を知っていますか。ここでは、テレビやラジオ、新聞、インターネットなどで伝えられる台風の進路や強度に関する情報を「台風情報」と言います。

1. 知っている
2. 知らない

(Q6 = 1)

Q7. あなたは、昨年1年間に台風情報を見聞きしましたか。

1. 見聞きした
2. 見聞きしなかった

(Q7 = 1)

Q8. あなたは、昨年1年間に台風情報を見聞きした後、どのような行動をとりましたか。あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも)

1. テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な気象情報を確認した
2. 市区町村による避難情報を確認した
3. 家族や知り合いへ情報を伝えた
4. 外出を控えた
5. 通勤や通学をするかどうかを決めた
6. レジャーや旅行の計画の変更又は継続を決めた
7. 仕事の計画の変更又は継続を決めた
8. 避難又は避難の準備を行った
9. その他:
10. いつも何もしなかった

(Q8 = 1 ~ 9)

Q9. あなたが昨年1年間に台風情報を見聞きしてとった行動の結果、台風情報はどの程度役立ったと思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

1. 役立った
2. やや役立った
3. あまり役立たなかった
4. 役立たなかった

(Q6 = 1)

Q10. あなたは、台風情報について、どのように思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

1. 台風の進路や強度の予測精度を上げてほしい
2. 台風の進路予報や予報円の図(台風がどこに進むのか)をわかりやすくしてほしい
3. 自分のいる地域での危険な状況(程度)をわかりやすくしてほしい
4. どのように行動したらよいか判断できるようにしてほしい

(そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・そう思わない)

(全員)

Q11. あなたは、今後、台風情報を参考にして行動したいと思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

1. 参考にして行動したいと思う
2. どちらかといえば参考にして行動したいと思う
3. どちらかといえば参考にして行動したいと思わない
4. 参考にして行動したいと思わない

(全員)

大雨警報等についてお伺いします。

Q12. あなたは、「大雨警報等」を知っていますか。ここでは、テレビやラジオ、新聞、インターネットなどで伝えられる大雨注意報、大雨警報、土砂災害警戒情報を「大雨警報等」と言います。

1. 知っている
2. 知らない

(Q12=1)

Q13. あなたは、昨年1年間に自分のいる地域を対象とした大雨警報等を見聞きしましたか。

1. 見聞きした
2. 見聞きしなかった

(Q13=1)

Q14. あなたは、昨年1年間に自分のいる地域を対象とした大雨警報等を見聞きした後、どのような行動をとりましたか。あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも)

1. テレビ、ラジオ、インターネット等から最新、詳細な気象情報を確認した
2. 市区町村による避難情報を確認した
3. 家族や知り合いへ情報を伝えた
4. 外出を控えた
5. 通勤や通学をするかどうかを決めた
6. レジャーや旅行の計画の変更又は継続を決めた
7. 仕事の計画の変更又は継続を決めた
8. 避難又は避難の準備を行った
9. その他:
10. いつも何もしなかった

(Q14=1~9)

Q15. あなたが昨年1年間に大雨警報等を見聞きしてとった行動の結果、大雨警報等はどの程度役立ったと思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

1. 役立った
2. やや役立った
3. あまり役立たなかった
4. 役立たなかった

(Q12=1)

Q16. あなたは、大雨警報等について、どのように思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものをそれぞれ1つずつ選んでください。

1. 雨量の予測精度を上げてほしい
2. 発表のタイミングを早くしてほしい
3. 自分のいる地域での危険な状況(程度)をわかりやすくしてほしい
4. どのように行動したらよいか判断できるようにしてほしい

(そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・そう思わない)

(全員)

Q17. あなたは、今後、大雨警報等を参考にして行動したいと思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

1. 参考にして行動したいと思う
2. どちらかといえば参考にして行動したいと思う
3. どちらかといえば参考にして行動したいと思わない
4. 参考にして行動したいと思わない

(全員)

緊急地震速報についてお伺いします。

Q18. あなたは、「緊急地震速報」を知っていますか。緊急地震速報には「警報」と「予報」がありますが、本調査では両方合わせて、「緊急地震速報」として質問しています。緊急地震速報は、テレビやラジオ、携帯電話（緊急速報メール）、スマートフォン、防災行政無線などによって伝えられます。緊急地震速報は、地震が発生した直後、地震による強い揺れが伝わる前に発表される予測情報で、地震の揺れが伝わった後に各地の詳しい震度が伝えられる「地震情報」とは異なります。

1. 知っている
2. 知らない

(Q18 = 1)

Q19. あなたは、日頃から緊急地震速報を見聞きしたときにとるべき行動をあらかじめ決めてありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. とるべき行動をあらかじめ決めている 1
2. ある程度は意識しているが、具体的な行動は決めていない 2
3. とるべき行動は何も決めていない

とるべき行動をあらかじめ決めている 1 (例)

- ・机の下などにもぐる
- ・家具や棚（たな）などから離れる
- ・家具や棚（たな）などを押さえる
- ・周りの人に地震が来ることを知らせる
- ・近くの安全な場所に移動する
- ・安全な場所なら揺れに備えて身構える
- ・ドアなどを開けて逃げ道を確保する
- ・外に出る

ある程度は意識しているが、具体的には決めていない 2 (例)

- ・周囲の状況認識をしようと思う
- ・安全な場所を探そうと思う

(Q18 = 1)

Q20. あなたは、自分のいる地域を対象とした緊急地震速報を見聞きしたことがありますか。

1. 見聞きしたことがある
2. 見聞きしたことがない

(Q20 = 1)

Q21. あなたは、自分のいる地域を対象とした緊急地震速報をどのような手段で見聞きしましたか。あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも)

1. テレビ
2. ラジオ
3. 携帯電話・スマートフォンの緊急速報メール
4. スマートフォンの緊急地震速報受信アプリ
5. パソコンの緊急地震速報受信ソフト
6. 緊急地震速報の専用受信装置（専用端末、CATVのオプション端末など）
7. 学校や職場、ショッピングセンターや病院等での呼びかけや放送など
8. 市区町村の防災行政無線
9. その他：

(Q20 = 1)

Q22 . あなたは、自分のいる地域を対象とした緊急地震速報を見聞きして、どのような行動をとったことがありますか。あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも)

- 1 . 揺れに備えて身構えた
- 2 . 周りの人に地震が来ることを知らせた
- 3 . 頭を守る、机の下に身を隠すなどその場で身を守った
- 4 . 子どもや家族など身のまわりの人を守った
- 5 . 棚などの家具が倒れないように押さえた
- 6 . 火を消した
- 7 . ドアなどを開けて逃げ道を確保した
- 8 . 屋内から屋外へ出た
- 9 . テレビやラジオ、携帯電話などで最新、詳細な地震情報を知ろうとした
- 10 . その他 :
- 11 . いつも何もしなかった (できなかった)

(Q22 = 1 ~ 10)

Q23 . あなたが、緊急地震速報を見聞きしてとった行動の結果、緊急地震速報はどの程度役立ったと思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものを 1 つ選んでください。

- 1 . 役立った
- 2 . やや役立った
- 3 . あまり役立たなかった
- 4 . 役立たなかった

(Q23 = 3 ~ 4)

Q24 . 緊急地震速報を見聞きしてとった行動の結果は、あなたにとって、どのような点で「あまり役立たなかった」または「役立たなかった」と思いましたか。あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも)

- 1 . 緊急地震速報を見聞きしたときは、急なことで何をしたらいいか分からなかったから
- 2 . 緊急地震速報を見聞きしたときには、すでに揺れが始まっていたから
- 3 . 強い揺れが来るという発表だったのに、実際には弱い揺れしか来なかった (あるいは、全く揺れなかった) から
- 4 . 自分のいた場所は揺れても安全だったから
- 5 . 自分のいた場所は身を守るのに適切な場所がなかったから
- 6 . その他 :

(Q18 = 1)

Q25 . あなたは、緊急地震速報について、何を期待しますか。最も期待すること、2 番目に期待すること、3 番目に期待することまで選んでください。

- 1 . 最も期待すること
- 2 . 2 番目に期待すること
- 3 . 3 番目に期待すること

(緊急地震速報の発表から強い揺れが到達するまでの時間 (猶予時間) を長くしてほしい

- ・ 震度 (地震の揺れの強さ) の予測精度を上げてほしい
- ・ 現状より小さい地震の予測も伝えてほしい
- ・ 外国人や高齢の方、耳や目が不自由な方に伝わりやすくする工夫をしてほしい
- ・ 地震の揺れが来るまでの短時間で何ができるのかを周知・広報してほしい
- ・ 緊急地震速報を使って日頃から訓練できる仕組みを作ってほしい
- ・ より手軽に緊急地震速報が受けられるようにしてほしい 具体的な手段の提案があれば記入してください
- ・ その他 :
- ・ 特にない)

(全員)

Q26 . あなたは、今後、緊急地震速報を見聞きして行動したいと思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものを 1 つ選んでください。

- 1 . 行動したいと思う
- 2 . どちらかといえば行動したいと思う
- 3 . どちらかといえば行動したいと思わない
- 4 . 行動したいと思わない

(全員)

気象情報の入手手段についてお伺いします。

Q27. 現在、あなたが天気予報や大雨警報などの気象情報を入手する手段は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも)

1. テレビ
2. 新聞(紙面)
3. ラジオ
4. 電話音声(177 天気予報電話サービス等)
5. 電子メール
6. ウェブサイト
7. スマートフォンアプリ
8. SNS(ソーシャル ネットワーキング サービス)
9. 公衆向け掲示施設(列車、駅構内、エレベータ、店舗、屋外などに設置されている映像装置を利用した広告や案内表示)
10. 市区町村の防災行政無線
11. 周囲の人(家族、友人、職場の同僚等)との会話
12. その他:
13. 入手していない

(Q27=5~8)

Q28. あなたが、電子メール、ウェブサイト、スマートフォンアプリ、SNS を通じて入手する気象情報の提供元はどこですか。あてはまるものを全て選んでください。(いくつでも)

1. 気象庁
2. 国(気象庁を除く)や地方公共団体
3. 民間(情報料無料) 入手元の会社名やウェブサイト、アプリなどがわかれば全て記入願います:
4. 民間(情報料有料) 入手元の会社名やウェブサイト、アプリなどがわかれば全て記入願います:
5. わからない

(Q28=4)

Q29. 民間(情報料有料)の情報料は月々いくらですか。複数の民間に支払っている場合は、合計金額をお答えください。(半角数字でご記入ください)

__円(税込み)

(Q28=1~3、5)

Q30. あなたが、情報料を支払って民間から気象情報を入手しない理由は何ですか。あなたのお考えにもっとも近いものを1つ選んでください。

1. 気象庁や民間などの無料で入手できる気象情報で十分だから
2. 情報料を支払って民間から気象情報を入手できることを知らなかったから
3. 情報料が高いと感じるから
4. その他:
5. 特にない

(全員)

Q31. あなたが、天気予報や大雨警報などの気象情報を入手する手段のうち、今後、情報のさらなる充実を期待しているものは何ですか。最も期待するもの、2番目に期待するもの、3番目に期待するものまで選んでください。

1. 最も期待するもの
2. 2番目に期待するもの
3. 3番目に期待するもの

(テレビ・新聞(紙面)・ラジオ・電話音声(177 天気予報電話サービス等)・電子メール・ウェブサイト・スマートフォンアプリ・SNS(ソーシャル ネットワーキング サービス)・公衆向け掲示施設(列車、駅構内、エレベータ、店舗、屋外などに設置されている映像装置を利用した広告や案内表示)・市区町村の防災行政無線・周囲の人(家族、友人、職場の同僚等)との会話・その他:・特にない)

(全員)

安全知識の普及啓発についてお伺いします。

Q32 . あなたは、気象庁が気象や地震などの自然現象に対する安全知識の広報・普及に関する取り組みを行っていることを知っていますか。

- 1 . 知っている
- 2 . 知らない

(全員)

Q33 . あなたは、5 年前と比べて、気象や地震などの自然現象に対する防災行動を自らの判断で行うことができる世の中になってきたと思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものを 1 つ選んでください。

- 1 . そう思う
- 2 . どちらかといえばそう思う
- 3 . どちらかといえばそう思わない
- 4 . そう思わない
- 5 . わからない

以上

2 調査対象割付

回収数	男性					女性					計
	20代	30代	40代	50代	60-70代	20代	30代	40代	50代	60-70代	
北海道	5	7	8	7	15	5	7	8	8	18	88
青森県	1	2	2	2	4	1	2	2	2	4	22
岩手県	1	2	2	2	4	1	1	2	2	4	21
宮城県	3	3	3	3	6	2	3	3	3	6	35
秋田県	1	1	1	1	3	1	1	1	2	4	16
山形県	1	1	1	2	3	1	1	1	2	3	16
福島県	2	2	3	3	5	2	2	2	3	6	30
茨城県	3	4	5	4	8	3	4	4	4	9	48
栃木県	2	3	3	3	5	2	2	3	3	6	32
群馬県	2	2	3	3	5	2	2	3	3	6	31
埼玉県	8	10	13	10	19	8	9	12	9	21	119
千葉県	7	8	10	8	17	6	8	10	8	18	100
東京都	16	21	24	18	29	16	20	23	16	32	215
神奈川県	10	13	16	12	22	10	12	15	11	24	145
新潟県	2	3	3	3	7	2	3	3	3	7	36
富山県	1	1	2	1	3	1	1	2	1	3	16
石川県	1	1	2	1	3	1	1	2	1	3	16
福井県	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	12
山梨県	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	12
長野県	2	3	3	3	6	2	2	3	3	6	33
岐阜県	2	2	3	3	6	2	2	3	3	6	32
静岡県	4	5	6	5	10	3	4	5	5	11	58
愛知県	9	11	13	9	18	8	10	12	9	19	118
三重県	2	2	3	2	5	2	2	3	2	5	28
滋賀県	2	2	2	2	3	1	2	2	2	4	22
京都府	3	3	4	3	7	3	3	4	3	8	41
大阪府	9	11	14	11	22	9	11	15	11	25	138
兵庫県	5	7	8	7	14	5	7	9	7	16	85
奈良県	1	2	2	2	4	1	2	2	2	4	22
和歌山県	1	1	1	1	3	1	1	1	1	3	14
鳥取県	1	1	1	1	2	0	1	1	1	2	11
島根県	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	12
岡山県	2	2	3	2	5	2	2	3	2	6	29
広島県	3	4	4	4	7	3	4	4	4	8	45
山口県	1	2	2	2	4	1	2	2	2	5	23
徳島県	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	12
香川県	1	1	1	1	3	1	1	1	1	3	14
愛媛県	1	2	2	2	4	1	2	2	2	4	22
高知県	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	12
福岡県	5	7	7	6	13	5	7	8	7	15	80
佐賀県	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	12
長崎県	1	2	2	2	4	1	2	2	2	4	22
熊本県	2	2	2	2	5	2	2	2	3	5	27
大分県	1	1	2	1	3	1	1	2	2	4	18
宮崎県	1	1	1	1	3	1	1	1	2	3	15
鹿児島県	1	2	2	2	4	1	2	2	2	5	23
沖縄県	2	2	2	2	3	2	2	2	2	3	22
合計	134	168	197	165	328	128	160	193	167	360	2,000